

平成 26 年度 東海林ゼミ活動報告書

平成 27 年 1 月

東洋大学国際地域学部国際観光学科

目次

第Ⅰ章. はじめに	3
第Ⅱ章. 1年間の歩み	4
第Ⅲ章. 情報発信事業	7
1. 白山まつり情報発信事業	8
2. 根津・千駄木下町まつり情報発信事業	11
3. ブログ	16
第Ⅳ章. 出店事業報告	20
1. 白山まつり出店事業	21
① 総務班報告	21
② 調査班報告	30
③ 会計班報告	51
2. 根津・千駄木下町まつり出店事業	52
① 総務班報告	52
② おもち販売報告	59
③ 調査班報告	66
④ 会計班報告	90
3. 各出店事業共通項目	91
① つなぎ（広報班）	91
② 材料準備及びレシピ	93
第Ⅴ章. 調査報告	103
第Ⅵ章. 9期生対象ゼミ説明会報告	127
第Ⅶ章. 谷根千調査隊プロジェクト報告	130
第Ⅷ章. 阿寒湖エコツアーに関する調査報告	136
第Ⅸ章. 1年を振り返って	163
第Ⅹ章. ゼミ活動会計報告	168
第ⅩⅠ章. 編集後記	171

第Ⅰ章. はじめに

私たち東海林ゼミでは、観光資源を活用した地域づくりや地域振興のあり方について研究しています。OJT による体験型学習事業の一環として、根津・千駄木下町まつりに参加し、「実物に触れ」「実践し」「論理的に思考する」ことを通じて実践的な観光学を学んでいます。身近なものに対して常に疑問や関心を抱き、答えを追及しています。お祭りの出店事業が観光産業の何に関係があるのか疑問に思われるかもしれません。しかし、出店事業は「生きた観光学」が凝縮された宝庫です。

例えば、根津・千駄木まつり利用実態調査は、利用者の消費者行動特性や意識把握の市場調査手法の演習となります。また、たい焼きやカルメ焼きの需要予測は、利用者数の時間変動に応じた販売量の予測演習にもなります。他にも収支予測や工程管理などの出店事業から学ぶことはたくさんありました。

また、阿寒湖畔温泉の観光客が年々減少していることを課題と考え、ゼミ合宿を利用したエコツーリズムについての調査を行い、学生目線の観光振興の方策を考えました。

このように、座学で学んだ観光学の理論を、実体験から学ぶことができました。

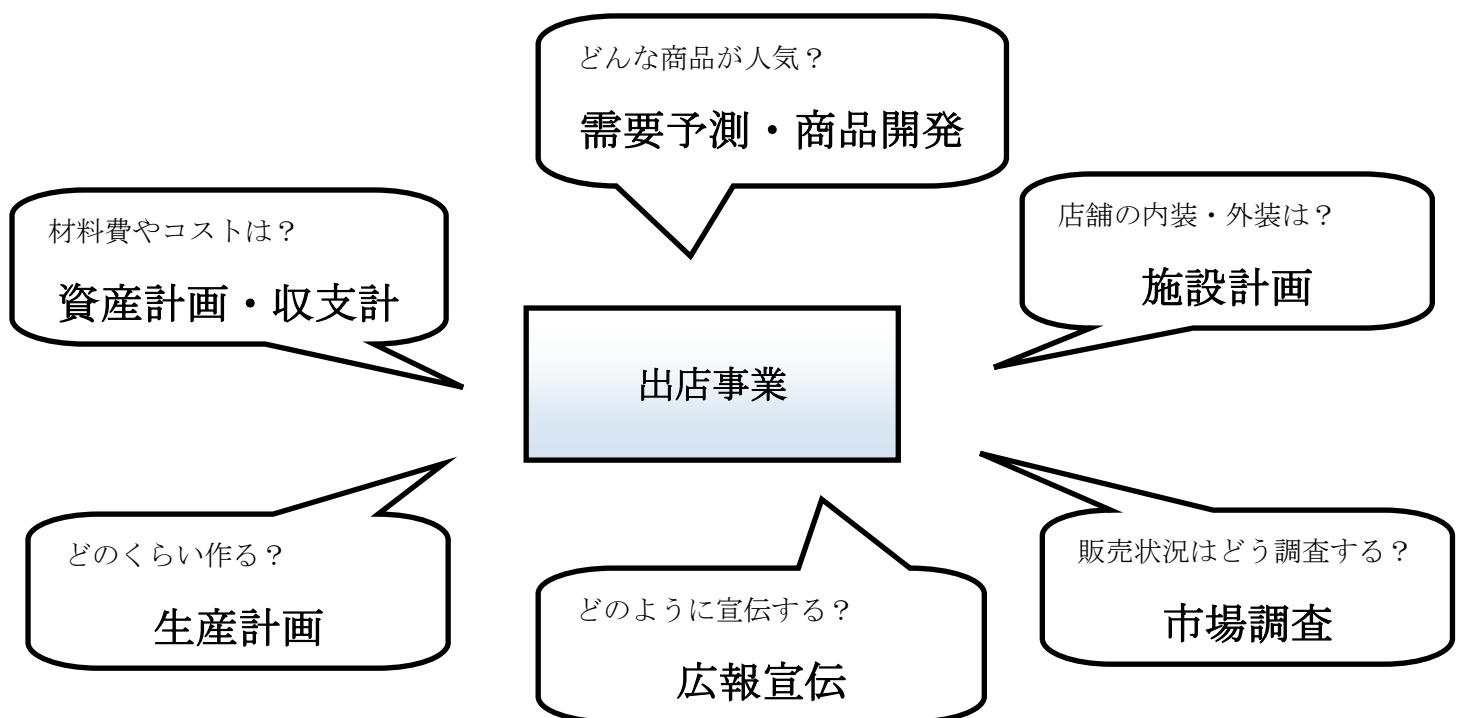
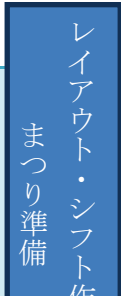


図:出店事業と観光学の理論との関連事項

第Ⅱ章. 1年間の歩み (第8期生)

	ゼミ活動	総務班	広報班	調査班	会計班
11/27(水)	8期生配属決定日				
12/10(火)	7・8期生顔合わせ				
2/23(日)	7・8期生鍋会				
4/8(火)	ゼミガイダンス				
4/15(火)	7期生から班の紹介				
4/22(火)	班決め・代々木合宿の 部屋決め・懇親会				
4/25(金)・ 26(土)	代々木ゼミ合宿	年間スケジュー ール決め	ガイドのテー マ決め	調査のテーマ 決め	阿寒湖畔調査 のテーマ決め
4/29(火)	情報演習	練習会段取り	つながぎ発注・ ガイド	下町まつりア ンケート項目 作成	
5/13(火)	練習会 (たい焼き)	練習会指示出 し	つながぎデザイ ン決め・ガイ ド		
5/20(火)	現状報告会・勉強 会	練習会段取り			
5/27(火)	練習会 (カルメ焼き)	練習会指示出 し		下町まつりス トーキング調 査会議	
6/3(火)	情報演習	反省会		下町まつり概 要調査	事前アンケー トの作成・実 施・集計
6/10(火)	練習会 (お餅)				
6/17(火)	卒論テーマ発表			下町まつり下 見	
6/24(火)	たい焼き味実験				

7/1(火)	屋台のレイアウト決め	レイアウト・シフト作成・まつり準備		汐見地域活動センター所長へ挨拶	
7/8(火)	卒論発表・現状報告会			アンケート作成	
7/15(火)	全体練習会				現地アンケートの作成
7/22(火)	ゼミ合宿説明				
8/5(火)	練習会（たい焼き・カルメ焼き）		つなぎ作成		
8/12(火)	練習会（たい焼き・カルメ焼き）				
8/26(火)	練習会（たい焼き・カルメ焼き）				
9/4(木)	白山まつり前日準備				
9/5(金)	白山まつり				
9/9(火)～ 9/13(土)	北海道ゼミ合宿				現地アンケート実施
9/23(火)	ecute グループ決め・各班現状報告	下町まつり準備	ガイド作成	アンケート・HP作成	
9/30(火)	ecute グループ発表・投票				
10/7(火)	ecute 話し合い・下町まつり準備				現地アンケート集計
10/14(火)	練習会（たい焼き・カルメ焼き・お餅）				
10/17(金)	下町まつり準備				
10/18(土)・ 19(日)	下町まつり				
10/21(火)	ゼミ全体説明会 今後のスケジュール見直し		ゼミ説明会準備・実施	下町まつり集計	

10/30(火)	ゼミ個別説明会				
11/4(火)	ecute・ゼミ長副 ゼミ長選考				
11/11(火)	9 期生 ES 選考・ ecute(坂)				
11/18(火)	ペットツーリズム ムシンポジウム 運営補助		ガイド作成		
11/25(火)	卒論発表		ガイド・報告 書作成		アンケート・ 調査結果の分 析
12/2(火)	自習				報告書作成
12/9(火)	7 期生からの就活 アドバイス				
12/16(火)	9 期生との顔合わ せ				

情報発信事業

第Ⅲ章. 情報発信事業

1. 白山まつり情報発信事業

(1) ホームページ事業

第51回白山まつりのホームページをリニューアルした。



ホームページビルダー18を使用し、約3か月かけて完成した。情報を極限まで減らすことでわかりやすい情報提示を目標に作成した。

① 白山まつりとは



② 白山地域の紹介



地域の紹介で、東洋大学に関する記述を加えたことが特徴である。第50回の節目で開催した華やかな様子の写真を利用できてよかったと思う。

③ イベントスケジュール



会場MAPが事前に把握できるようにHPに画像を添付した。また、イベントの開催時間を調べ載せることで利用者が利用しやすいように心がけた。

④ アクセス



昨年度と異なる点は、グーグルマップをホームページ上に作成し、近隣の土地の把握がしやすいように心がけた。また、従来の簡易MAPも載せることで、利用者がわかりやすい方を利用してもらえるようにした。

反省・まとめ

白山まつりのホームページ事業は、ホームページビルダーの使い方が全く分からない状態から始めたため、作り直しが何回も発生し、膨大な時間を費やしてしまった。また、完成目標が1か月前だったが、8月12日に投稿したため、期限がぎりぎりになってしまったことが反省である。そして、なによりの問題点が、インターネット上で「白山まつり」と検索しても第51回のホームページがTOPに出てこないためたどりつくまでに時間がかかり閲覧してもらえていない可能性が高いことである。東海林ゼミのホームページを経由し閲覧しなければならないことが反省である。

来年以降、またホームページを作成する際は余裕をもって作成に臨んでほしい。

2. 根津・千駄木下町まつり情報発信事業報告

(1) HP 作成

前年に作成した HP を、今年も継続して情報発信ができるよう更新した。

<http://shoji.art.coocan.jp/festival/>

下町情緒がたっぷり。地元の人達による手作りのおまつりです。

根津・千駄木下町まつり

このHPは、下町まつり実行委員会と連携しながら、東洋大学の国際観光学科の東海林ゼミが作成しています。

● トップページ TOP PAGE ● 下町まつり CONCEPT ● イベント内容 MENU ● 交通案内 ACCESS ● リンク LINK

開催予定

おまつりのブログ

開催結果

根津・千駄木の紹介

おまつり新聞



毎年10月に開催される「根津・千駄木下町まつり」は、平成11年から始まった地元の人達によるおまつりです。根津・千駄木地区は、江戸時代や昭和の町の風情を残した町です。台東区の谷中から文京区の根津・千駄木地区は「谷根千（やねせん）」と呼ばれ、古き良き下町情緒があふれた地域として人々に親しまれています。

※天候に左右されるフリーマーケットや各種イベントの実施の有無については、おまつり当日の朝に、このホームページにてお知らせします!



根津・千駄木下町まつり
(東京都文京区)

下町情緒がたっぷり。地元の人達による手作りのおまつりです。

次の開催予定

● トップページ TOP PAGE ● 下町まつり CONCEPT ● イベント内容 MENU ● 交通案内 ACCESS ● リンク LINK

開催予定

おまつりのブログ

開催結果

根津・千駄木の紹介

おまつり新聞

○ 平成26年度 第16回下町まつりの開催予定 news

10月18日(土)～19日(日)の2日間です

情緒あふれる粋なまち、根津・千駄木地域で開催されます。メイン会場は、つつじの名所としても知られる根津神社です。

※実行委員会作成の
おまつりのパンフレットはこちら (PDFファイル)



根津・千駄木下町まつり
(東京都文京区)

の国の下町まつりも、ごまご間社!

メイン会場の根津神社境内、街中に点在している8つのサブ会場では、模擬店やフリーマーケット、大道芸など下町まつりならではのイベントを楽しむことができます。また、昨年は森鷗外生誕150周年に当たる年であり、森鷗外記念館が開館しました。この森鷗外記念館も新たにサブ会場の一つです。



(2) 下町まつりミニガイド

7期生広報班では、10月18日(土)19日(日)に根津千駄木地域で行われる「根津・千駄木 下町まつり」においてサブ会場を紹介するミニガイドの作成を行った。

①目的

テーマ：「サブ会場を多くの人に知ってもらい、足を運んでもらおう。」

下町まつりでは、メイン会場である根津神社のほかに、根津・千駄木地域に8箇所のサブ会場がある。それぞれに特色のある催しや出店を行っているが、例年の調査班の報告によると、メイン会場に比べてサブ会場に足を運ぶ人数が少ないことが指摘されている。その要因のひとつとして認知度の低さが挙げられると考え、その向上を目指した。そのため今回のミニガイドではサブ会場を主に取り上げることで、より多くの来場者へのサブ会場のPRを行うことを目的とした。

②概要

配布日時：11月18日(土)19日(日) 下町まつり開催中

配布場所：メイン会場(根津神社)、サブ会場(8か所)

発行部数：2,000部

③作成過程

ア. 表紙作成(表紙)

表紙には、メイン会場であり根津・千駄木地域のシンボルともいえる根津神社の写真を用いた。

イ. インタビュー(中面)

8箇所のサブ会場について、①今年はどのような催しを行うか、②普段はどのような地域か、③下町まつりの運営にあたる思い、といった3項目を中心にお話を伺った。

インタビューには各サブ会場の運営に関わる10人の方々にご協力いただいた。

ウ. 記事作成(中面)

「下町まつりさんぽ帖」と題し、各サブ会場を紹介する記事の作成を行った。インタビュー内容を踏まえ、それぞれ文章にまとめ、紹介する写真を2点ほど添付した。

記事の内容は催し物の内容に重点をおき、各会場にキャッチフレーズをつけることで、各サブ会場の雰囲気をイメージしやすくなるよう工夫した。

エ. 地図作成(裏表紙)

i) サブ会場地図

サブ会場をまわる無料のシャトルバスの周知も兼ねて、根津千駄木地域の全体

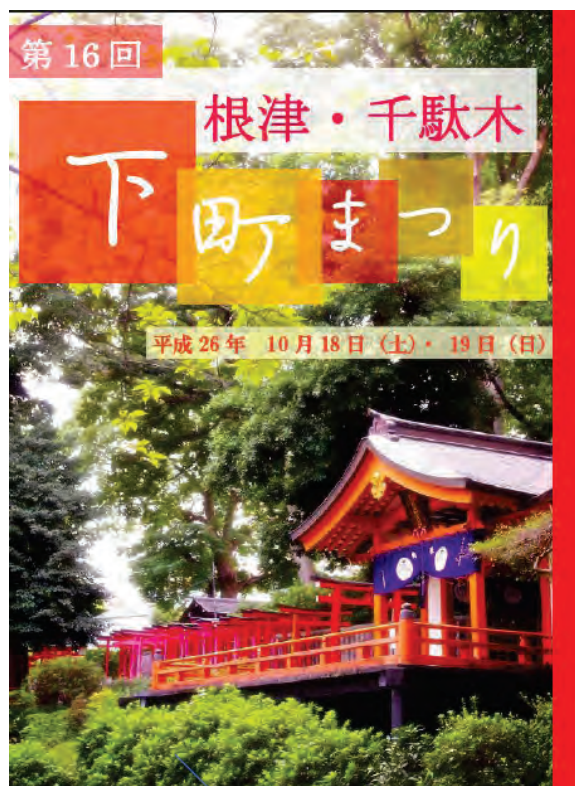
地図で各サブ会場を示した。

ii) メイン会場地図

メイン会場でも配布を行うことから、メイン会場の施設及び出店の内容及び位置を示した地図を作成した。

④記事図案

(表紙・裏表紙)



(中面)



⑤課題点

作業における課題点としては、インタビューに時間をかけてしまい、記事の作成に十分な時間を費やすことができなかった。そのため、スケジュールの管理及び計画の修正が適切に行えていなかったことが課題として挙げられる。

成果としての課題点は、このミニガイドがどのような方々の手に届き、どのような効果をもたらしたのかまで追うことができなかった。

⑥まとめ

実際に運営に携わってる方からお話をきくことで、地域住民の方々や来場者に「楽しんでもらいたい」という思いで取り組まれているということを知ることができた。人への思いと地域への思いを感じることができた。私たち7期生にとっては、下町まつりに出店する側として参加することは今年が最後であったが、今後サブ会場がどのように継承され、良い意味で変化していくかが非常に楽しみである。

最後に、作成のスタート時からご協力を頂いた汐見地域活動センターの小谷野所長と、各サブ会場のインタビューにご協力していただいた皆様に感謝を申し上げます。

3. ブログ

去年の6期生に引き続き、根津・千駄木、白山地域とゼミ活動等についてのブログを年間通して更新した。

(1) 事業目的

根津・千駄木、白山地域の魅力を学生の視点から発信していこうという目的のもと実施した。ブログを情報発信媒体にすることで多くの人が閲覧可能である。また、学生から見た街の魅力を発信することで地域の活性化を促す効果があると考え実施した。

(2) 発信方法

無料ホームページレンタルサーバー「FC2」を活用した。定期的に更新することで根津・千駄木、白山地域の魅力を発信した。

(3) 更新内容

更新日付とタイトル、内容は以下のとおりである。

表：ブログ内容一覧

No.	日付	タイトル	内容
1	2014/06/03	東海林ゼミ7期生ブログスタート！	ゼミ紹介
2	2014/06/10	谷根千さんぽ	地域紹介
3	2014/06/17	あじさいまつり	お祭り紹介
4	2014/06/24	練習会の様子	ゼミ紹介
5	2014/07/08	7期生紹介	ゼミ紹介
6	2014/07/15	ロールプレイング&係紹介	ゼミ紹介
7	2014/07/25	文京区 六義園	地域紹介
8	2014/08/05	真夏の☆白山上商店街	地域紹介
9	2014/08/14	今年もやります！白山まつり★	お祭り紹介
10	2014/09/10	白山まつり！	お祭り紹介
11	2014.09.23	白山グルメレポート♪	地域紹介
12	2014/09/30	団子坂特集	地域紹介
13	2014/10/14	2014年下町まつり開催！	お祭り紹介

①ホームページおよびブログ

■カテゴリ

- 下町まつりの紹介 (19)
- 下町まつりサブ会場紹介 (7)
- 根津・千駄木見どころ紹介 (11)
- ゼミ活動報告 (13)
- 東洋大学 (5)
- 未分類 (13)
- 白山見どころ紹介 (6)
- 白山まつり (2)
- 紹介 (2)

■最新記事

- 2014年 下町まつり開催！ (10/14)
- 団子坂特集 (09/30)
- 白山ダルメレポート♪ (09/23)
- 白山まつり！ (09/10)
- 今年もやります！白山まつり★ (08/14)

■最新コメント

- ひさこ・千駄木カフェさん♪ (07/08)

■最新トラックバック

- ケノーベル エージェント・ゲノーベルからリンクのご案内 (2013/06/26 08:47) (06/26)

■月別アーカイブ

- 2014/10 (1)
- 2014/09 (3)
- 2014/08 (2)
- 2014/07 (3)
- 2014/06 (4)
- 2013/11 (4)
- 2013/10 (4)

2014.08.14 今年もやります！白山まつり★

未分類

こんにちは東海林ゼミです。

今回は、9月6日(土)・7日(日)に行われる白山まつりについて紹介します！

白山まつりは今年で51回目を迎える歴史的なお祭りです。

開催場所は白山上商店街です。

駒本小学校鼓笛隊による演奏からはじまり

いろいろなブースやイベントを用意して皆様をお迎えします。

昨年も参加して下さったサムライビッグバンドに秋田孝訓さんが加わり、

今年は、いつもとは違ったパフォーマンスを披露して下さいさること間違いなしです！！

我々東海林ゼミは毎年たい焼きとカルパç焼きを出店していますが、今年はどうなるのでしょうか

楽しみですな



②アクセス分析

ア. 月別アクセス解析

根津・千駄木下町まつりが開催される10月のアクセス回数が最も高いことが分かった。また、白山まつりが開催される9月のアクセスも多いことから、閲覧者のお祭りへの興味・関心の高さが分かった。

年/月	ユニークアクセス	トータルアクセス	グラフ
2014/01			0.0%
2014/02			0.0%
2014/03			0.0%
2014/04			0.0%
2014/05			0.0%
2014/06			0.0%
2014/07			0.0%
2014/08	157	318	49.4%
2014/09	180	536	33.6%
2014/10	304	761	39.9%
2014/11	163	322	50.6%
2014/12	54	102	52.9%
合計	858	2,039	

図1：月別アクセス数

イ. 10月アクセス分析

10月是最もアクセス数が多く、根津・千駄木下町まつりをインターネットで検索した際にブログを見た人が多かったことが分かる。下町まつり開催日の18日、19日はアクセス数が高くなったが、28日も80人以上の人のアクセスがあった。

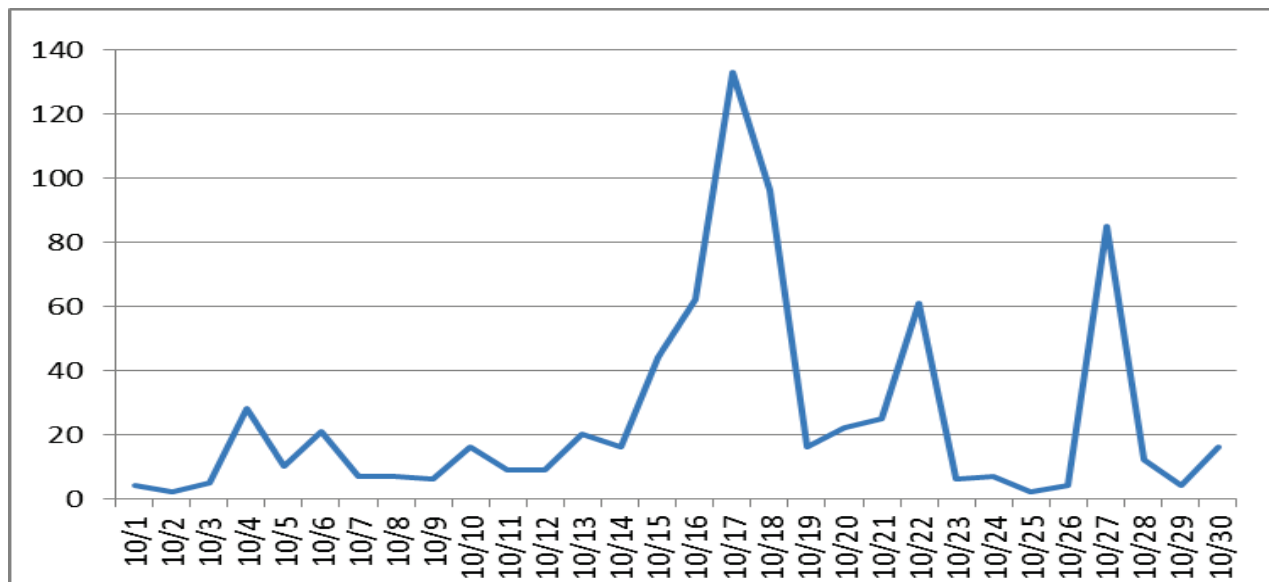


図2：10月アクセス数

ウ. 都道府県別閲覧数

アクセス状況を都道府県別に見ると、東京都のアクセス数が最も高いことが分かった。

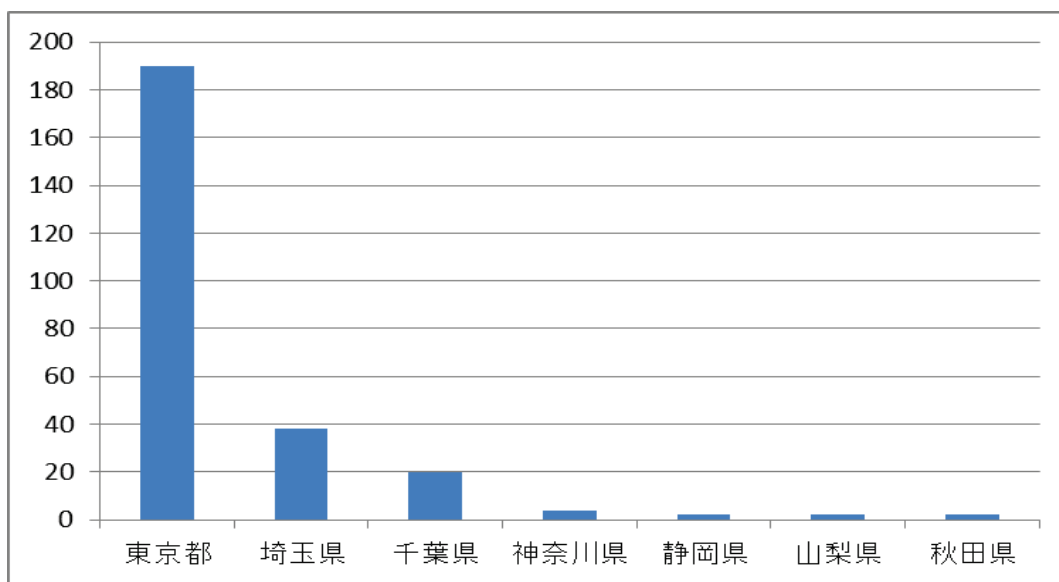


図3：10月都道府県別訪問者

エ. まとめ

図1よりブログの閲覧数は白山まつり開催時期の9月と、根津・千駄木市や町まつり開催時期の10月が高いことが分かる。また、大きなイベントが開催されない11月、12月のアクセス数は低くなった。つまり、街のイベントの開催時期とブログの閲覧数には関連性が高いことが明らかとなった。

地域イベントの開催時期に合わせて、関連した記事を書くことで情報を効果的に発信することが可能である。また、そのイベント関連以外の記事を書くことで、根津・千駄木や白山地域のまだ知らない情報や魅力を伝えることができると考えられる。

今後は地域のイベントと街の魅力を関連付けた記事を書くことで、「もう一度訪れたい」と関心を持ってもらえるような内容を発信していく必要がある。

出店事業報告

第Ⅳ章. 出店事業報告

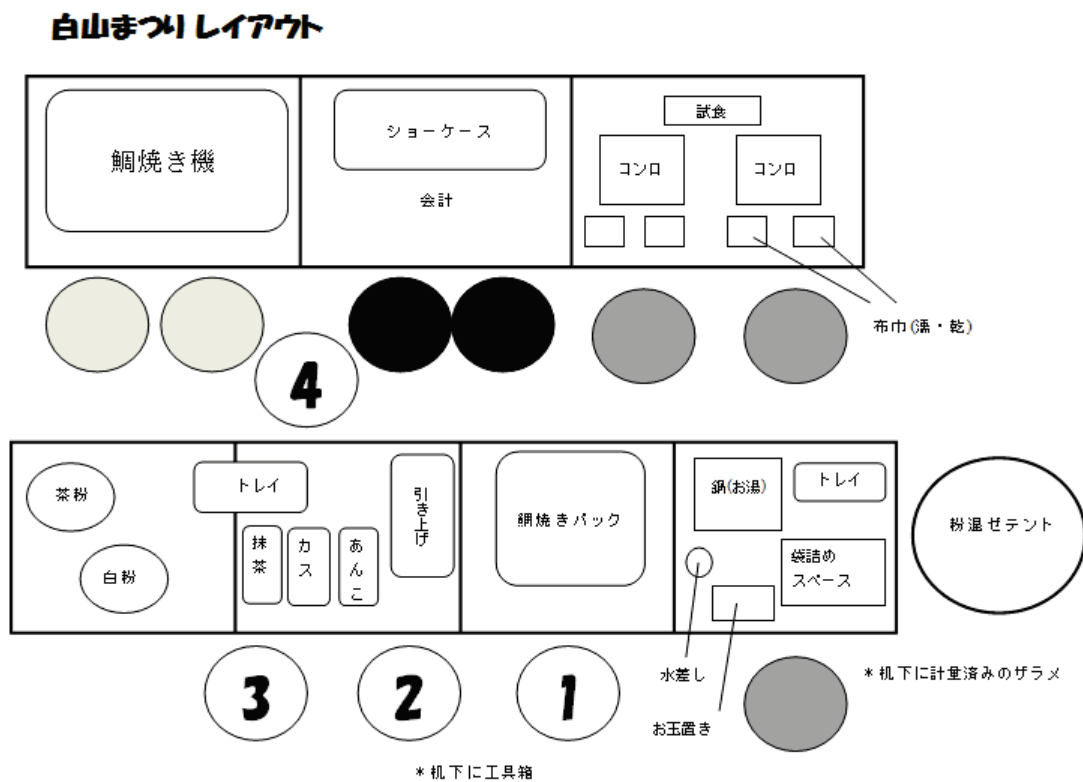
1. 白山まつり

(1) 総務班報告

①店舗レイアウト

8期生1人1人が考えたレイアウトを組み合わせ、レイアウトを作成した。

7期生が考えたレイアウトとさほど変わりは無くなってしまったが、お客さんの方を向く人数が多いこのレイアウトを提案をした8期生が多かったため、総務班で採用した。



*たい焼きの焼き手 2人 *バック 4人 *会計 2人 *カルメ 2人

②持ち物リスト

I. たいやき

①焼き台スペース

- ☐ 焼き台・鉄板
- ☐ 防風板
- ☐ 遮熱版
- ☐ アルミホイル
- ☐ ガス
- ☐ ガスのパイプ
- ☐ ネジ・L字金具
- ☐ 種落とし×2
- ☐ 種落としを入れる容器×2
- ☐ スパチュラ×2
- ☐ スパチュラを入れる容器×2
- ☐ ブラシ
- ☐ ピック
- ☐ ラード×2
- ☐ 綿軍手

②バックスペース

- ☐ 粉混ぜ用テント
- ☐ あんさし×2
- ☐ カスタード用さし×1
- ☐ 抹茶クリーム用さし×1
- ☐ ヘラ×4（あん用2、カス用1、抹茶用1）
- ☐ 区切り機
- ☐ トレー×8
- ☐ バケツ×4
- ☐ ふるい×2
- ☐ ドリルセット
- ☐ ビーター
- ☐ 計量カップ×2
- ☐ 柄杓×2
- ☐ はさみ×3
- ☐ 軍手

- ☐ バーガー袋
- ☐ パック
- ☐ 輪ゴム
- ☐ たいやきスタンド
- ☐ スタンド用トレー
- ☐ 在庫を入れる棚
- ☐ 粉混ぜ用テント

③材料

- ☐ 茶たい粉
- ☐ 白たい粉
- ☐ 水
- ☐ あんこ
- ☐ カスタード
- ☐ 抹茶クリーム

II. カルメ焼

①作業スペース

- ☐ ガスコンロ
- ☐ ガス
- ☐ おたま×4
- ☐ かき混ぜ棒×3
- ☐ 電子はかり
- ☐ 水はかり
- ☐ 水差し
- ☐ 温度計×2
- ☐ バケツ
- ☐ ふきん×4
- ☐ 温度計を入れる容器
- ☐ ラッピング袋・カラータイ
- ☐ マドラー

②材料

- ☐ ザラメ（現場で量る必要のないように事前に30gずつ小分けにしておく）
- ☐ 水
- ☐ ビニール手袋
- ☐ 重曹卵（重曹と卵白を混ぜたもの）

Ⅲ. 会計

- ☐金庫
- ☐電卓
- ☐タイマー
- ☐会計早見表
- ☐注文票
- ☐ショーケース
- ☐注文票をまとめる袋

Ⅳ. 共有物

- ☐テント
- ☐テーブル（大×3、小×4）
- ☐白シート（地面用×1、大テーブル用×1、小テーブル用×4）
- ☐段ボール（大テーブル用×2）
- ☐工具箱
- ☐養生テープ
- ☐ビニール紐
- ☐ゴミ袋
- ☐アルコール
- ☐除菌シート
- ☐布巾
- ☐消火器

Ⅴ. 店舗レイアウト

- ☐前垂れ
- ☐前垂れを止めるクリップ
- ☐価格表
- ☐価格表を止める安全ピン
- ☐横断幕
- ☐大学旗
- ☐旗竿

③白山まつり シフト

	たい焼き	たいバック	会計	休憩
14時～15時	大原 関根	1.松井 1.松本 2.壱岐 3.友部	市島 高野	佐藤 小島 久保 占部 塚田
15時～16時	佐藤 小島	1.松井 1.久保 2.占部 3.壱岐	塚田 高野	大原 関根 松本 友部 市島
16時～17時	大原 関根	1.久保 1.友部 2.占部 3.松本	塚田 市島	佐藤 小島 松井 壱岐 高野

	カルメ	カルメバック	休憩
14時～14時半	丹澤 (平山)	沖浦	井野口 野城
14時半～15時	井野口 (野城)	丹澤	平山 沖浦
15時～15時半	(平山) 沖浦	井野口	丹澤 野城
15時半～16時	(野城) 丹澤	(平山)	井野口 沖浦
16時～16時半	沖浦 (野城)	井野口	平山 丹澤
16時半～17時	丹澤 (平山)	沖浦	井野口 野城

～たいバック～

1. 在庫管理 (バック詰め)
→ 在庫管理は、1番左側に名前ある人がやる
2. あんこ・カスタード・抹茶
3. 羽きり

* カルメからの応援は、基本的に羽切りか粉混ぜに入れる

8期生のアドバイスをもとに、忙しいタイミングの時のみカルメ班からたい焼きに応援を出す用員を作った。※ () のついてる人は、たい焼きに応援に行く用員。

- ① 練習会での腕前をチェック
- ② それぞれの第一希望と第二希望の役職を web アンケートを使い調査した
- ③ 総務班でみんなの希望と適正を考慮し、役職決定

*たい焼きの焼き手 4人 *バック 6人 *会計 3人 *カルメ班 5人
という配分となった。

たい焼き班と会計は 1 時間ごと、カルメ班はカルメ焼きの成功率が低かった時のことを想定して、30 分の早いサイクルでシフトを組んだ。

④当日の持ち物分担と準備手順

【１回目】

台車３台

・関根 ・友部 ・占部 ・松本 ・壺岐 ・久保

テーブル

・野城 ・丹澤 ・平山 ・沖浦 ・塚田 ・市島

大テント

・松井

粉混ぜテント&ドリルセット

・高野

竿&段ボール

・井野口 ・小島

たい焼き台

・大原

たい焼き鉄板

・佐藤

【２回目】

ショーケース

・井野口

カルメ在庫

・丹澤

ガス

・松井

会計セット

・塚田

13 : 00
歩行者天国
スタート

2-1 テーブル組立

【たい焼き台】

佐藤 大原
小島 関根

→組立完了次第、鉄板等の準備

【その他のテーブル】

市島 塚田 丹澤
沖浦 壺岐 占部
※2人1組で作業

2-3.竿の組立～

サイン類の取り付け

松井
井野口
高野

1-1.テント設営

佐藤
大原
関根
小島

2-2.たいやき粉混ぜ

久保
友部 松本
平山 野城

3.班ごとの準備

1-2.白シート設置

市島
塚田
丹澤
沖浦

後片付けの分担について

【洗い物（大学）】

井野口 壺岐 占部
友部 松本 丹澤

【現地片づけ】

佐藤 松井 関根 大原 小島
久保 野城 平山 沖浦

【会計】

高野 市島 塚田

⑤白山まつり 反省点

《全体》

- ・誰一人お客さんのほうを向いていないタイミングがあった
- ・全体的にバタバタしていた
- ・声が全く出せていなかった
- ・学生らしさが足りなかった（元気が足りなかった）
- ・白シートとゴミ袋を持っていくのを忘れてしまった
- ・販売終了時の連携が不十分だった

《たいやき》

- ・最初から生焼けができてしまった
- ・粉混ぜのタイミングが悪く、休憩が回せなくなった
- ・粉の補給準備が遅かった為、鯛焼きを焼けない時間が発生した
- ・粉の補充量の判断を間違え、廃棄を出してしまった
- ・生産が間に合わず、在庫が作れなかった（特に餡子）
→下町まつりでは、準備時間を設け、在庫ができてから販売を開始する
- ・味3つが予想以上の負担になり、回り回って在庫不足に繋がった
→下町まつりでは、抹茶を廃止し、あんことカスタードの2種類に

《カルメ焼き》

- ・作り始めるのが遅かった
→鯛焼きが準備中の時がカルメを売り出す絶好のチャンスであった
- ・屋外のため、ガスコンロの火が見えづらかった
- ・練習の時以上に膨らみすぎてラッピング袋に入らないものが多数発生した
- ・試食分を用意することを忘れていた

《会計》

- ・注文表が風で飛んだ
- ・鯛焼きの在庫を確認しきれなかった
→鯛焼きバックとの連携を強化
- ・待ってもらっているお客様が誰かわからなくなってしまった
- ・注文票が足りなくなった
- ・たい焼きの在庫ができてから販売すべきだった
- ・注文を取る際、在庫確認がうまくできずお客様を混乱させてしまった

⑥サイン（総務班 7 期生報告）

販売商品及び、会計の場所を示すため、A3 サイズの表を作成。店舗の前垂れ部分と上の棒部分に取り付ける。

作成物：サイン（商品名、価格、味の種類、キャッチフレーズ）
会計案内

作成方法:word で作成したものを A4 で分割印刷して A3 サイズになるように貼り付け、
ラミネートをした。サインはそれぞれ前垂れに貼る用と上に貼る用の 2 枚を
用意する。前垂れ用は安全ピンで取り付けるため、上部にはパンチで穴を開け
ておく。

● 抹茶	● カスタード	● あんこ	茶 たい や き	● 抹茶	● カスタード	● あんこ	白 たい や き	● 抹茶	● プレーン	カ ル メ 焼 き
各 130 円				各 130 円				各 100 円		

⑦メニュー表

メニュー表を作成し、レジのショーケース上に配置する。注文時にお客様に見ていただくことを想定して作成する。

作成物：アクリルケースに合わせたサイズのメニュー表（商品名、味の種類、価格）

作成方法：word で作成したものをラミネートし、アクリルケースにはさむ。



⑧反省点

茶たいやきなどの商品名をもう少し目立たせても良かったかもしれない。

また、昨年のようにキャッチコピーを入れた方が、よりお客様にイメージされやすくわかりやすい印象を与えられたと思う。

（２）調査班報告

①販売個数調査

- ・調査目的

第 51 回白山まつりの来場者数のうち、商品の購入者の割合を知ること、また性別及び世代別の購入した商品の割合を知ることにより、今後の出店事業に生かすための調査である。

- ・日時

平成 26 年度 9 月 6 日（土）

- ・場所

白山上商店街

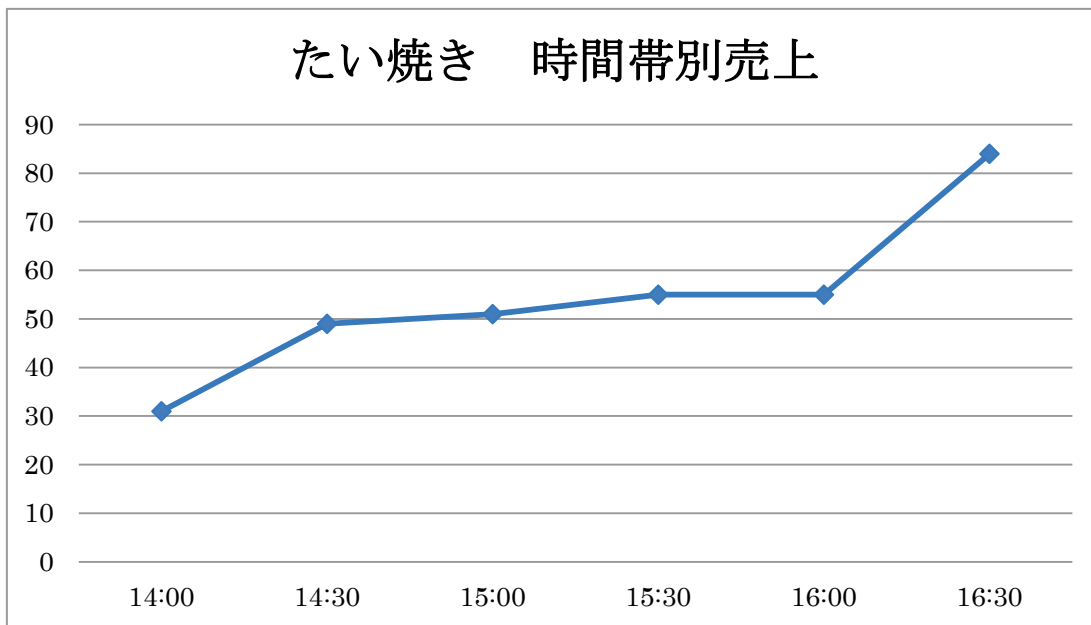
- ・調査方法

注文票に注文した商品、購入者の性別年代を記入し、調査を実施した。
会計後に注文票を袋に入れ、その袋を 30 分ごとに回収をして集計を行った。

<販売結果>

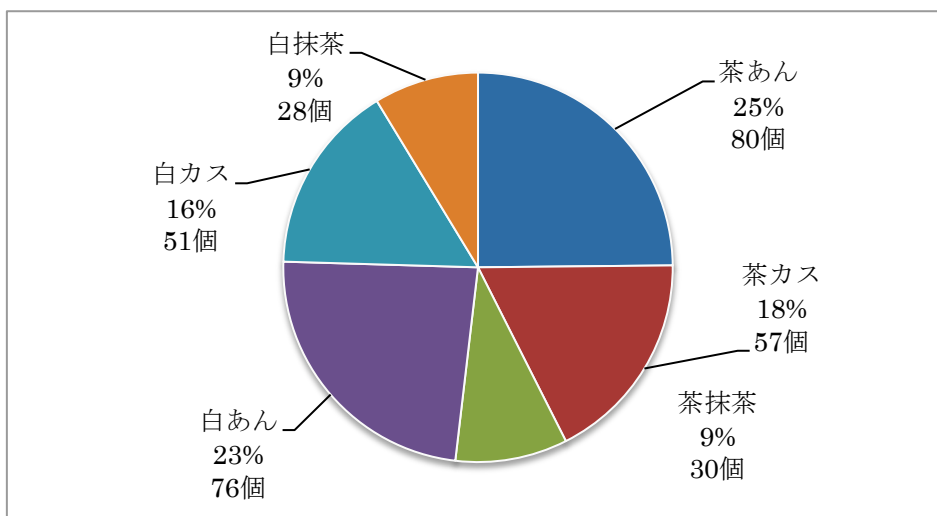
ア. たい焼きの販売結果

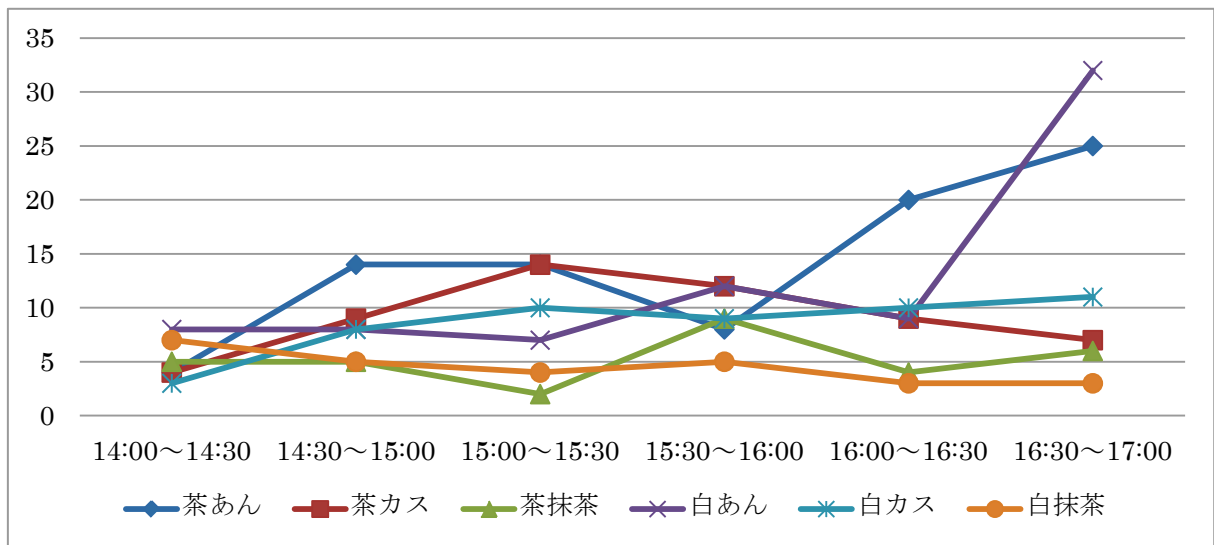
i) 時間帯別



最も売れた時間帯は 16:30～であり、これは白山まつりのメインイベントで盆踊りが 18 過ぎから始まるため、売上のピークがこの時間だったと考えられる。昨年と比べ波が無く、平均的にどの時間帯も売れたと考えられる。

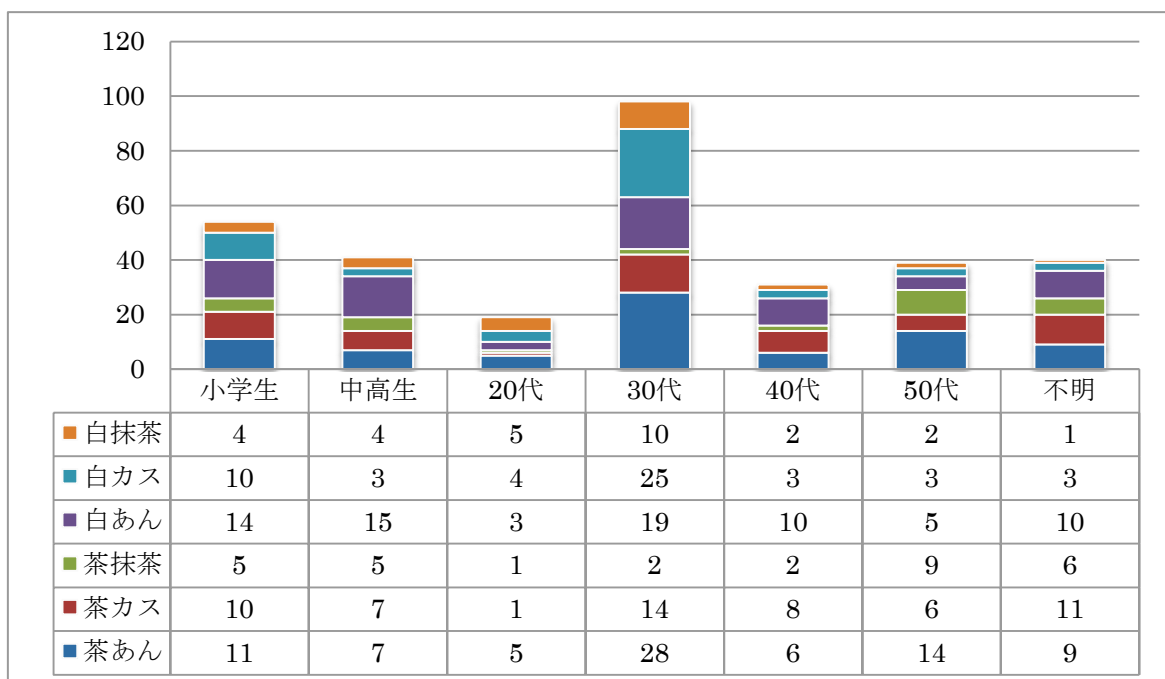
ii) 種類別





やはりスタンダードなあんこは一日を通して平均的に売れており、人気の高い味ということが分かる。また新商品の抹茶クリーム味は他の味に比べると売り上げが低い。これは選択肢が多く分散したと考えられる。また、白い生地のだんごが最後の時間帯に販売数を伸ばした。

iii) 年代別



どの年代にもあんこは人気であり、また 30 代の購入者が非常に多いことが分かる。例年通り 30 代の購入者はまとめ買いをしていた傾向がみられ、家族の分まで購入していたので

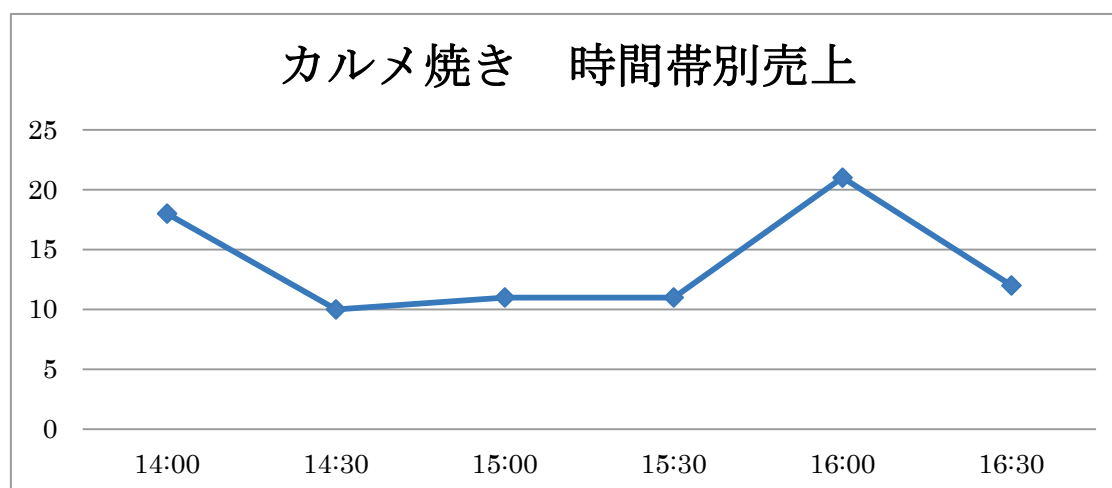
はないかと考えられる。また、小中学生を中心とした若い世代には白い生地のだい焼きとカスタード味が人気であると読み取れる。

iv) 男女別

男女別でみると、女性が圧倒的に多い。これは男性よりも女性にだい焼きが人気であることが読み取れる。また、白山まつりの来場者も女性の方が多いと考えられる。

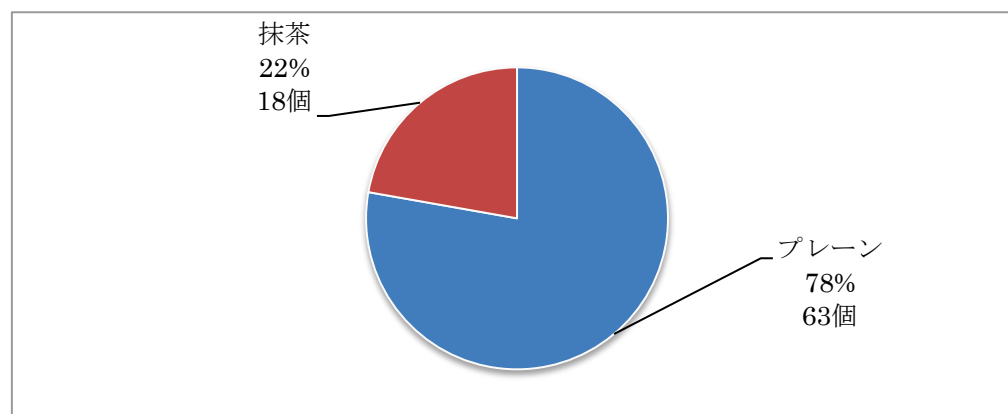
イ. 1 日目のカルメ焼き販売結果

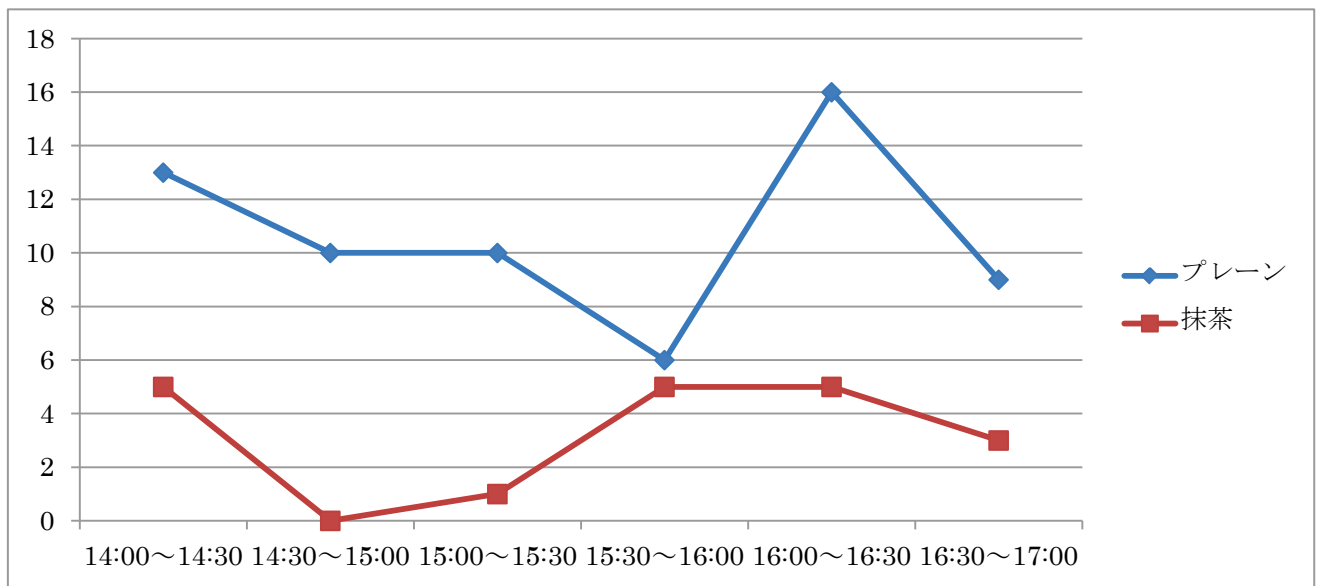
i) 時間帯別



カルメ焼きはだい焼きを販売開始する前から売っていたため 14:00 からの販売数が伸びたと考えられる。また、ピークは 16:00 でありおやつに購入したのではないかと考えられる。

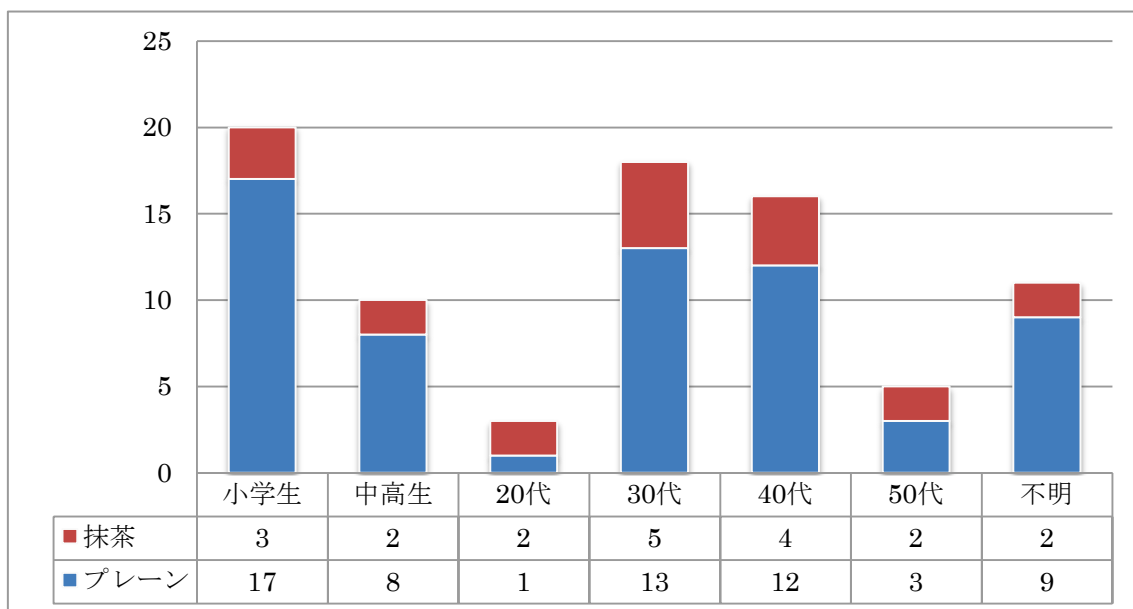
ii) 種類別





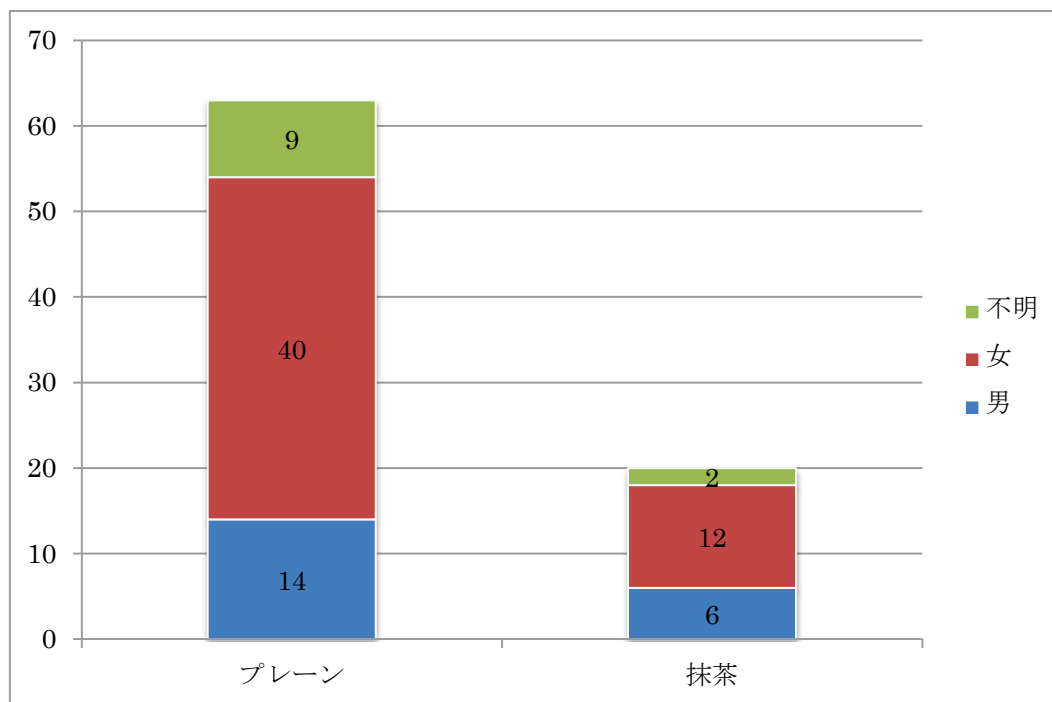
プレーン味が抹茶味よりも多いことが読み取れる。これは昔ながらのカルメ焼きのほう
が馴染みがあり人気が高いと分かる。また、試食も行っていたためその影響を受けたの
ではないだろうか。

iii) 年代別



小中高生の購入者が多いことから、子供はカルメ焼きの実演販売に興味を持ち、購入に
繋がったのではないかと考えられる。また親子連れも多く、親が子供に買ってあげた例も
多くみられた。そして、20代に不人気であることも特徴の一つである。

iv) 男女別



男女ともにプレーン味が人気であることが読み取れる。特に女性の購入者が多いことが特徴である。

第51回 白山まつり 東海林ゼミアンケート

1.性別 < 男性 / 女性 >

2.年齢 < 19 歳以下/20 代/30 代/40 代/50 代/60 代/70 代/80 代以上>

3.お住まい < 文京区 / 都内 / 都外 >

4.白山まつりはどちらで知りましたか？

< ポスター/回覧板/掲示板/口コミ/通りすがり/ホームページ/その他() >

5.あなたは誰といらっしゃいましたか？

< 友達/家族/一人で/その他() >

6.来訪目的

< 屋台の商品を購入/出し物の鑑賞/散歩/その他() >

7.白山まつりは何回目ですか？

< 初めて/2～5回/6～9回/10回以上>

8.白山まつりで一番良かった点をあげてください。

< >

9.白山まつりについての要望があったら教えてください。

例)ゴミ、トイレ、不便

< >

回答ご協力ありがとうございました。

②イベント（出店事業）の地域活性効果

ア. アンケート調査

・調査目的

白山まつりをよりよいイベントにするために、白山まつりに関する地域住民の認知度を知ることが目的として実施したものである。

・日時

平成 26 年 9 月 6 日（土）

・場所及び被験者

白山まつりにおいて、来場者を対象に実施した。

・調査項目

＜項目＞	＜ねらい＞
被験者の属性(性別・年齢)	男女比、購入者の年齢層を把握する
居住地域	地元住民であるかどうかを知る
白山まつりを知ったきっかけ	有効な情報手段を知る
同伴者	白山まつりに誰と来ているか把握する
白山まつりに来た理由	白山まつりに来る目的を探る
来訪回数	リピート率を把握する
白山まつりに対する要望	地元住民の意見を取り入れ 今後の地域振興のイベントを把握する

・アンケート方法

直接聞き取り方式により、実施した。

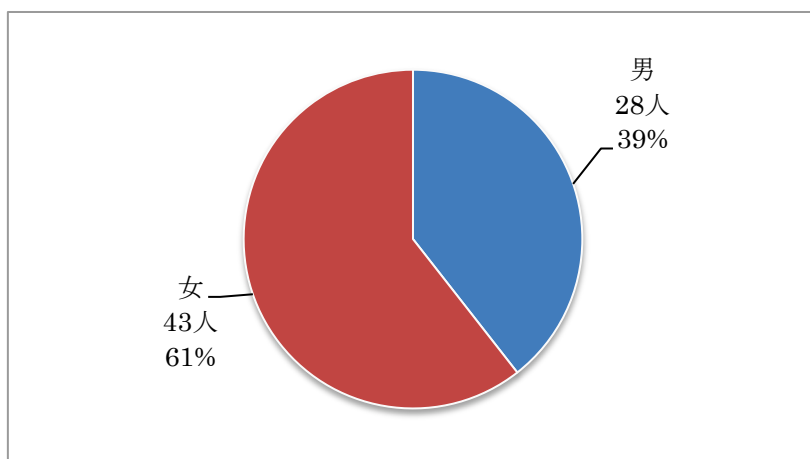
～白山まつりの概要～

白山まつりは、毎年9月に文京区・白山地区で開催されている。このおまつりは、地域の観光振興等を目的として昭和39年に始まった。会場では模擬店の他、地域の皆様による盆踊りや組太鼓、楽器演奏、フリーマーケットなどが行われており、白山地区の活気を肌で感じることができる。今年で51回目を迎える歴史の長いまつりだ。

③調査結果

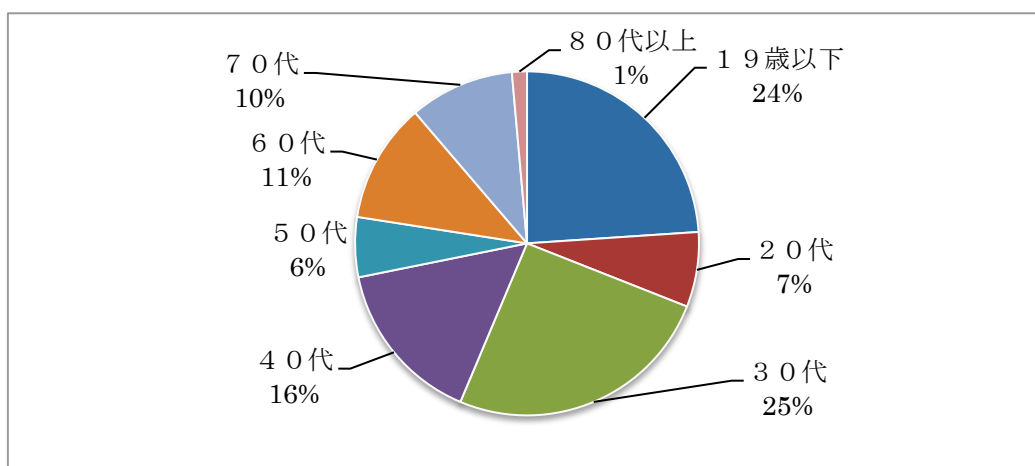
白山祭り来場者アンケート結果

ア. 性別



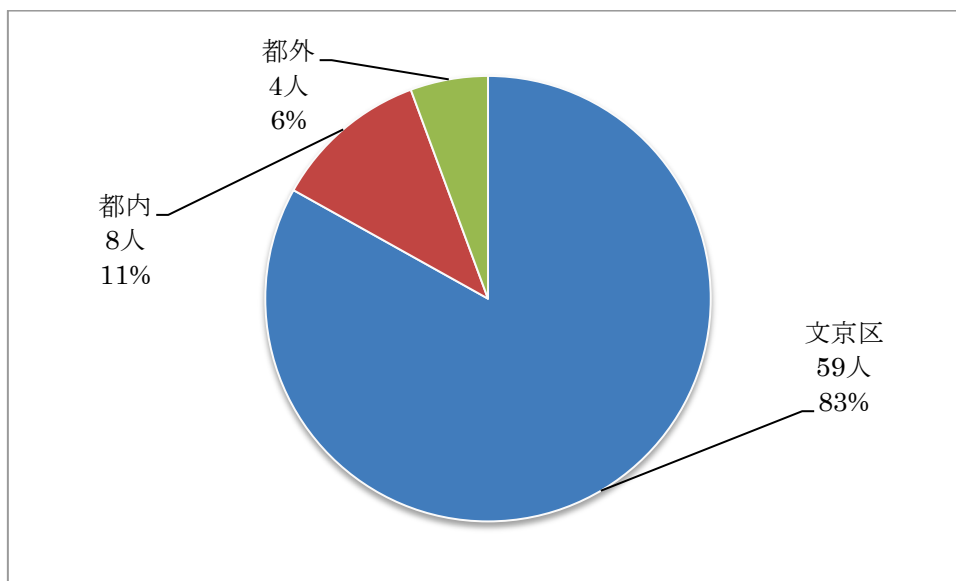
今回、男性28名、女性43名の計71名にアンケート調査を行った。結果を見ても分かるように、女性の方から多くの方にアンケートの回答を頂くことができた。

イ. 年齢



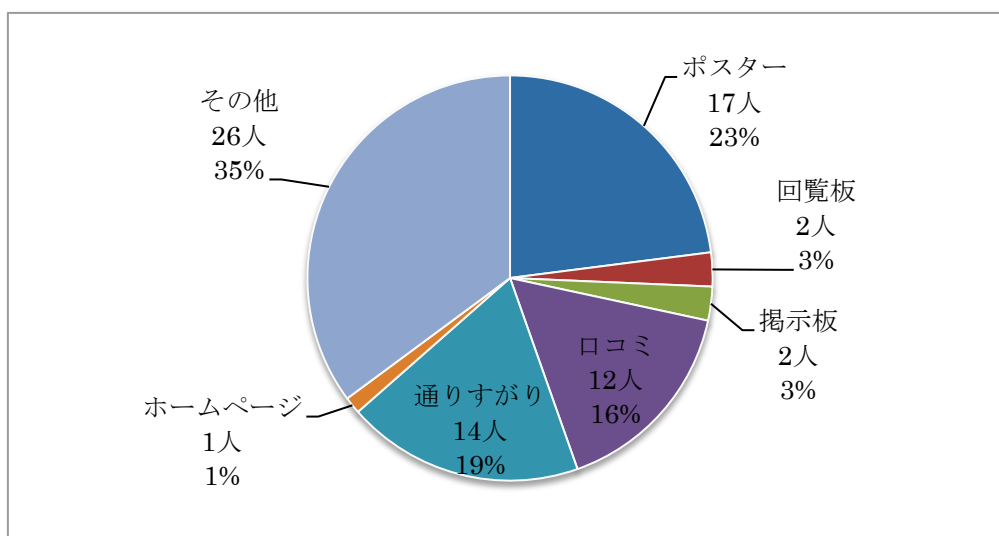
年代別に見てみると、19歳以下と30代が全体の24%、25%を占めており、一番多い結果となった。これは近くにある高校や、東洋大学の影響による、学生の数や、近所にお住まいの家族の方々がお子様を連れて来訪したことも結果に表れているのではないだろうか。

ウ. お住まい



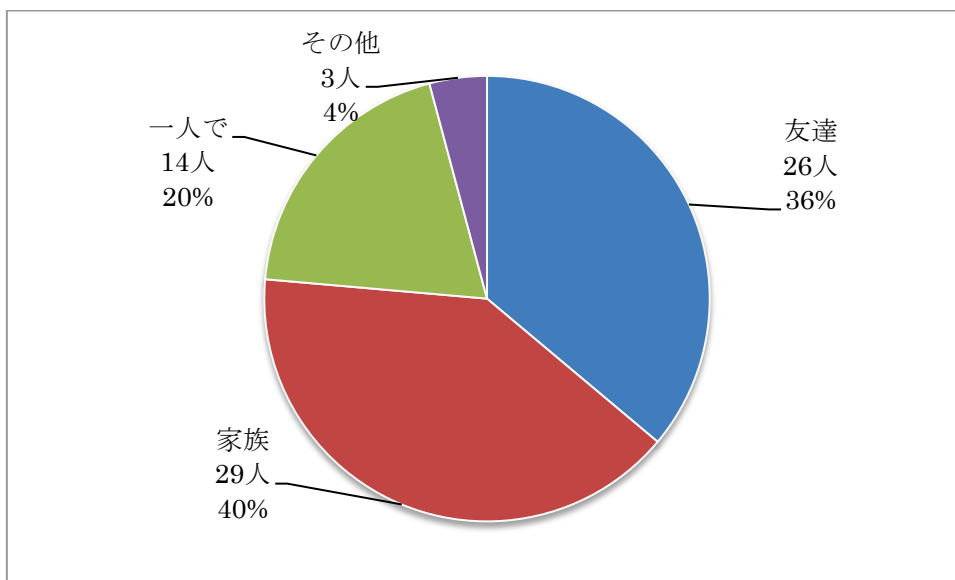
来訪者の住まいを見てみると、圧倒的に文京区が多く、全体の80%を占めていた。やはり、地元に着した祭りということで、地元の方から支持をいただいているという結果がでたとも考えられる。

エ. 情報入手場所



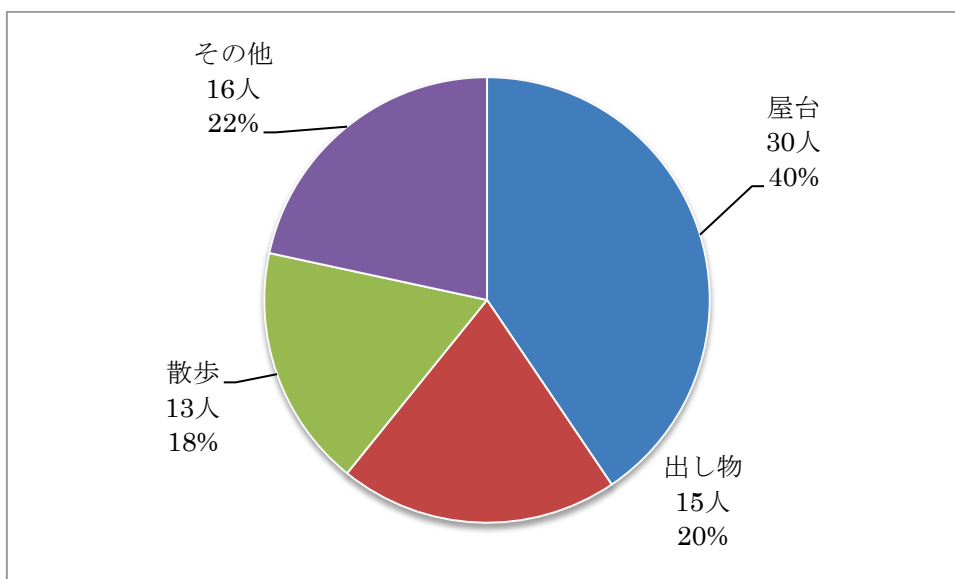
ポスターや通りすがり、口コミという方が多く、ホームページや掲示板、回覧板から情報を得た人は少なかった。

オ. 同伴者



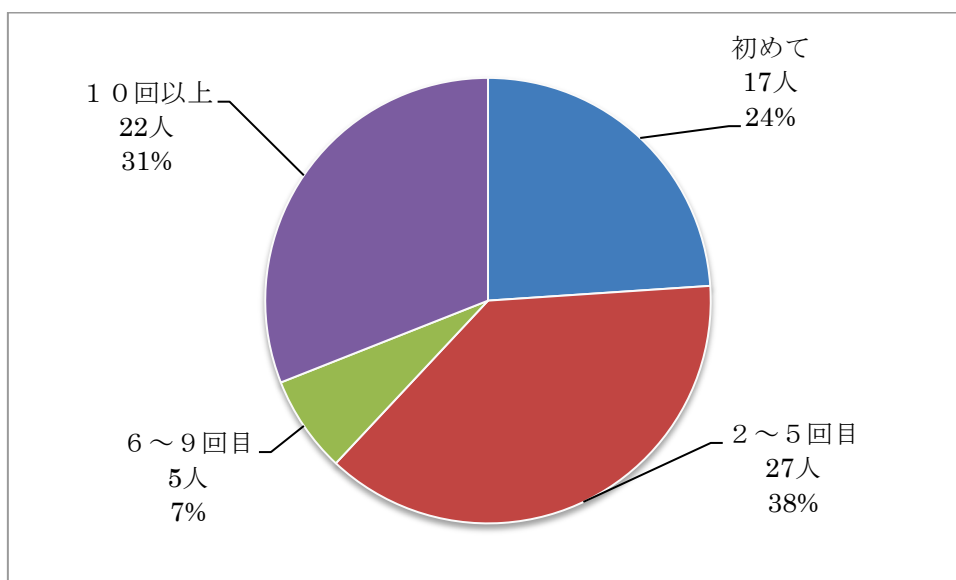
同伴者は、家族で来ている方が一番多く、30、40代の方で子供連れというパターンが一番多かった。また、10代、20代の若い世代は友達と来ることが多かった。

カ. 来訪目的



最も回答の多かった来訪理由は屋台でおよそ40%の人からの回答があった。他の回答は出し物、散歩、その他も含めてすべて20%前後という数字だった。

キ. 来訪回数



来訪回数が2～5回目という人と、10回以上来訪しているという方が多く見受けられた。やはり、白山まつりが歴史のあるお祭りで、地域から愛されているからこそ、この数値によって、リピーターがいることが証明されているのではないだろうか。初めての方が17人もいたということで初めての方を誘致するような宣伝活動に成功したとも言えるのではないだろうか。

ク. 今後の白山まつりへの要望

9月6日は天候に恵まれ、晴れた状態で開催された。白山まつりは、白山上商店街を歩行者天国にして開催されているため雨天であると中止になる可能性もでてきてしまう。天候に対して少し柔軟性がつくと良いという意見が挙げられた。また、アットホームで子供達が遊べるゲームコーナーが非常に人気で活気のあるおまつりでうれしいという意見も多く挙がった。また、商店街の企画であるため知り合いが多いという安心感や、迷子になりにくいという安心感が魅力で助かるという意見も得た。

否定的な意見はほとんどなく、満足しているという回答が目立ったことが特徴である。51回もの歴史を重ねてきたおまつりは地域に根付いて安定感があるのだと考える。これからも地域にとって地域の輪で居続けてほしい。

④白山まつり追跡調査

～アンケート内容～

アンケート項目は以下の通りである。

マーキング	被験者の行動を把握する
性別	被験者の属性を把握する
年代	被験者の属性を把握する
同伴者の有無	まつりに誰と来ているかを把握する
飲食の場所	どこで飲食するか把握する
滞在時間	マーキングした各地点の滞在時間を把握する
目的の有無	来訪目的の有無を把握する
商店街の利用有無	商店街の利用の有無を把握する
主催者とのコミュニケーションの有無	主催者とのコミュニケーションの有無を把握する

※滞在時間はサンプルから読み取った1人1人の滞在時間を足した数字である。

- ・調査目的

白山まつりを利用している人の祭り内においての行動を把握するため。

- ・日時

平成26年度9月6日（土）

- ・場所及び被験者

白山まつりの来場者を対象に実施した。



「性別： 男 ・ 女 」

「年代： 10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代・90代」

「同伴者：ファミリー・カップル・友達・団体(出演者) 1人・(その他)」

「買ったものをどこで食べているか ()」

「①の滞在時間 分 ②の滞在時間 分 ③の滞在時間 分 ④の滞在時間 分」

「目的があって白山まつりに来ているかどうか 目的あり () 目的なし 」

「商店街も利用しているかどうか 利用あり () 利用なし 」

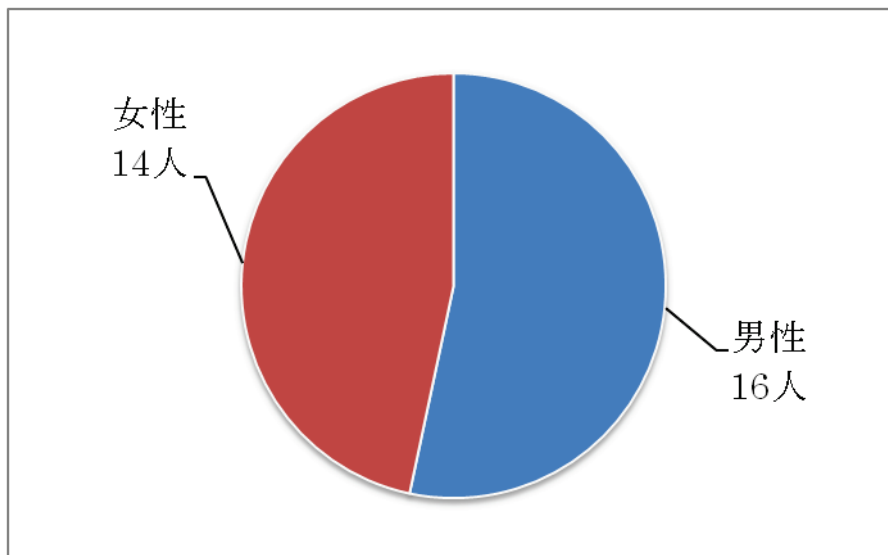
「主催者側の人とコミュニケーションをとっていたか あり なし 」

「調査した時間帯 時 分 ～ 時 分 」

⑤調査結果

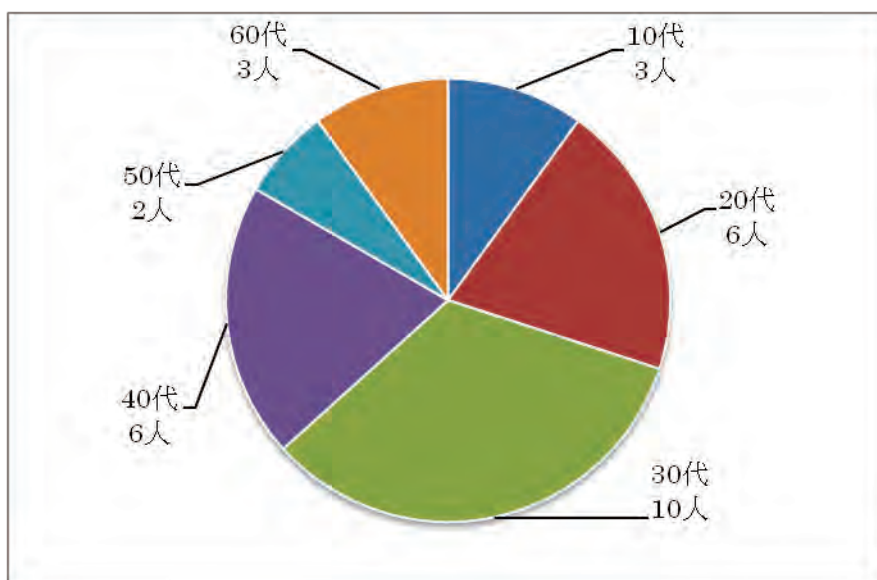
今回の白山まつりの追跡調査の対象者は 30 人であった。

ア. 性別



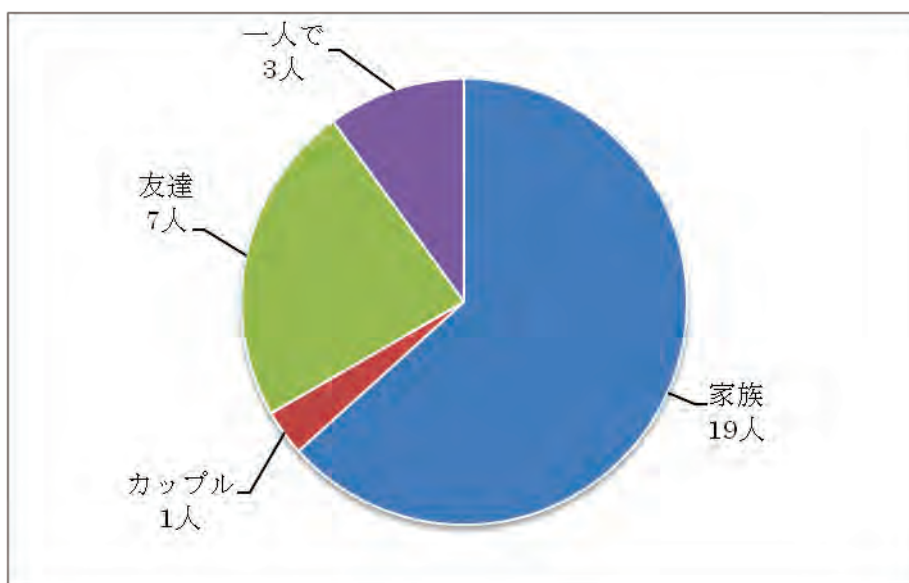
調査の対象となった方は男性が 16 人、女性が 14 人であった。

イ. 年代



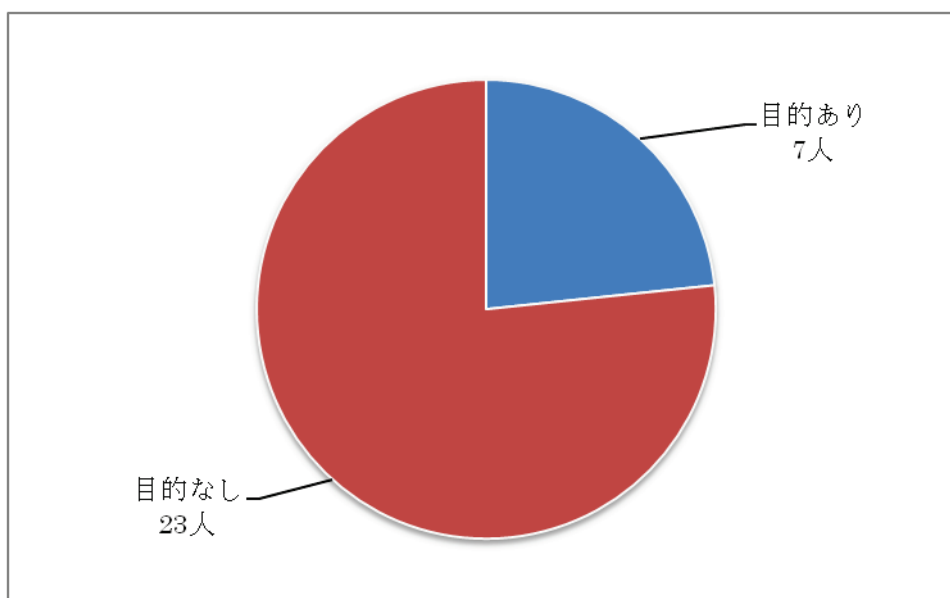
被験者の年齢は見た目の予想でおこなった年齢であるが、10 代が 3 人、20 代が 6 人、30 代が 10 人、40 代が 6 人、50 代が 2 人、60 代が 3 人であった。

ウ. 同伴者について



同伴者については、家族で来られた方が 19 人で最も多かった。その次に、友達が 7 人、1 人での人が 3 人、カップルで来られた方が 1 人であった。

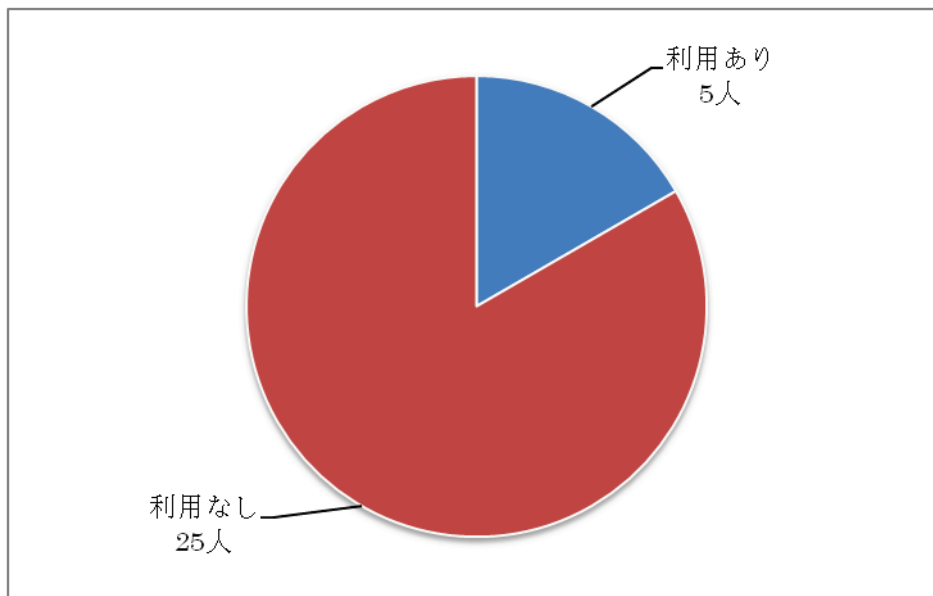
エ. 来訪目的



目的があるように見られた方は 7 人であった。7 人のうちゲームコーナー目当てが 4 人、屋台が 2 人、金魚すくいが 1 人であった。(3) の同伴者に家族連れが多く見られたため子供に人気なゲームコーナーが多かったように見られる。

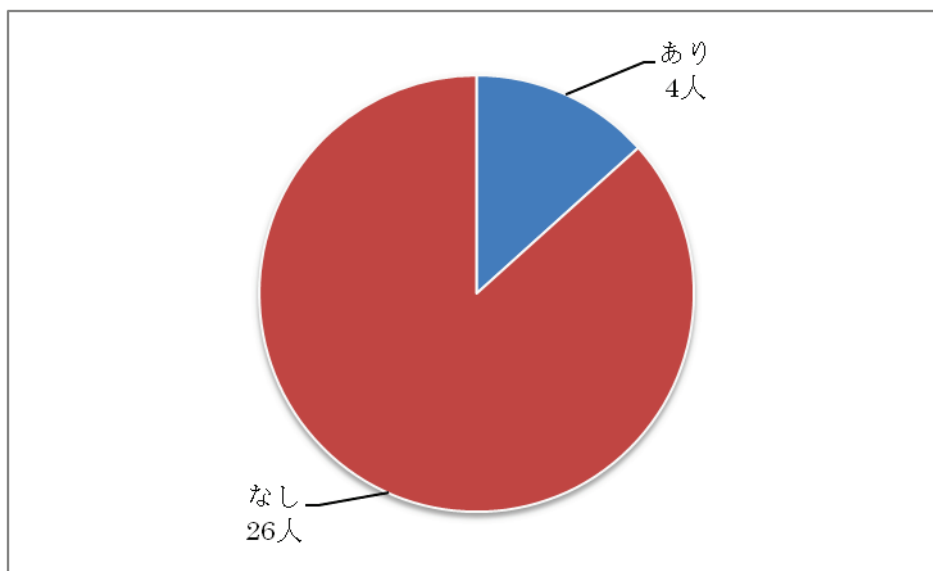
また、一通りぶらぶらしながら散策している来場者が多いように感じた。

オ. 商店街の利用



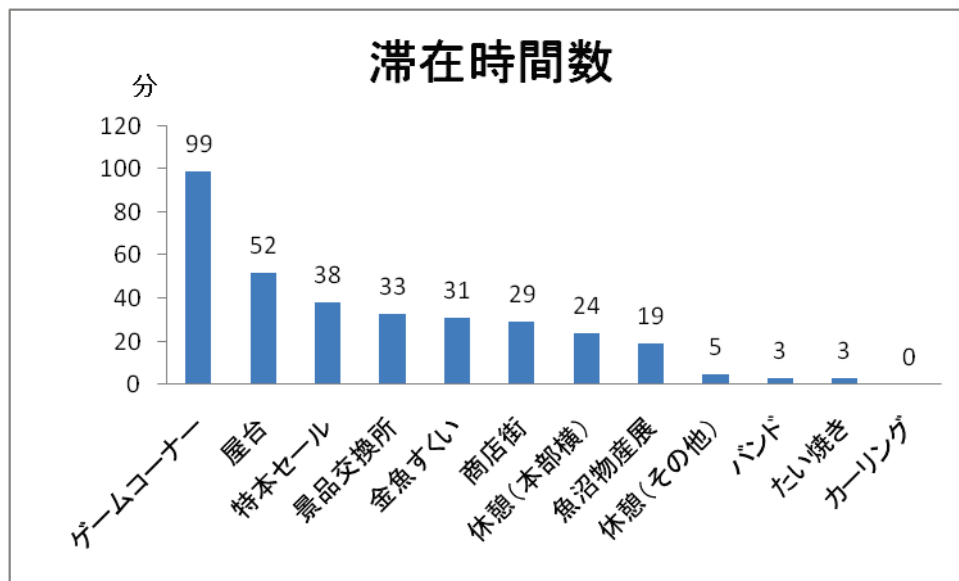
商店街の利用については、利用ありが5人、利用なしが25人であった。利用された商店街の詳細は、「上本文具店」を2名、残りの3名がそれぞれ「ダニーシューズ」、「南天堂書房」、韓国料理の「うりふね」を利用していた。

カ. 主催者とのコミュニケーションの有無



主催者とのコミュニケーションをとっている方が4人、とっていない方が26人であった。4人の中には、長々と会話をされている方も見られ、祭りを通して地域の方とのふれあいが生まれる事を感じた。

キ. 滞在時間

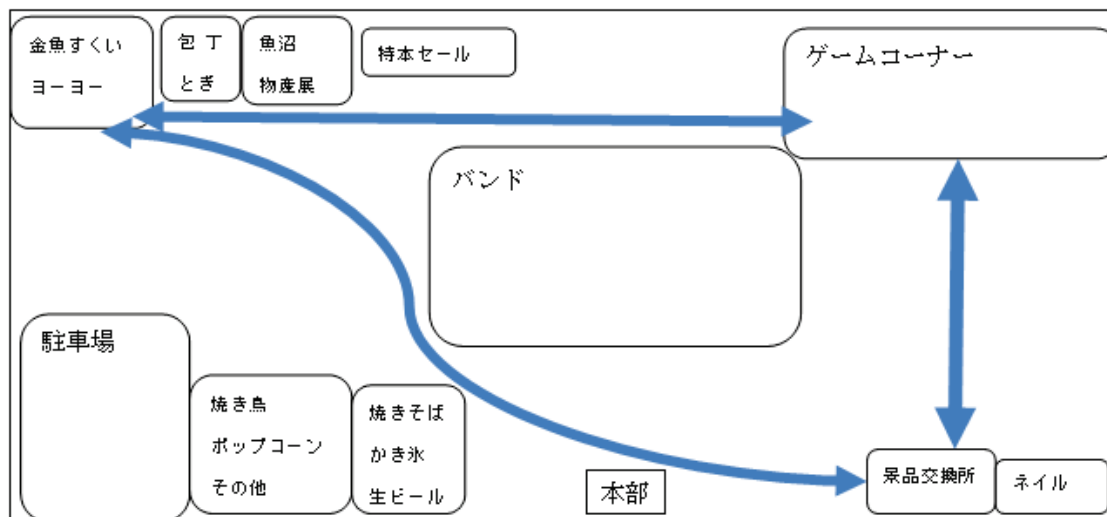


被験者が会場内でどのような行動をとっているか追跡調査をしたところ、被験者が利用したブースの滞在時間数は、多い順にゲームコーナー、屋台、特本セール、景品交換所、金魚すくい、商店街、休憩（本部横）、魚沼物産展、バンド、たい焼き、カーリングであった。被験者はゲームコーナーや金魚すくい、景品交換所といった子供向けの遊びが楽しめるブースで時間を費やす傾向にあることがわかった。

ク. 被験者の行動パターン

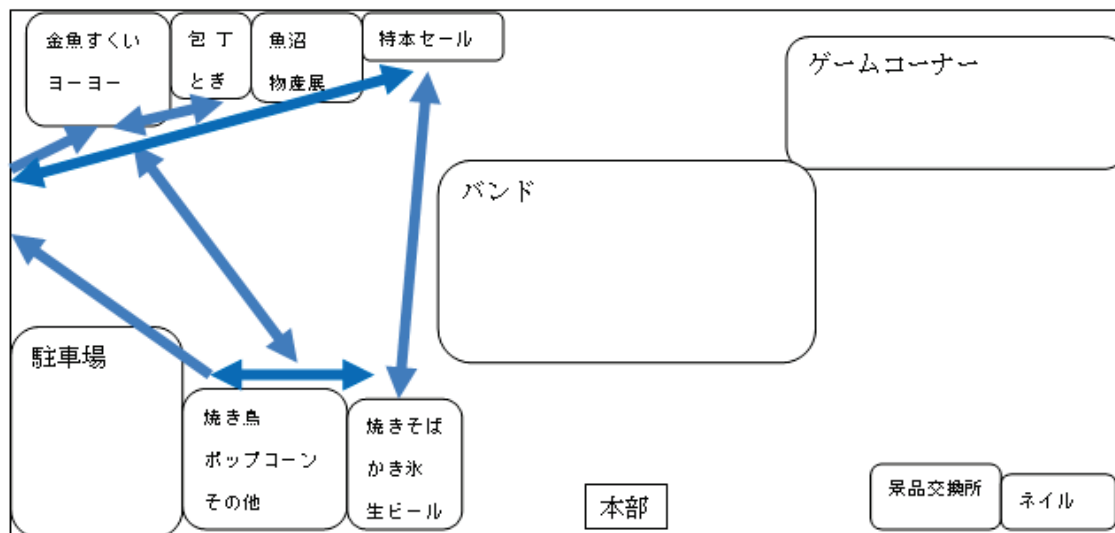
被験者の行動パターンを分析するとおおまかに 4 パターンあった。

i) ゲームコーナーと景品交換所を巡るパターン



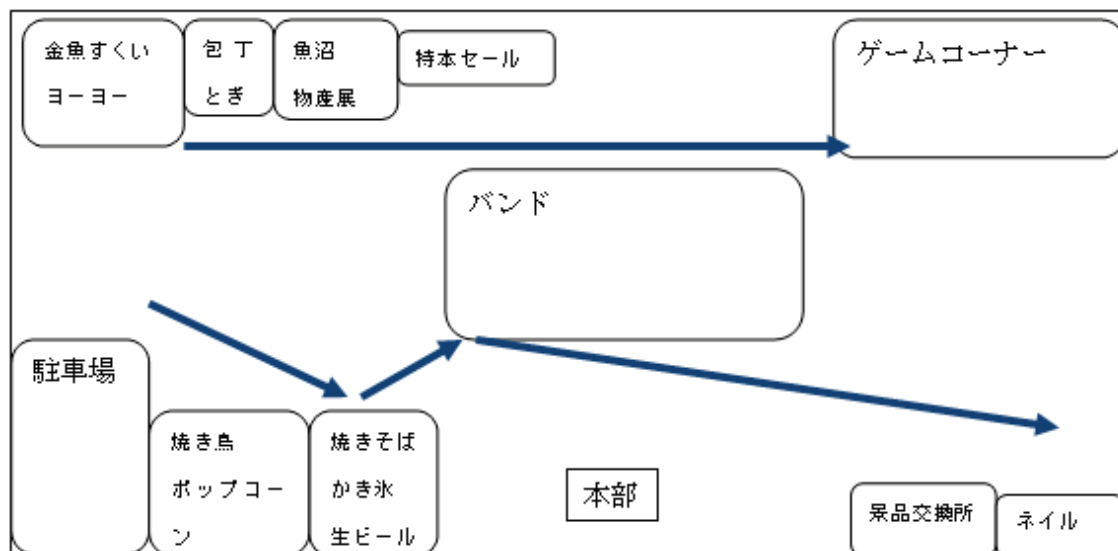
これは、ゲームコーナーと金魚すくい、景品交換所の 3 つのみを巡るパターンである。特に子供連れの人たちにこの傾向が見られた。

ii) 会場の狭い範囲を巡るパターン



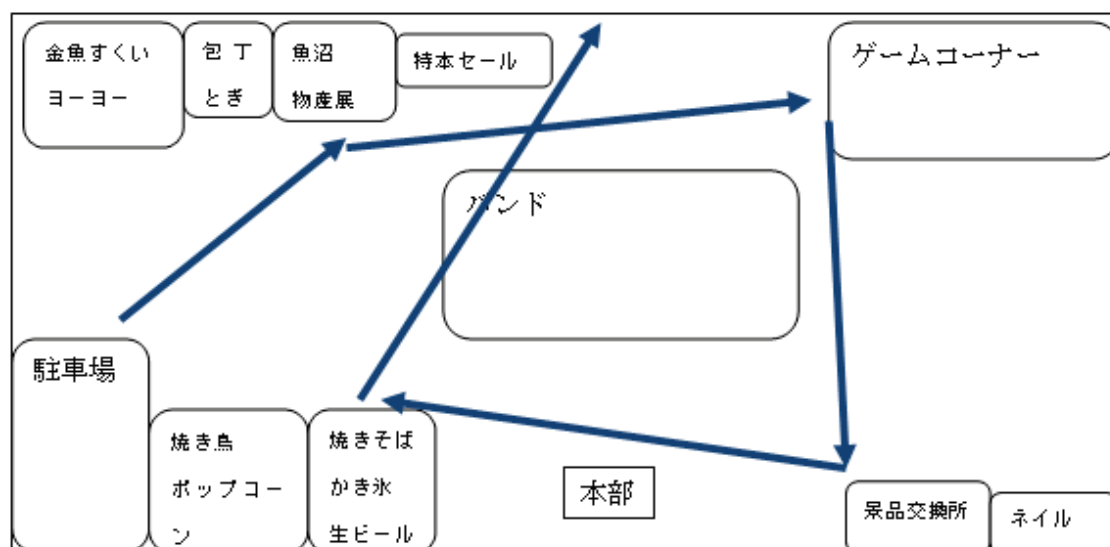
これは、会場内の狭い範囲だけを巡るパターンである。会場全体を見ないで特定の範囲にあるブースを見て楽しむひとが見られた。

iii) 道なりに歩くパターン



これは道なりに歩いて行くパターンである。入口から、順番に屋台や出店を見ていき、気になる所があったら立ち止まっていかれるお客様が見られた。

iv) 会場全体を巡るパターン



これは会場全体を見ていくパターンである。会場を一周するような感じで、全体を見て回られている方が見られた。

考察

商店街を利用されている方は、30 人中 5 人であった。会場全体を巡った後に、商店街を利用して帰宅される方が多く見られた。主催者の方とコミュニケーションをとっている方は 4 人で、長時間に渡って話をされている方も見られた。屋台や出店の滞在時間においてはゲームコーナーが断トツであり、次に屋台を利用されている方が多かった。被験者の行動を分析してみると、大きく 4 つに分けられる。一番多く見られたのが③道なりに歩くパターンであり、その次が④会場全体を巡るパターンであった。

また、調査期間中に会場内で演奏をしていたサマライビッグバンドを鑑賞していたひとは、1 回の演奏につき 70 人から 80 人程度だった。

全体の気づきとしては、家族連れが多く見られ、また、会場内で休憩をしている方も見られ、本部横の段差になっている所や縁石に座っている方が見られた。決められた休憩場所がない様子だったので、できるならばお祭りの利用者が休憩できるようなスペースを設置することが必要だと思われる。

(3) 会計班報告

利益			
	売上高	50030円	
	消費した材料費	35210円	
	利益	14820円	
商品別売上高			
商品名	単価	売上数量	売上
タイ焼き(茶あん)	130円	80個	10400円
タイ焼き(茶カス)	130円	57個	7410円
タイ焼き(茶茶)	130円	29個	3770円
タイ焼き(白あん)	130円	77個	10010円
タイ焼き(白カス)	130円	51個	6630円
タイ焼き(白茶)	130円	27個	3510円
カルメ焼き(プレーン)	100円	64個	6400円
カルメ焼き(抹茶)	100円	19個	1900円
材料費内訳			
材料	数量	値段	
茶粉	10kg	3580円	
白粉	8kg	2864円	
あんこ	15kg	4605円	
カスタード	14kg	4298円	
抹茶クリーム	6kg	5184円	
グラニュー糖	3個	624円	
重曹	2個	325円	
カセットボンベ	2個	760円	
卵	2パック	291円	
アルミホイル	1本	108円	
ラップ	1本	316円	
ウェットティッシュ、ス	10個	1552円	
レジャーシート	3枚	324円	
ラッピング袋	8セット	864円	
ビニール手袋	2セット	498円	
養生テープ	6個	1607円	
プロパンガス		7410円	
合計		35210円	

2. 下町まつり レイアウト

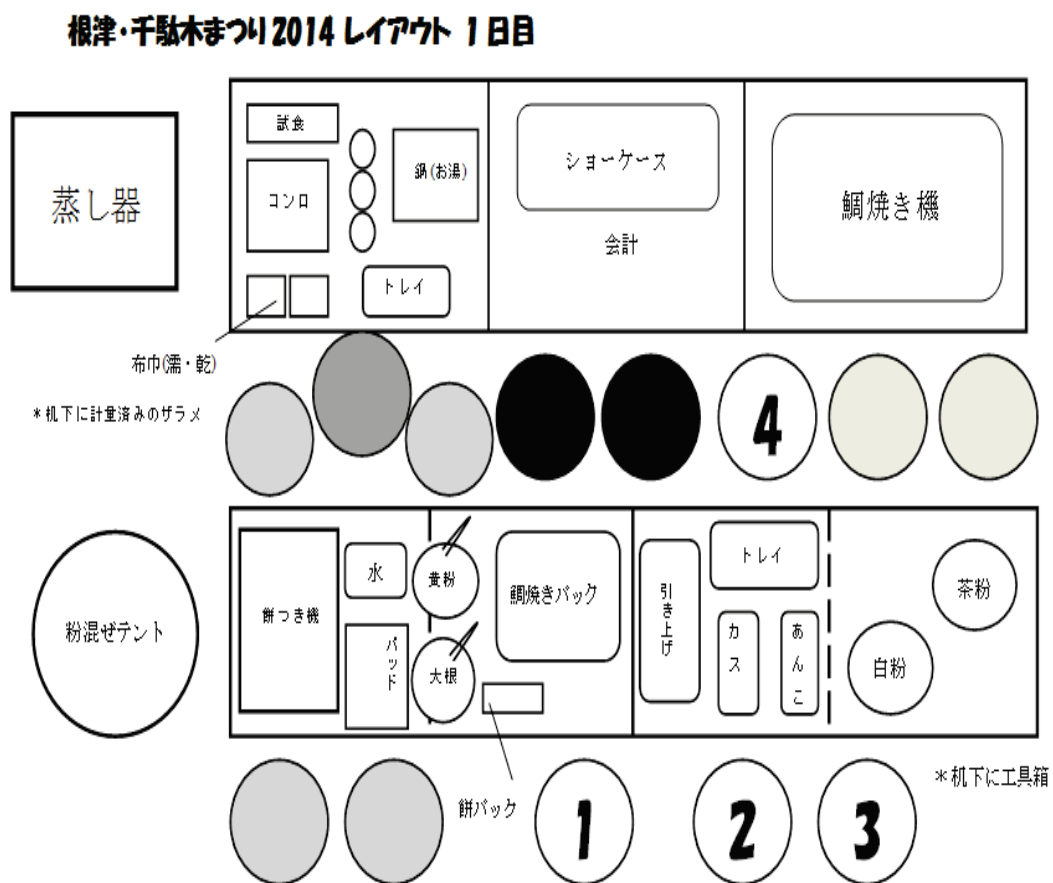
(1) 総務班報告

①店舗レイアウト

下町まつりの1日目は、お餅があるためレイアウトを考える際にお餅の蒸し器を基点に考えた。蒸し器と餅つき機の移動距離を少なくした結果、このようなレイアウトとなった。

1日目はお餅があるため、カルメ焼きで使用する机前の1つのみとした。

【1日目】レイアウト



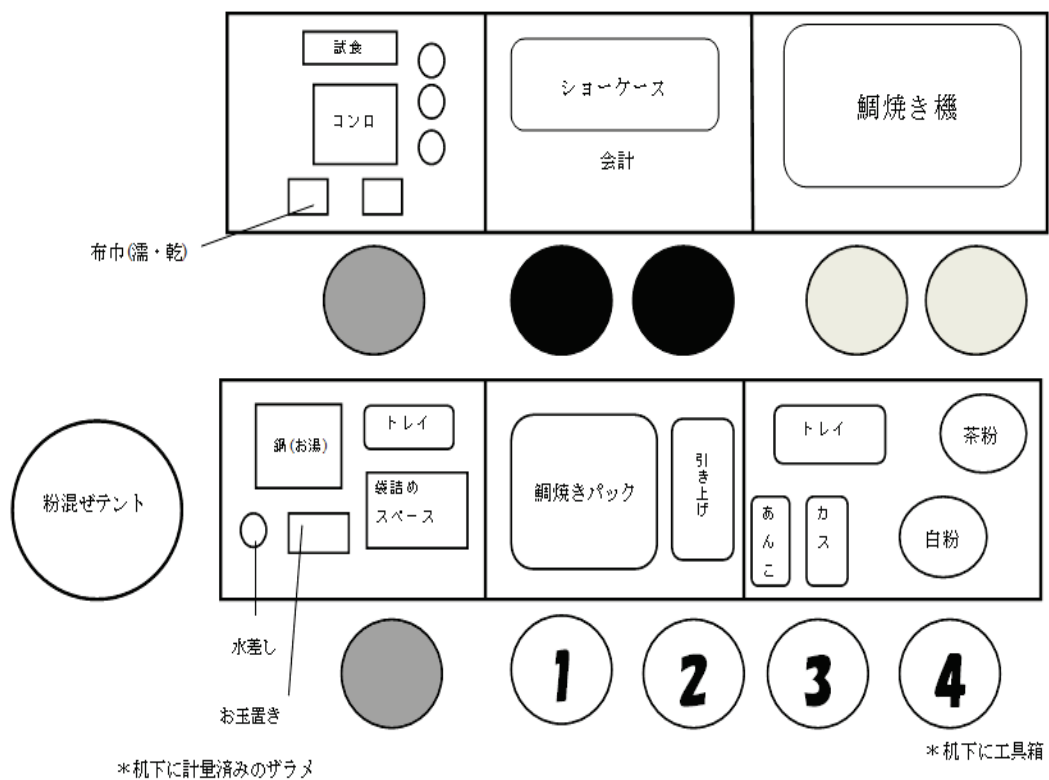
*たい焼きの焼き手 2人 *パック 4人 *会計 2人 *カルメ 1人

*お餅 2人

【2日目】レイアウト

当初は、たい焼きの机が粉混ぜテントに近くするため、1日目と2日目でたい焼きとカルメ焼きの場所を入れ替える予定であった。しかし、左隣で販売していた焼き鳥の煙や塵が風に乗って私たちのテントへ流されて来るため、それらがたい焼きに混入することを防ぐために1日目と同じレイアウトで実施した。

根津・千駄木まつり2014 レイアウト 2日目



*たい焼きの焼き手 2人 *バック 4人 *会計 2人 *カルメ 1人

②根津・千駄木下町まつり 持ち物リスト

共有物

- ☐ テーブル（大×3）
- ☐ 白シート
- ☐ 段ボール
- ☐ 工具箱
- ☐ 養生テープ
- ☐ ビニール紐
- ☐ ゴミ袋
- ☐ アルコール
- ☐ 除菌シート
- ☐ 消火器

店舗レイアウト

- ☐ 前垂れ
- ☐ クリップ
- ☐ 価格表
- ☐ 安全ピン
- ☐ 横断幕
- ☐ 大学旗
- ☐ 竿

鯛焼き

- ☐ 焼き台・鉄板
- ☐ 防風板
- ☐ 遮熱版
- ☐ アルミホイル
- ☐ ガス
- ☐ ガスのパイプ
- ☐ ネジ・L字金具
- ☐ 種落とし×2
- ☐ 種落とし容器×2
- ☐ スパチュラ×2
- ☐ スパチュラ容器×2
- ☐ ブラシ
- ☐ ピック
- ☐ ラード×2

- ☐ 軍手

鯛焼きバック

- ☐ 粉混ぜ用テント
- ☐ あんさし×2
- ☐ カスタード用さし×2
- ☐ ヘラ×4（あんこ用2、カス用2）
- ☐ 区切り機
- ☐ トレー×5
- ☐ バケツ×4
- ☐ ふるい×2
- ☐ ドリルセット
- ☐ ビーター
- ☐ 計量カップ×2
- ☐ 柄杓×2
- ☐ はさみ×3
- ☐ 軍手
- ☐ ビニール手袋
- ☐ バーガー袋
- ☐ パック
- ☐ 輪ゴム
- ☐ たいやきスタンド
- ☐ スタンド用トレー
- ☐ 在庫を入れる棚
- ☐ 粉混ぜ用テント
- ☐ 粉混ぜ用（補充分）の水を入れるペットボトル

鯛焼き材料

- ☐ 茶たい粉
- ☐ 白たい粉
- ☐ あんこ
- ☐ カスタード

カルメ焼

- ☐ ガスコンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ おたま×4
- ☐ かき混ぜ棒×3

- ☐ 電子はかり
- ☐ 水はかり
- ☐ 水差し
- ☐ 温度計×2
- ☐ 鍋
- ☐ ふきん
- ☐ 温度計を入れる容器
- ☐ ラッピング袋・カラータイ
- ☐ マドラー
- ☐ 在庫保管箱
- ☐ 椅子
- ☐ バケツ
- ☐ トレー

材料

- ☐ ザラメ
- ☐ 重曹
- ☐ たまご
- ☐ グラニュー糖

会計

- ☐ 金庫
- ☐ 電卓
- ☐ タイマー
- ☐ 会計早見表
- ☐ 注文票

③根津・千駄木下町まつりのシフト

1 日目

	たい焼き	たいバック	会計	カルメ	誘導	休憩
9時～10時	佐藤 関根	1 松井 2 占部 3 松本	市島 塚田	野城	井野口	大原 小島 壱岐 久保 友部 高野 平山 丹澤 沖浦
10時～11時	佐藤 関根	1 松井 2 占部 3 松本	高野 平山	沖浦	丹澤	大原 小島 壱岐 友部 塚田 市島 井野口 野城
11時～12時	大原 小島	1 松井 2 占部 3 松本 4 壱岐	市島 高野	井野口	丹澤 平山	佐藤 関根 久保 友部 塚田 野城 沖浦
12時～13時	大原 小島	1 松井 2 久保 3 友部 4 占部	市島 高野	井野口	沖浦 野城	佐藤 関根 壱岐 松本 塚田 平山 丹澤
13時～14時	佐藤 関根	1 久保 2 壱岐 3 友部 4 松本	塚田 平山	丹澤	沖浦 野城	大原 小島 松井 占部 市島 高野 井野口
14時～15時	佐藤 関根	1 久保 2 壱岐 3 友部	塚田 平山	丹澤	小島	大原 松井 占部 松本 市島 高野 井野口 野城 沖浦
15時～16時	大原 小島	1 久保 2 壱岐 3 友部	市島 塚田	野城	井野口	佐藤 関根 松井 占部 松本 高野 平山 丹澤 沖浦

2 日目

	たい焼き	たいバック	会計	カルメ	誘導	休憩
9時～10時	大原 小島	1 松井 2 占部 3 松本	高野 平山	野城	関根	佐藤 壱岐 久保 友部 市島 塚田 井野口 沖浦 丹澤
10時～11時	大原 小島	1 松井 2 占部 3 松本	市島 塚田	沖浦	井野口	佐藤 関根 壱岐 久保 友部 高野 平山 丹澤 野城
11時～12時	佐藤 関根	1 松井 2 占部 3 松本 4 壱岐	高野 塚田	丹澤 野城	市島 井野口	大原 小島 久保 友部 平山 沖浦
12時～13時	佐藤 関根	1 松井 2 久保 3 友部 4 占部	高野 塚田	丹澤 野城	平山 沖浦	大原 小島 壱岐 松本 市島 井野口
13時～14時	大原 小島	1 久保 2 壱岐 3 友部 4 松本	市島 塚田	井野口 沖浦	丹澤	佐藤 関根 占部 松井 高野 平山 野城
14時～15時	佐藤 関根	1 久保 2 壱岐 3 友部	市島 平山	井野口 沖浦	野城	大原 小島 松井 占部 松本 高野 塚田 丹澤
15時～16時	大原 小島	1 久保 2 壱岐 3 友部	高野 平山	丹澤	佐藤	関根 松井 占部 松本 市島 塚田 井野口 沖浦 野城

※たいバック

1 在庫管理・バック詰め 2 あんこ・カスタード 3 羽切り 4 2 と 3 の補助

- ・ 11 時～14 時をピークの時間帯だと設定し、シフトを組んだ
- ・ 混雑時にお客さんの列形成や最後尾看板を持つ配置として誘導というポジションを増やした
- ・ 会計班が白山まつりと同様の人数だと、休憩時間が他の班に比べ少なくなってしまうため、カルメ焼き班より 1 人会計班に移動してもらった
- ・ 2 日目の 15 時～16 時は、片付けの時間となったため、この時間は休憩では無いと考えるべきであった

～当日どれくらい鯛焼きを作るのか～

★根津・千駄木下町まつりの 2 日間で「1000 個」売れると仮定

《生地別》

茶たい焼きが 500 個、白たい焼きが 500 個売れるとすると...

茶粉→20kg

白粉→25kg

《味別》

あんこが 500 個、カスタードが 500 個売れるとすると...

あんこ→25 袋

カスタード→20 袋

なので、

茶粉 20kg、白粉 25kg、あんこ 25 袋、カスタード 20 袋
を 2 日間で使います。

☆参考

茶粉 1kg で 25 個分

白粉 1kg で 20 個分

あんこ 1 袋で 20 個分

カスタード 1 袋で 25 個分

根津・千駄木まつり準備、役割分担

【レンタカー運転】 1日目：松井
2日目：松井（先生）

【シートひき】 佐藤・関根・大原・小島
＊終わり次第、机と焼き台のセット

【粉テント、カルメセット】 沖浦・丹澤

【粉準備】 友部・松本・平山・野城

【たい焼きバック】 久保・壺岐・占部

【会計】 市島

【看板】 塚田・井野口・高野・松井
＊看板の準備は最優先！終わり次第、各自役割ごとの準備をお願いします！

《洗い物》

1日目：佐藤・関根・丹澤・松本
2日目：松井・沖浦・野城・占部

《帰りレンタカー》

1日目：松井
2日目：佐藤

◎当日スケジュール◎

1日目

- 07:30 学校出発(徒歩)
- 08:00 根津神社集合
車が到着し次第、荷物を降ろし屋台設置開始
- 09:00 設置終了、集合写真撮影！
- 09:30 カルメ焼き販売開始
- 10:00 たい焼き販売開始(ストック出来次第)

☆シフト通りにそれぞれ行動！

- 15:30 洗い物担当の人は学校へ移動
- 16:00 おまつり1日目終了、片付け
- 18:00 打ち上げ！
- 20:00 解散

2日目

- 08:00 南水会館出発
- 08:30 根津神社集合、準備開始
- 09:30 カルメ焼き販売開始
- 10:00 たい焼き販売開始(ストック出来次第)

☆シフト通りにそれぞれ行動！

- 15:30 洗い物担当の人は学校へ移動
- 16:00 おまつり2日目終了、片付け
- 18:00 打ち上げ！
- 20:00 解散 お疲れ様でした！！

おもちシフト

		釜・餅つき	餅切り	仕分け	大根おろし	きな粉	パック詰め
10:00～	準備	全員					
11:00～	販売開始 ①	坂本	山口	吉野	上野	會田	奥川・金井・一條
11:25～	②						
11:50～	③						
12:15～	④	岡本	徳田	三浦	今井	山村	堀江・手塚
12:40～	⑤						
	完売 → 片付け	岡本・徳田・三浦・今井・山村・堀江・手塚					

※仕分け＝切った餅を大根おろし or きな粉に分ける人

4 年生根津・千駄木下町祭り一日のタイムスケジュール

当日の集合は、学内で大根おろしを作るグループ、現地集合で 3 年生を補助するグループにわけた。

〈大根おろしづくりグループ〉

8:00 学校集合

つなぎに着替えしだい、大根おろしづくり開始

9:00 現地到着

(4 年全体)

9:00～ おもちの準備

10:00～ おもち販売開始

販売開始以降、売れ行きを見ながら順次もち米を蒸し、おもちを作っていく。

シフトの交代は、前半が 3 回分作ったら後半シフトと交代する

15:00 おもち完売、片付け

*良かった点

- ・大根おろしを学校集合でつくる班をつくり、分担して行えたことで効率よくできた。
- ・予定をしたスケジュールで進まないことが多かったが、その時その時に合った計画で進めることができ、その結果おもちも完売させることができた。

*改善点

- ・計画していたスケジュール通りに進まなく、スケジュール立てが甘かった。お客様がたくさん来た場合と、お客様が少なかった場合の両方のスケジュールを立てたらもっとスムーズに動くことができたと思う。

④下町まつり 反省点

《全体》

- ・忘れ物が無かった
- ・声のでていた
- ・海外からのお客さんがたい焼きとカルメ焼きに興味を持ってくれた
- ・日本語が通じない方への対応に戸惑ってしまった
→来年度は訪日外国人に対応できるように改善
- ・実演販売をしていたため、目の前で多くの人が立ち止まってくれた



・1日目にたい焼き・カルメ焼きの旗をつけていなかったため、お客さんからしたら何を販売しているのかを一目でわからなかった(下記の写真参照)



1日目



2 日目

《たい焼き》

- ・抹茶味がなくなり 2 種類になった為、少し余裕ができた
- ・粉の補充は余裕をもって準備を始めたので、途中で切らすことはなかった
- ・あんこが人気で、カスタードは思っていたほど売れなかった
- ・2 日目の朝、ラードが不足してしまった
- ・大量注文が来ると焦ってしまった
- ・生焼けを出してしまった
- ・在庫が足りなくなった際、売り止め(準備中)にするタイミングを決めておくべきだった
- ・販売再開のタイミングを決めておくべきだった
- ・一部の備品が足りなかった

《カルメ焼き》

- ・2 日目にアルミホイルが無くなった(たい焼きも同じ)
- ・ガスコンロをもう 1 台持っていくべきだった(2 日目)
- ・ガスコンロ(火元の箇所)はよく手入れしておくべきだった
- ・2 日目の在庫不足に備え、1 日目は最後の時間までプレーンは作り続けるべき
- ・2 日目に在庫が無くなり、出来立てを渡さなければならなくなり、ラッピング袋だと熱くて溶けてしまうため、急遽バーガー袋で対応した

《会計》

- ・たいバックとの在庫確認の連携が取れた
- ・4 年生のお餅が増えた分、対応に手間取った (1 日目)
- ・売り切れ (準備中) のタイミングを確認しておくべきだった

⑤根津・千駄木まつり 店舗外観

ア. サイン

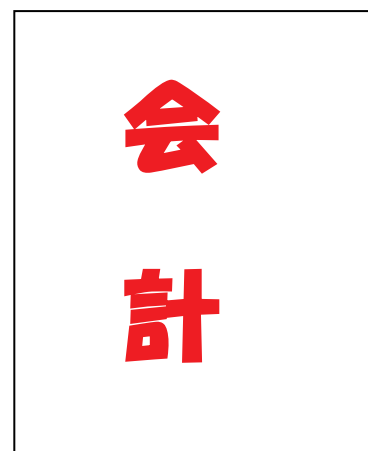
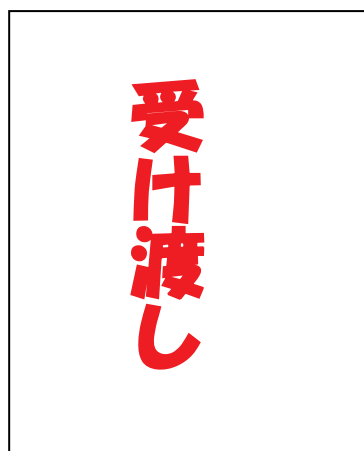
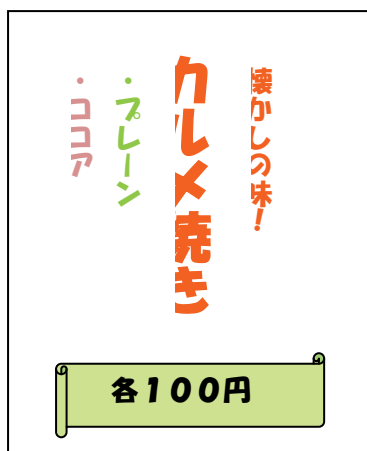
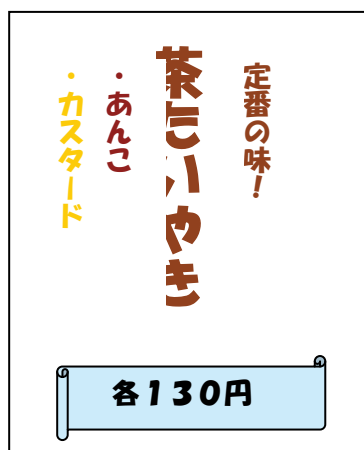
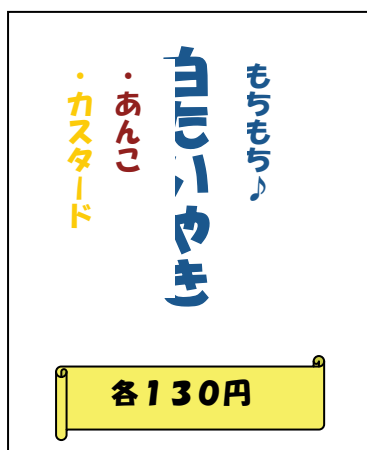
販売商品及び、会計の場所を示すため、A3サイズの表を作成。店舗の前垂れ部分と上の棒部分に取り付ける。

作成物：サイン（商品名、価格、味の種類、キャッチフレーズ）

会計案内

受け渡し場所案内

作成方法：wordで作成したものをA4で分割印刷してA3サイズになるように貼り付け、ラミネートをした。サインはそれぞれ前垂れに貼る用と上に貼る用の2枚を用意する。前垂れ用は安全ピンで取り付けるため、上部にはパンチで穴を開けておく。



メニュー表を作成し、レジのショーケース上に配置する。注文時にお客様に見ていただくことを想定して作成する。

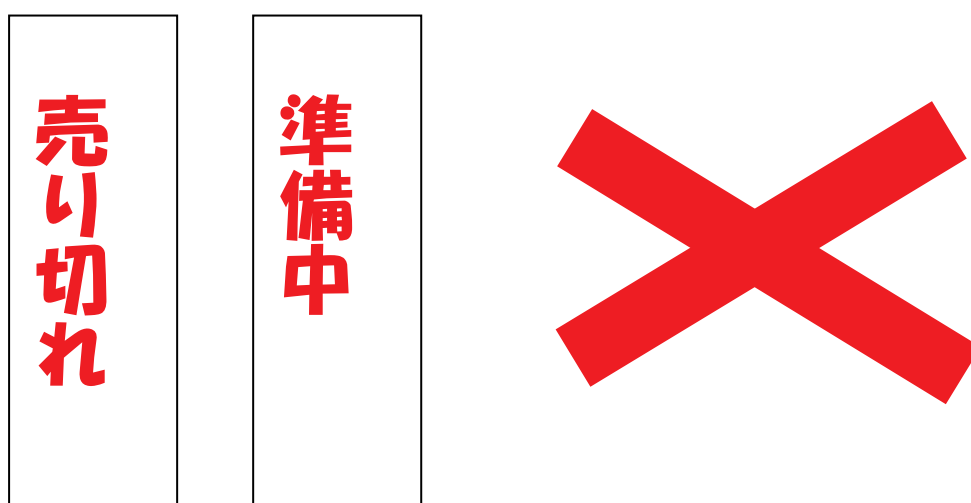
作成物：アクリルケースに合わせたサイズのメニュー表（商品名、味の種類、価格）

作成方法：word で作成した物をラミネートし、アクリルケースに挟む。



ウ．売り切れ・準備中札

売り切れの際に分かりやすいよう、サインとメニュー表に貼って使う、売り切れと準備中の札を準備した。



エ. 反省点

サインに関してはその食べ物のイメージする色を用いて書いたが、ぱっと見やすく目を引くためには色を統一させはっきりとした色を用いるべきだと感じた。キャッチフレーズは除いて、商品名と価格のみで良かったのではないかな。

メニュー表はレジのショーケース上のみに配置されていたが、列が並んだ時効率良く会計ができるよう、メニュー表は複数枚用意し、待っているお客さんにも配って見てもらう配慮が必要だった。

今回前もって売り切れ・準備中の札を作成していたため、スムーズに案内できたことは良かった点であった。

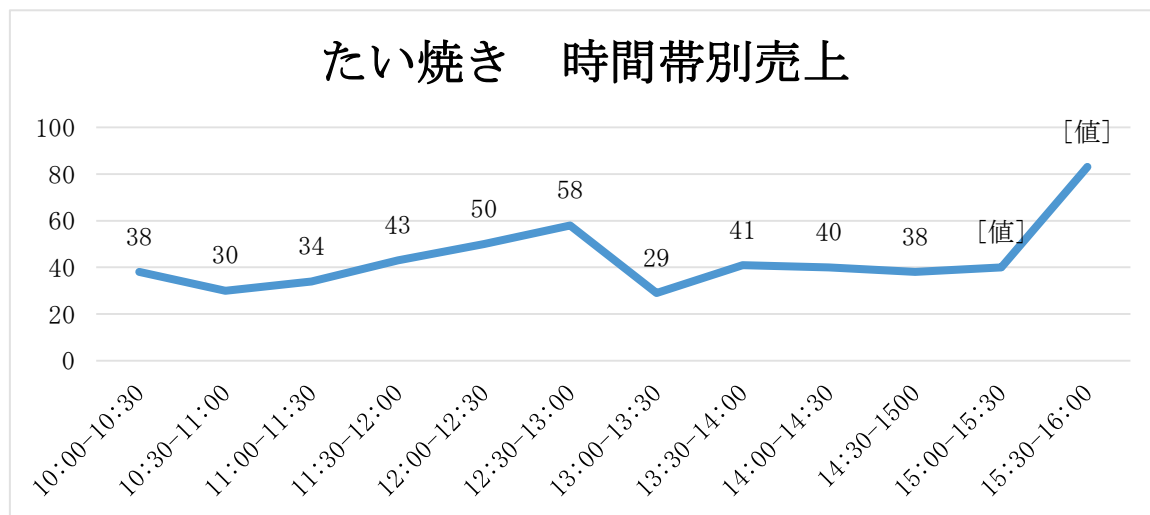
(2) 調査班報告

①出展事業報告

<販売結果>

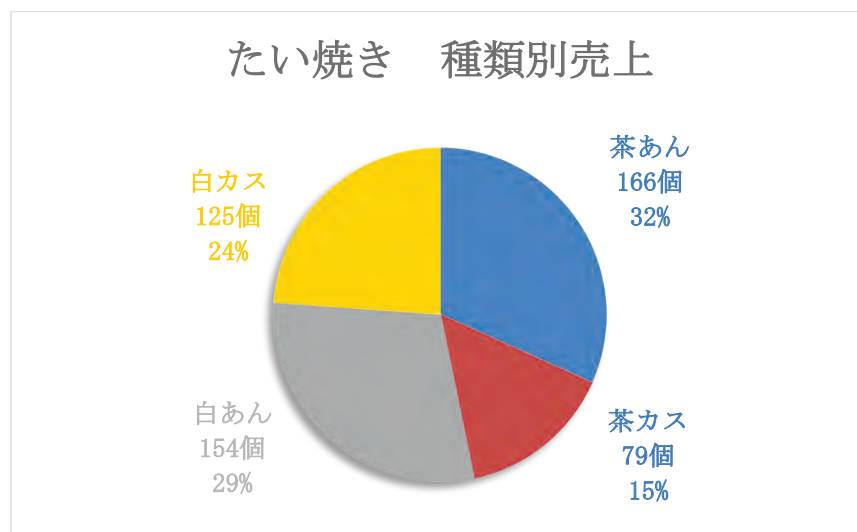
ア. 1日目のたい焼き販売結果

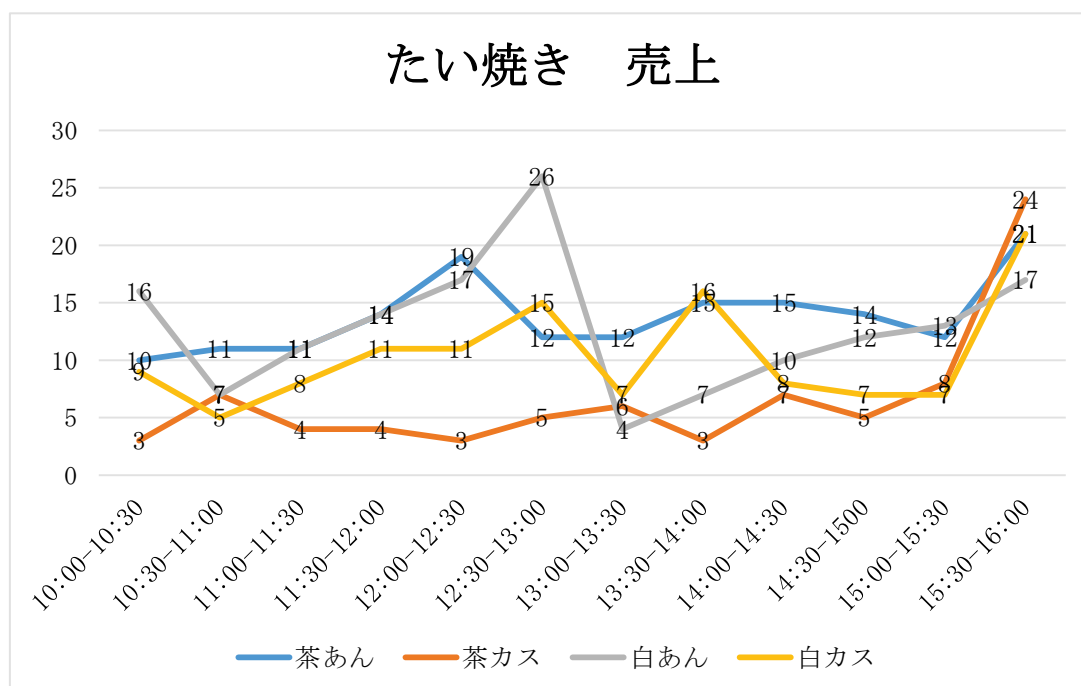
i) 時間帯別



下町祭り1日目は10時から販売を開始した。最も売れた時間は15時半から16時までの30分で、祭り終了時刻が迫ってきたと同時に駆け込みで買う購入者が多かったと考えられる。またグラフからお昼をすぎて売り上げが下がっていることが読みとれ、昼食に購入した利用客が多かったと考えられる。

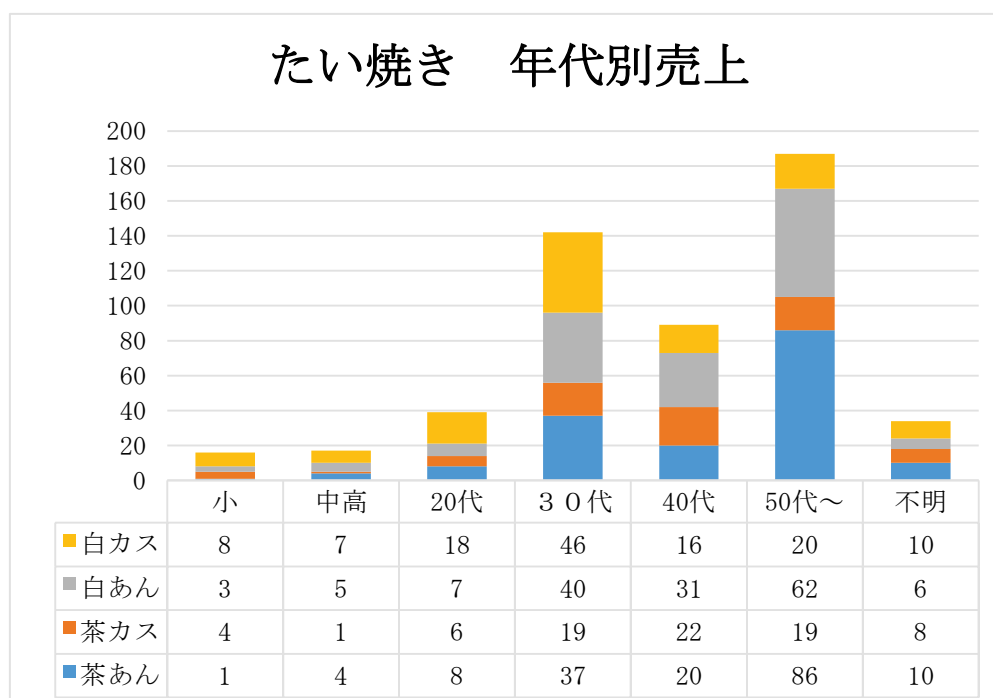
ii) 種類別





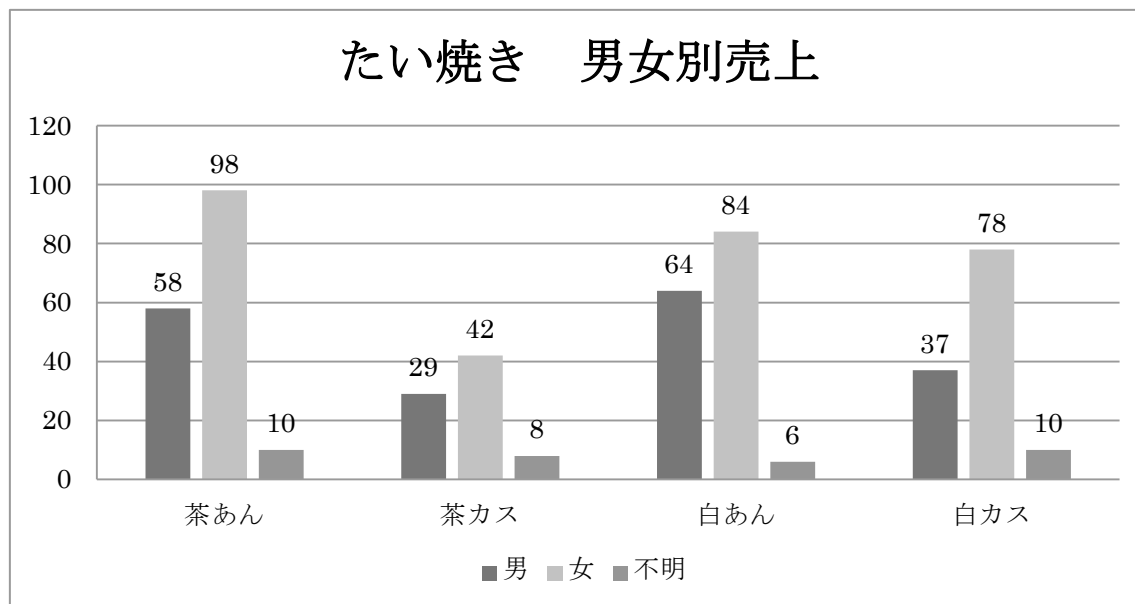
種類別にみると、茶色の生地のあんこが最も売れており、次いで白い生地のあんこが売れている。時間でみるとそれぞれの時間帯で波が大きいことが読み取れる。

iii) 年代別



たい焼きをもっとも購入した世代は50代である。次いで30代、40代に売れた。あんこはどの世代にも売れているが、カスタードは若い世代からの支持が大きいことが分かった。

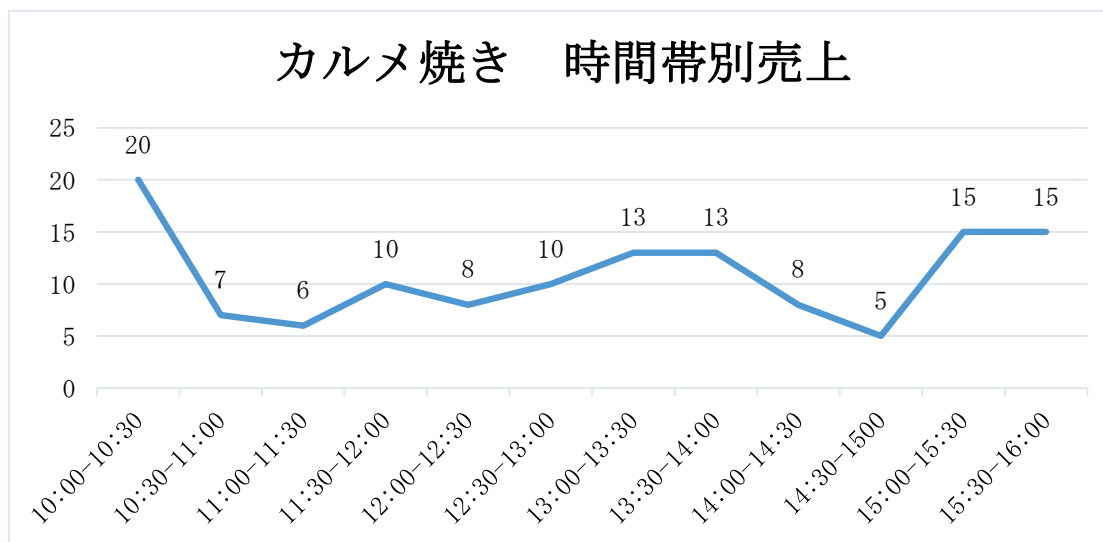
iv) 男女別



男女別にみると、どの種類の味も女性の方が多く購入したことが読み取れる。男性に最も人気のあった味は白い生地のおあんこであり、女性にもっとも人気のあった味は茶色の生地のおあんこである。

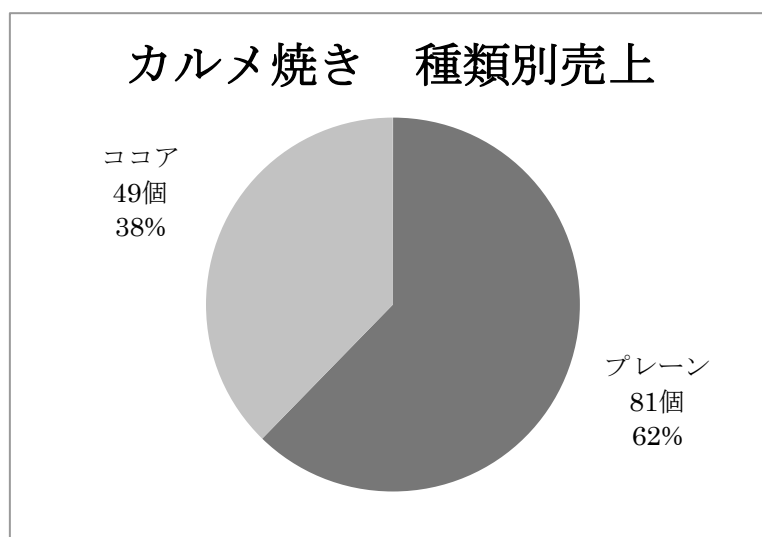
イ. 1 日目のカルメ焼き販売結果

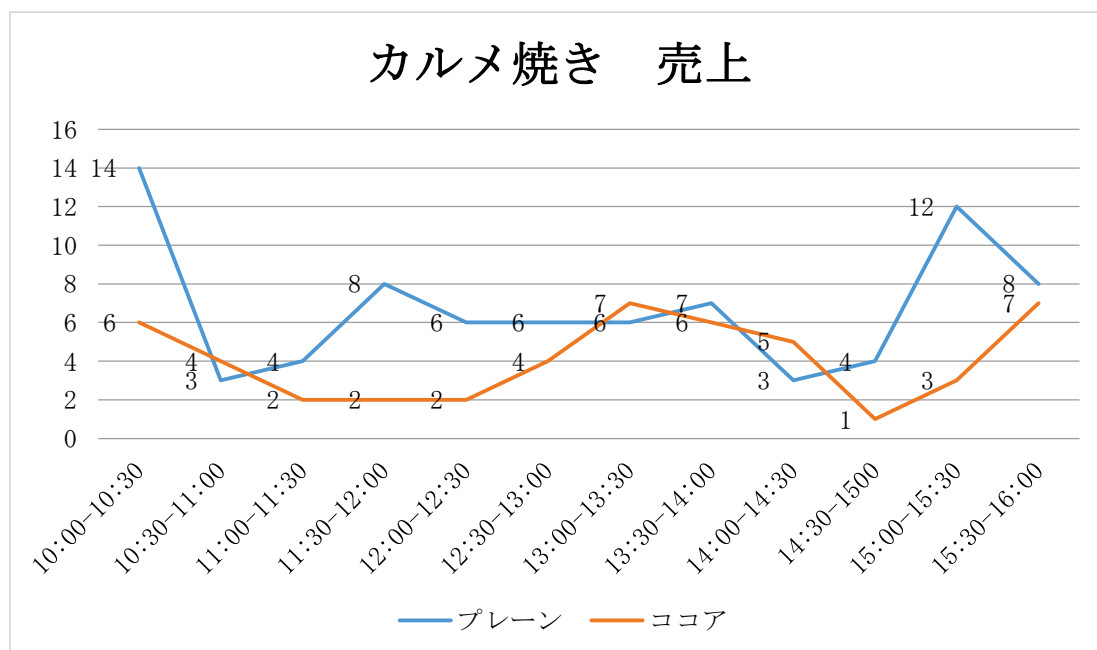
i) 時間別



カルメ焼きが最も売れた時間帯は 10 時半～11 時の間である。まだ、他の店舗も開店しておらず、たい焼きも餅も販売してなかったため、売上が伸びたと推測できる。平均して 30 分で約 10 個カルメ焼きが売れた。

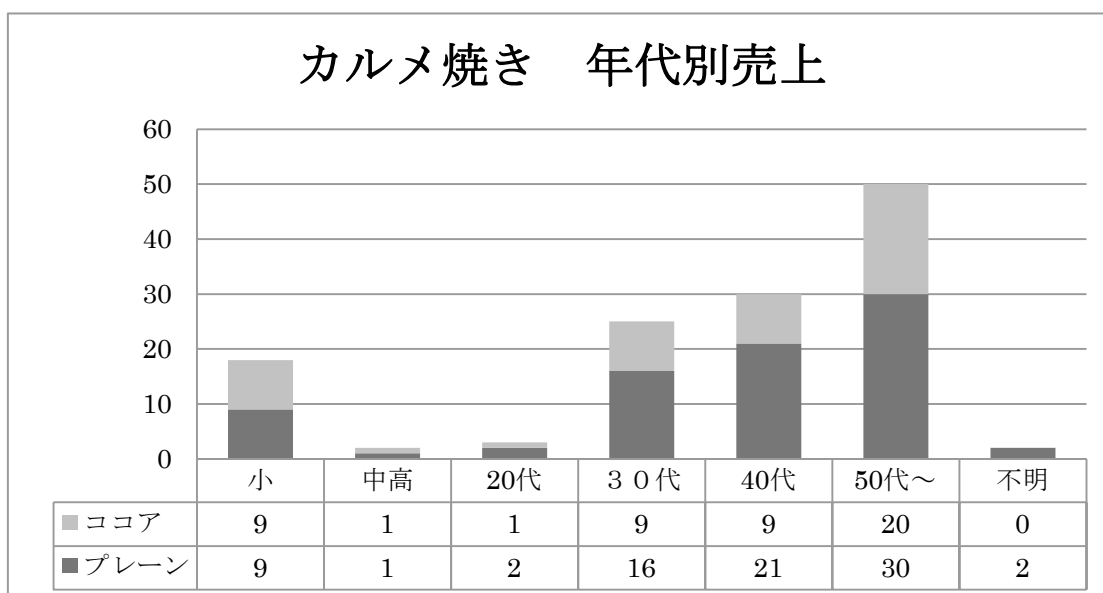
ii) 種類別





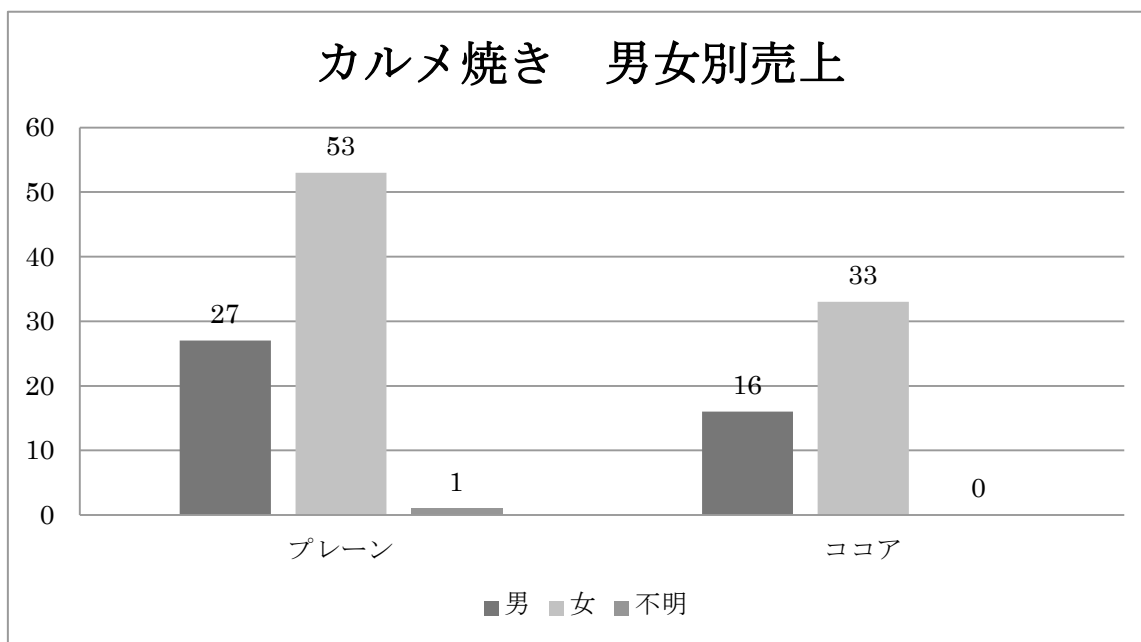
種類別にみると、プレーン味が62%、ココア味が38%でプレーン味がよく売れた。在庫を約200個用意したため、在庫不足には陥らなかった。また10時に次いで15時からプレーンが味の売りが伸びたのは、おやつに購入した利用客が多かったのではないかと考える。

iii) 年代別



最も売れた世代は50代、次いで40代、30代で中高生や20代からの人気は低いことが読み取れる。しかし30代～50代の大人は昔食べた味を懐かしんで購入する人も多く、楽しんでいる様子だった。

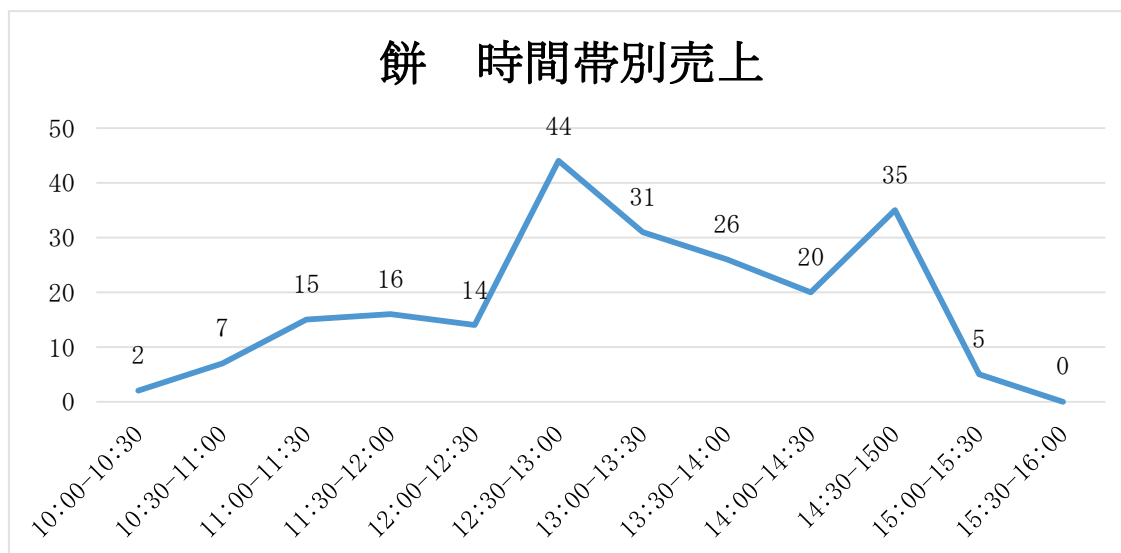
iv) 男女別



カルメ焼きもたい焼きと同様に、女性の利用客が多かった。男性、女性ともにプレーン味が人気であった。

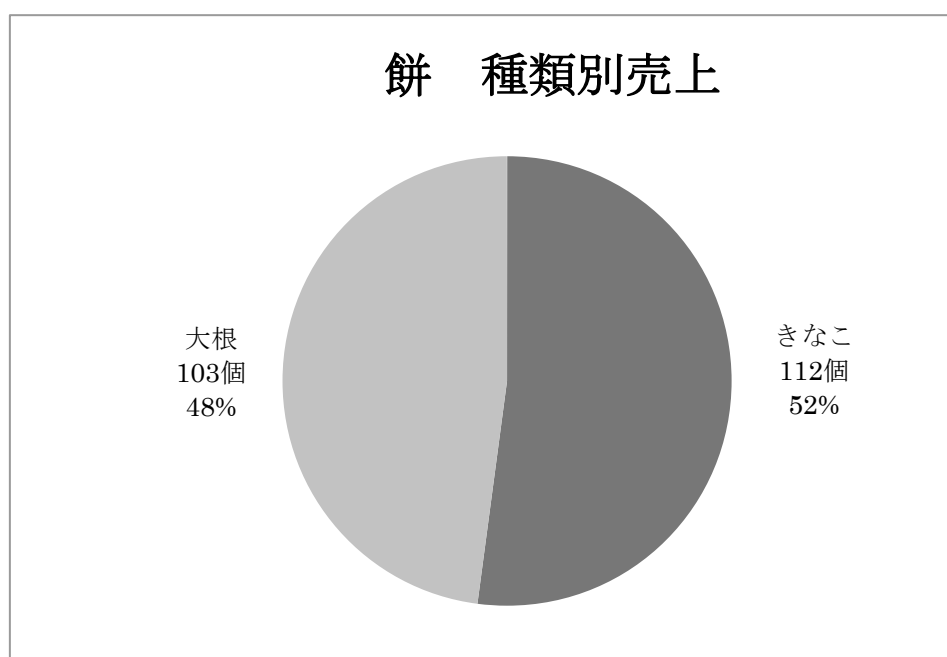
ウ. 1 日目の餅販売結果

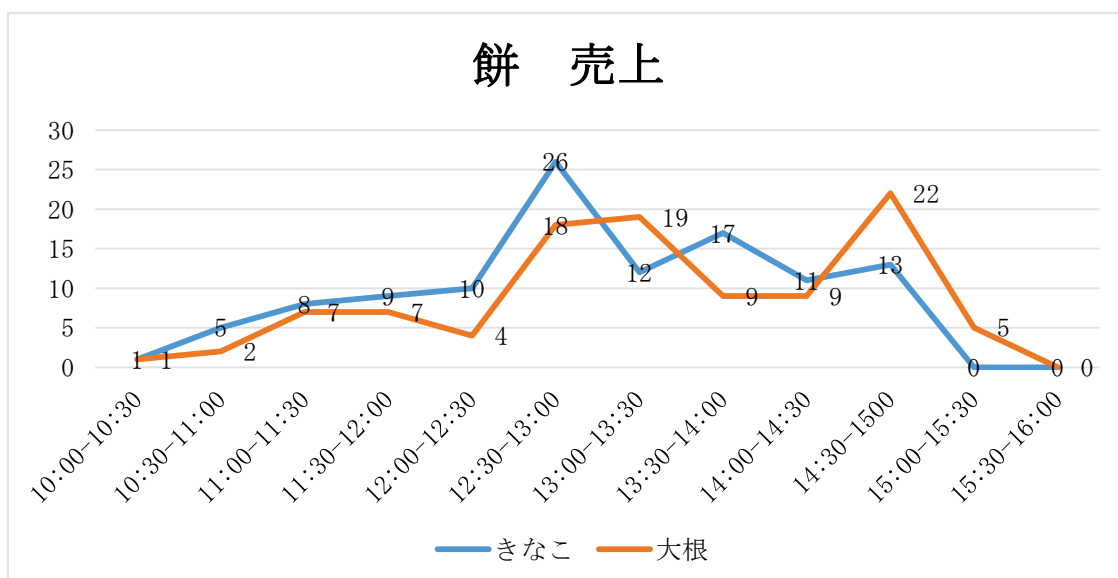
i) 時間帯別



餅は10時半から販売を開始した。お昼までの販売個数は低かったが、12時半を過ぎてから急激に売れ始めた。たい焼きやカルメ焼きに比べて餅を昼食に購入する利用者が多かったと考えられる。

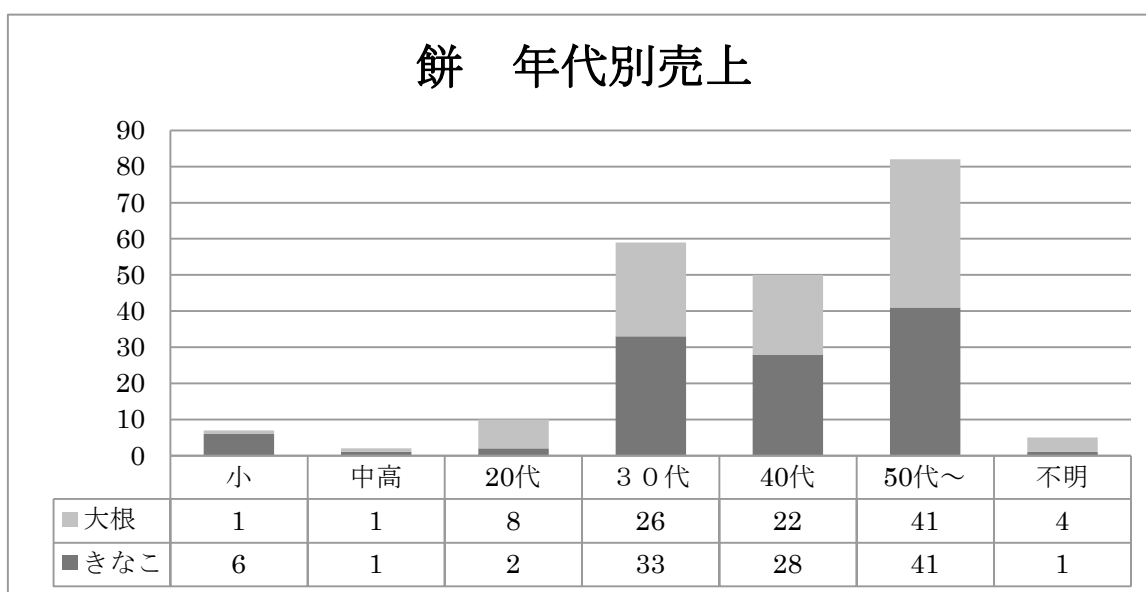
ii) 種類別





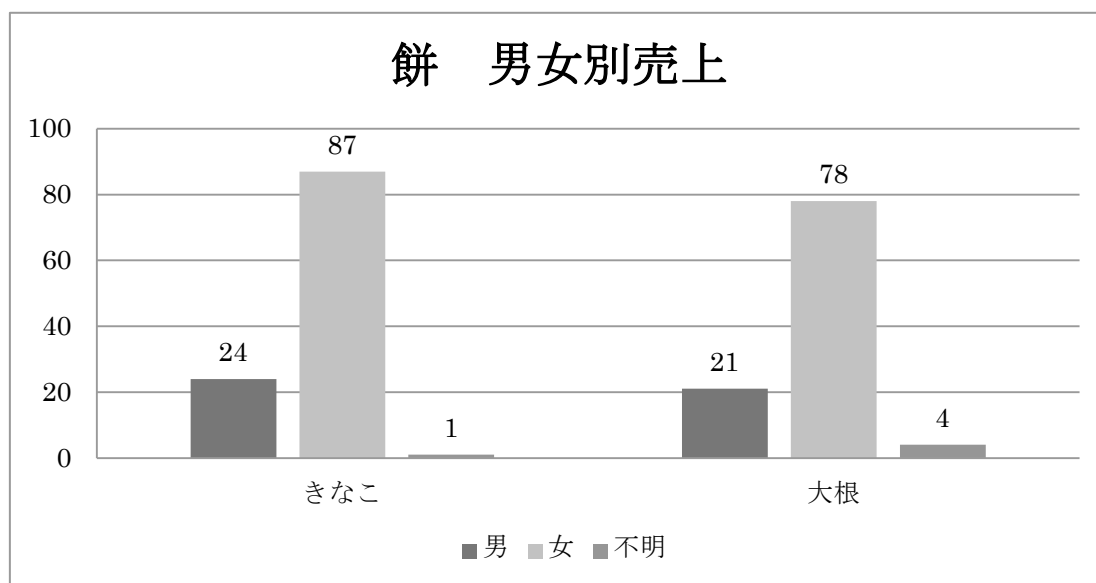
大根もきなこもほぼ同量のパックを用意したため、最終的な売り上げは大差なかった。大根もきなこもお昼から売れだし時間帯によって大根ときなこが反比例して売れた。

iii) 男女別

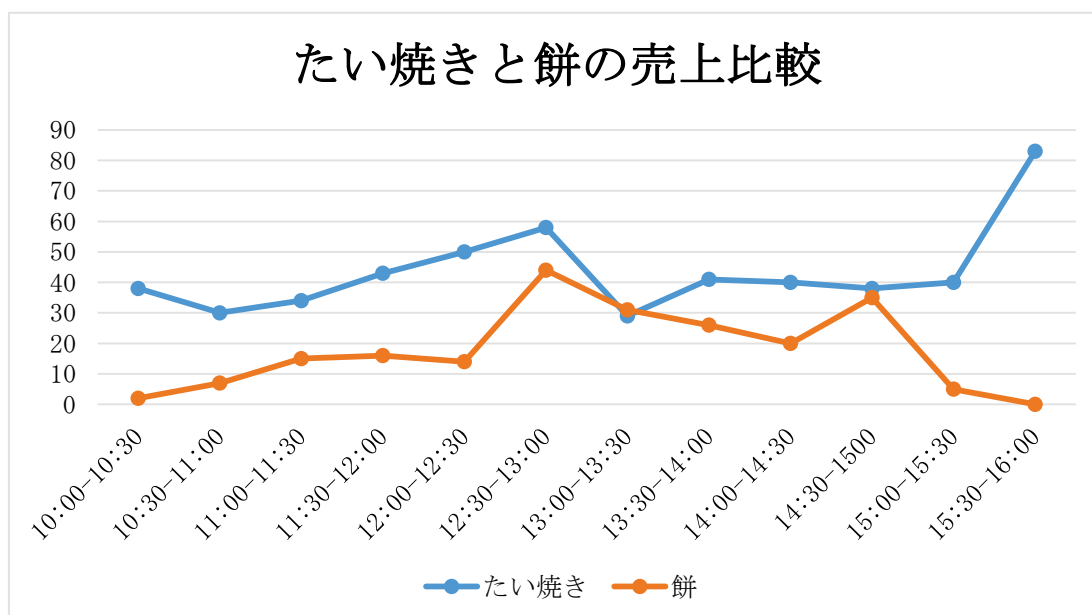


すべての年代においてきなこの人気が高いことが読み取れる。しかし20代においては、大根のからみ餅がよく売れた。最も購入した世代は50代で、比較的30代～50代の年代に売れると考えられる。

iv) 男女別



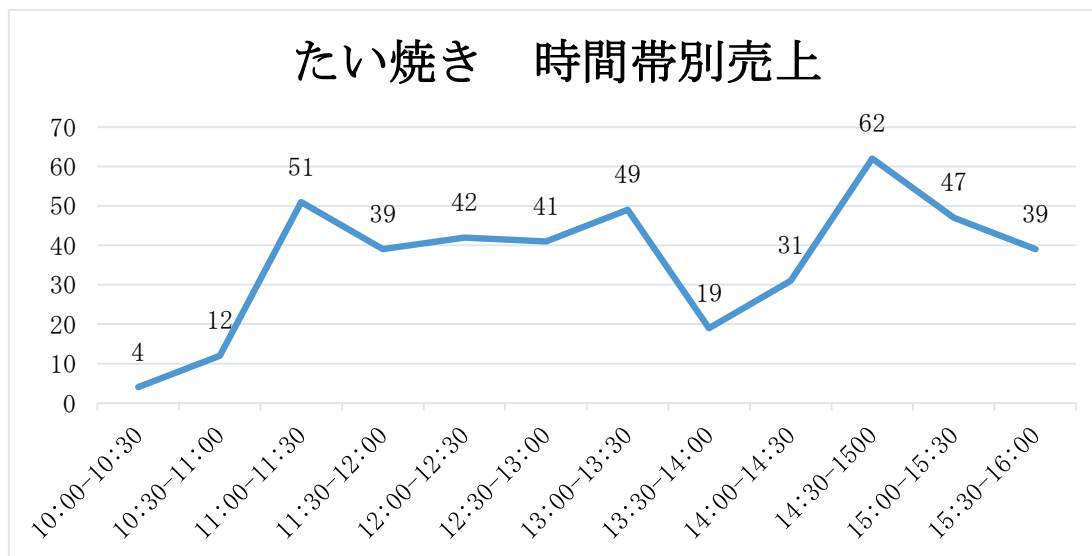
餅も、たい焼きとカルメ焼きと同様に、女性の購入者が多いことが分かった。わずかな差ではあるが、男女ともにきなこ餅が売れた。



たい焼きと餅同時に販売を開始し、12時まで同じような売り上げ率を保っているが、13時半と15時において売り上げが同じになった。これはお昼のピーク時と15時のおやつ時に来場者が集中したと考えられる。また餅の在庫が減っていくとともにたい焼きの販売個数が増えており、餅の人気が高かったと言えるだろう。

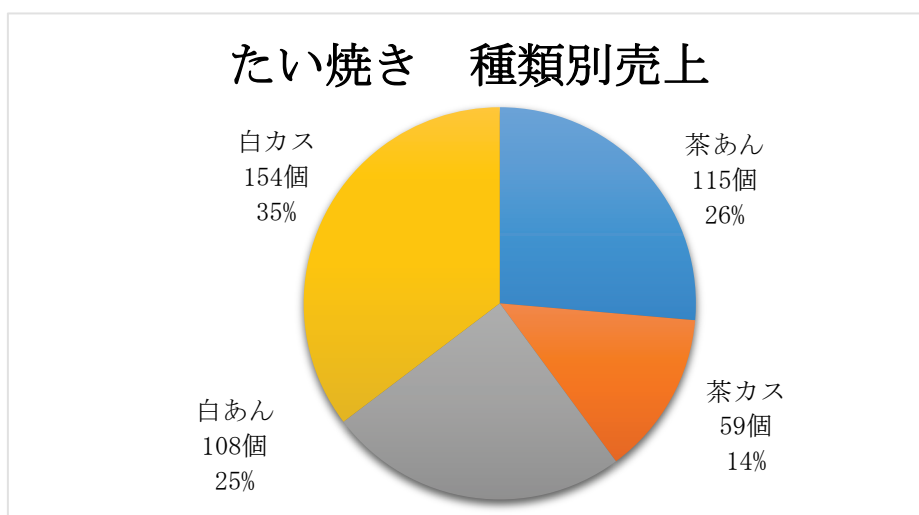
2 日目のたい焼き販売結果

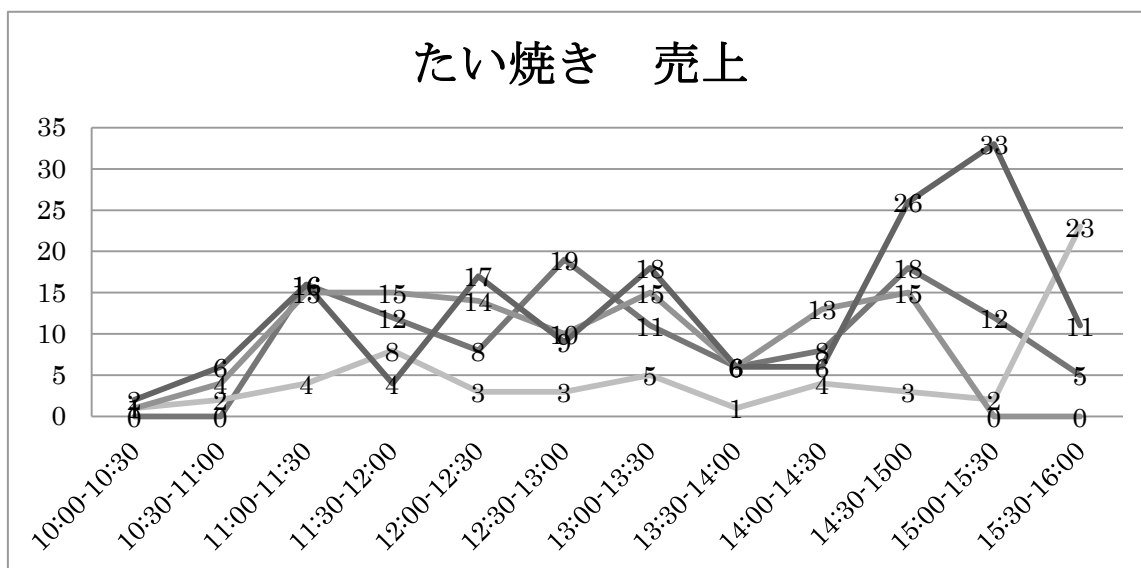
i) 時間帯別



2 日目は、1 日目と比較すると売り上げに波がある事が見て取れる。この波の原因はお昼のピーク時にたい焼きが売れすぎてしまい、生産が追い付かず在庫が足りなかったことが原因だと考えられる。1 日目は餅も同時に売っており、このような売り上げのばらつきがなかったことから2 日目は昼食にたい焼きを購入する利用客が集中したと考えられる。

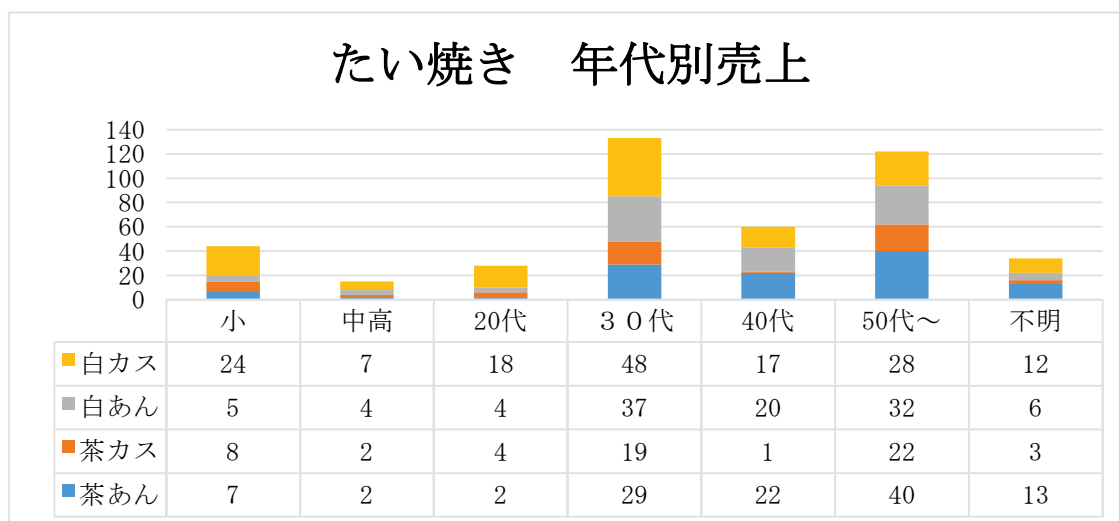
ii) 種類別





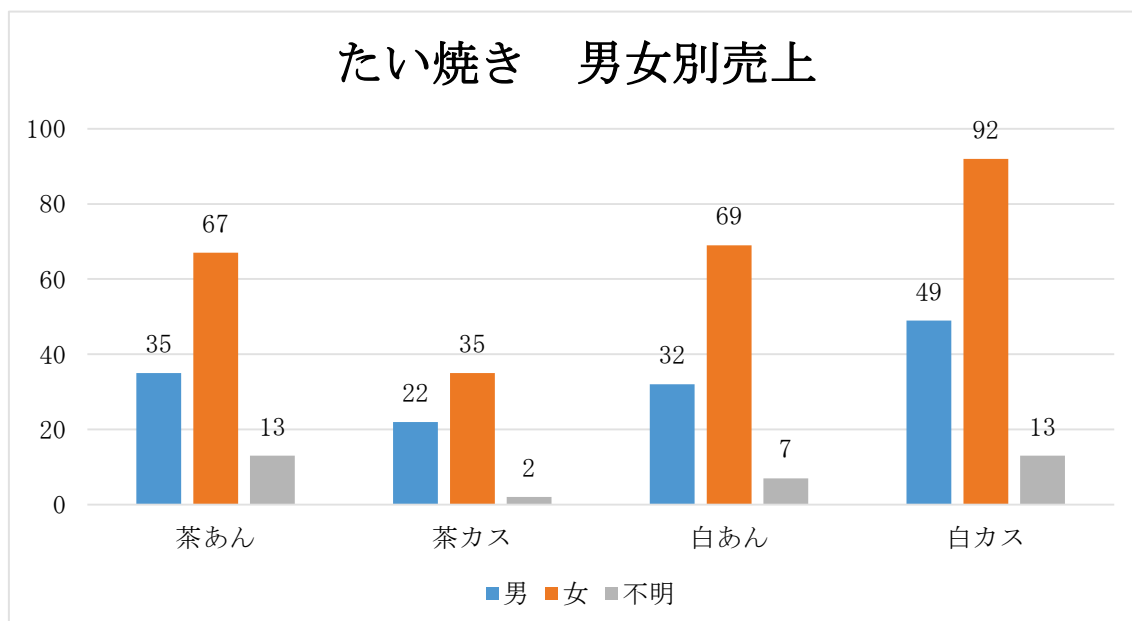
最も売れた味は、白い生地のカスタードである。次いで白い生地のあんこが売れた。比較的に前半はまんべんなく売れたが、後半カスタードが売れたのはあんこの在庫がなくなったからだと考えられる。茶色の生地のカスタードの売れ行きが非常に悪かったが、あんこの在庫がなくなるとともに売り上げを伸ばしていった。

iii) 年代別



1日目の来場者は50代が多かったのに対し、2日目の来場者は30代が50代を上回った。小学生の来場者も1日目を上回ったことから、家族で訪れる利用客が多かったと考えられる。また、50代以上では茶色の生地のあんこが人気であるのに対し、白い生地のカスタードは若い世代から人気であった。

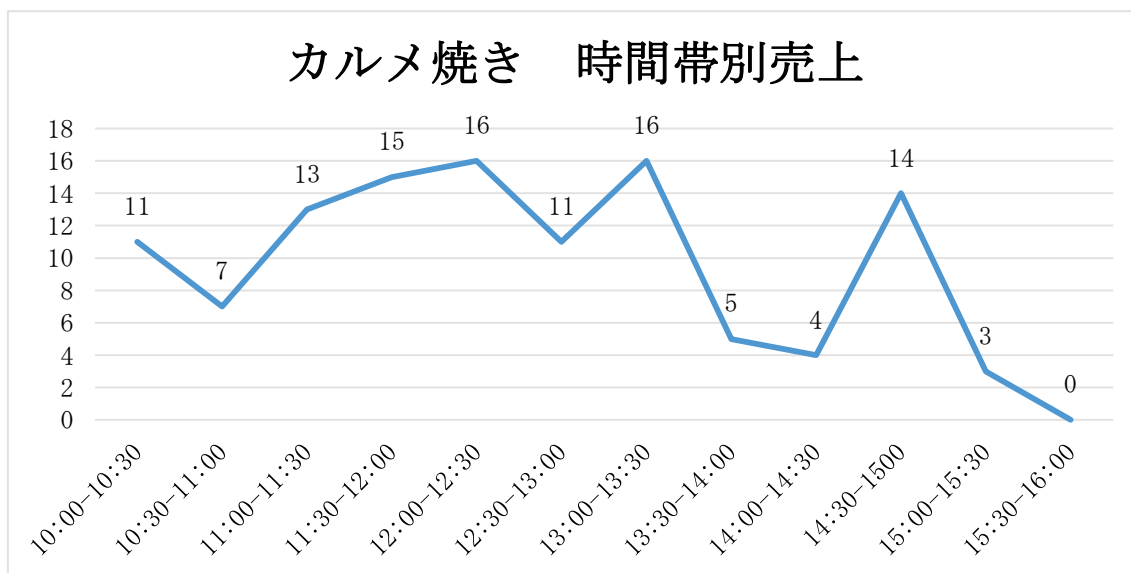
iv) 男女別



2日目も1日目と同様に女性の購入者の割合が多い。1日目と比較すると、茶色の生地のカスタードを購入する男性客が減少した。

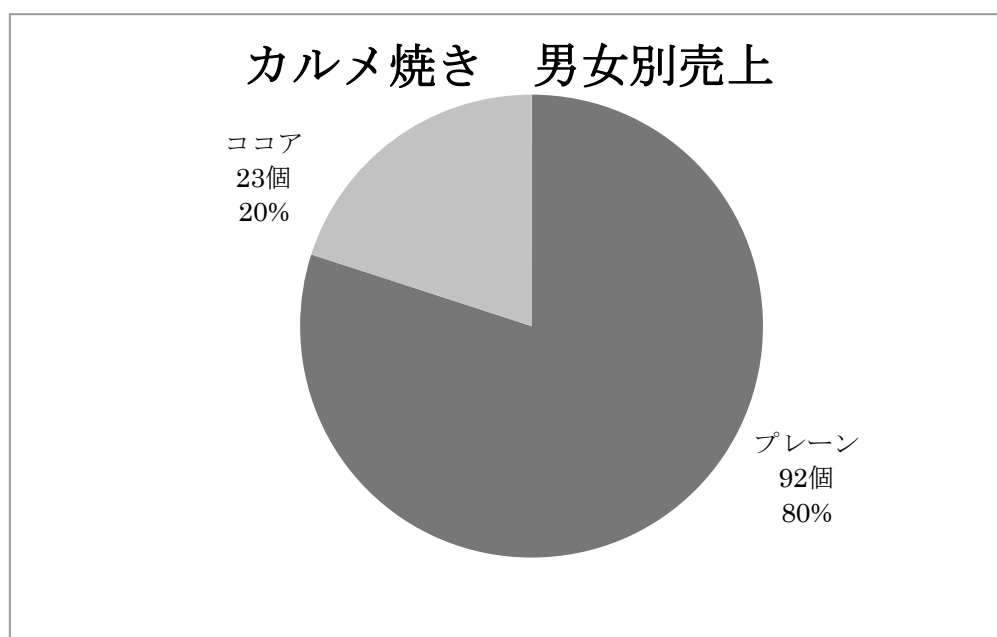
オ. 2日目のカルメ焼き売り上げ

i) 時間帯別

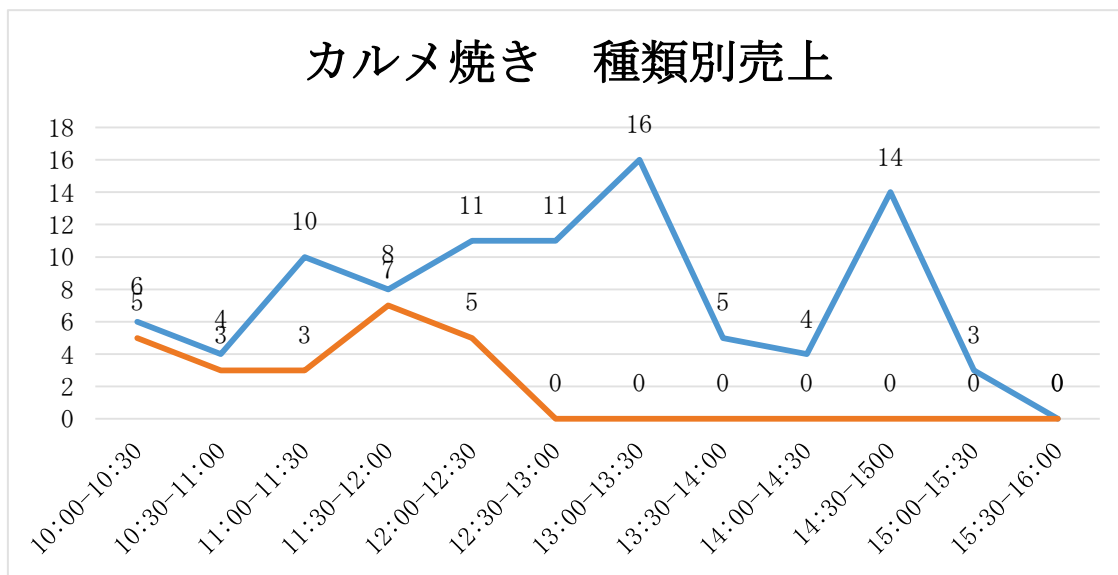


カルメ焼きは12時半と13時半に最も売れている。2日目も1日目と同様に平均して30分に10個カルメ焼きが売れている。

ii) 男女別売上

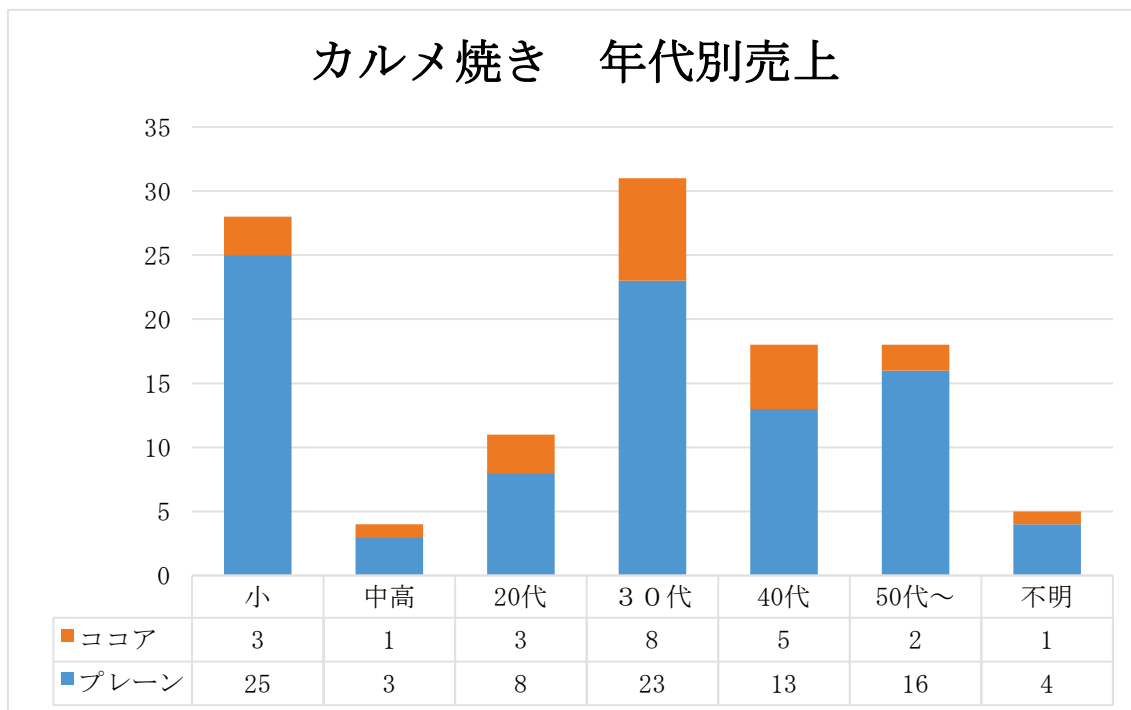


iii) 種類別売上



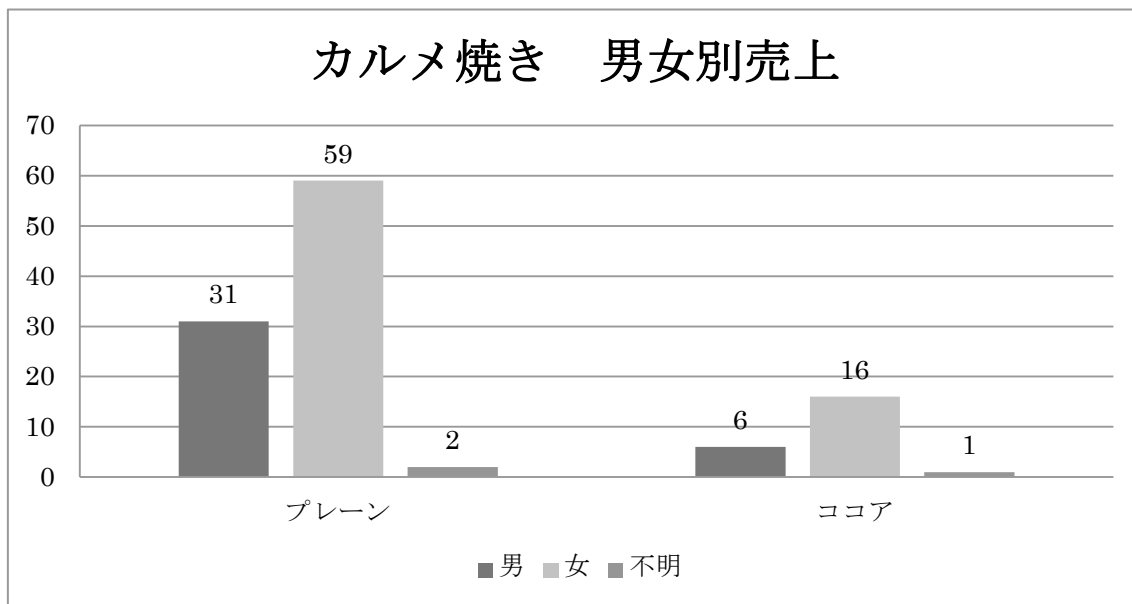
1 3時までにココア味のカルメ焼きの在庫が無くなってしまったことにより、プレーン味のみでの販売になってしまったが一日目と量は変わらずに売れている。

iv) 年代別



カルメ焼きは30代に最も売れたが、次いで売れたのは小学生であった。実演販売をしていた所に子供が興味を示したと思われる。

v) 男女別



2日目も1日目と同様、女性の利用客が多くプレーン味が圧倒的に人気であった。

②下町まつりサブ会場調査

調査内容

サブ会場を周り、利用者の把握や開催の意図を知ることが目的である。

ア. [不忍通りふれあい館]

＜調査結果＞



イベント内容（10月18日）

- ・邦楽コンサート
尺八と琴のコンサート
1階多目的スペースにて



- ・ダンスパフォーマー
You Can
1階多目的スペースにて



- ・弦楽コンサート
千駄木親子オーケストラ
地下ホールにて

- ・会場の様子
椅子が多いため、のんびり出し物を鑑賞することができる。会場入り口にパンフレット等並べており手にするひとが多かったように思う。スタンプラリーもみやすい場所に設置してあった。

＜まとめ・考察＞

普段は公民館として利用されているため、地元のひとからも馴染みがあるのではないかと感じた。調査隊は、邦楽コンサートとダンスパフォーマンスを拝見したが、どちらも観客が60～80人と多く、例年同じ演目を発表しているため、集客力が強いのではないのかと思う。邦楽コンサートはご年配の方の割合が高く、ダンスパフォーマンスは家族連れからご年配の方まで幅広い世代を魅了していた。

イ. [藍染め大通り]

<調査結果>



イベント内容（10月18日）

- ・ まちなみパネル展示
- ・ 街並み散策
- ・ ストリートマーケット（近隣店舗の出店）



・ 会場の様子

和太鼓等の演奏の時間は比較的人が多く、40人程の流動があった。サブ会場を利用し、さらに近隣店舗の利用が多かったように感じた。

<まとめ・考察>

メイン会場から最も近いサブ会場だったため、人の流れが多く感じた。また、昔遊びをするために親子連れの来場も多かった。

ストリートマーケットを利用する人も多く、物販も盛り上がっていた。

ウ. [宮永大通り]

<調査結果>



イベント内容（10月18日）

- ・ 姓名判断
- ・ 人力車
- ・ かつぼれ



- ・ 和太鼓演奏



- ・ 会場の様子

午前中は出し物が無く、人手は少なかったが、午後から開始されたイベントと共に人通りが多くなった。

<まとめ・考察>

“かつぼれ”に触れる機会があまりないので、珍しい出し物に多くの観客が感激していた。下町らしさが出ているイベントが多いのは素晴らしいと思う。

だが、通りで“かつぼれ”を行なっているため、通行の妨げになっているように見受けられた。また、スタンプラリーの場所が分かりづらい点も気になった。

エ. [千駄木2丁目会場]

＜調査結果＞



イベント内容（10月18日・19日）

漫画家・一丸さんの原画展

初日の18日は原画展のみで、人出は3～5人であった。



荒汐部屋の力士による餅入りちゃんこの販売

二日目は、荒汐部屋の現役力士達による餅つきを行っていた。餅入りちゃんこの販売を開始すると、150人ほどの人々が行列を作った。



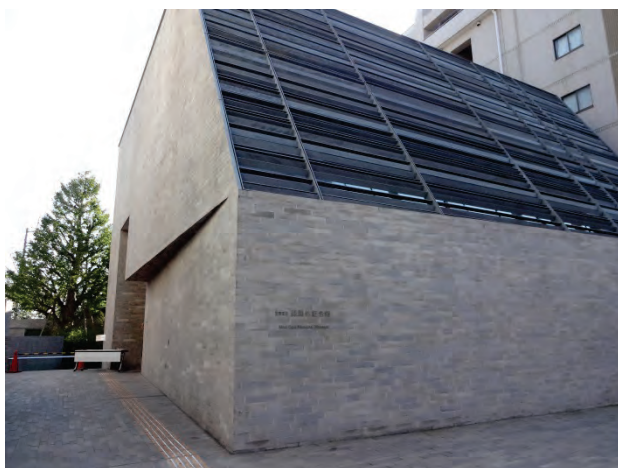
お餅を付く音に合わせて掛け声が上がっていて賑やかな会場であった。

＜まとめ・考察＞

初日は原画展だけだったので人出は見られなかったが、二日目はちゃんこの販売もあり、荒汐部屋は地元が応援している部屋でもあり、来場者の中にもファンが多く、盛り上がっていた。

オ. 【文京区立森鷗外記念館】

<調査結果>



・イベント内容（10月18日）

スタンプラリー

・会場の様子

左の写真は、森鷗外記念館の正面入り口である。正面入り口の手前はシャトルバスの停留所となっており、訪れたときにちょうどバスが止まっていた。来場者はあまり多くなく、およそ4人だった。

<まとめ・考察>

森鷗外記念館は、根津・千駄木下町まつりの開催期間中、シャトルバスの停留所とスタンプラリー会場となっていた。入り口前でスタンプラリーの受付が行われていたほかにまつりに関連した催し物は行われていなかった。森鷗外記念館はほかのサブ会場に比べて静かな印象で訪れる人も少なかった。調査をした10月19日（日）は特別展「流行をつくる一三越と鷗外一」の開催期間（2014年9月13日～2014年11月24日）で、通常の展覧会に加えて日本初のデパート、三越と森鷗外の関係についての展覧会が行われていた。スタンプラリーの会場にはなっているものの、おまつりらしい雰囲気あまり感じられず、残念に思う部分もあったが、スタンプラリーを巡るひとがこの地域にゆかりの文豪について学ぶことができる良い機会になっていると感じられた。

カ. 【根津銀座通り】

<調査結果>

・イベント内容（１０月１８日）

櫻川流江戸芸かっぽれ（根津銀座通り）、ジャズ演奏（根津銀座会場）



・会場の様子

① 14:20

根津銀座会場前の通りでは、「櫻川流江戸芸かっぽれ」のパレードが行われていた。カメラを片手にパレードをみる人や、立ち止まって見とれている通行人がまばらに見受けられた。



② 14:30

42人

根津銀座会場では、ジャズライブが行われていた。会場内の座席は28席だったが、トップバッターの「松下バンド」の演奏が開始される頃には満席となり、立って演奏を鑑賞する人が多く見受けられた。鑑賞者の年齢層はおよそ30代から60代であった。



③ 16:00

48人

プロの演奏団体「サミーとゆかいな仲間たち」のパフォーマンスでは、会場内はさらに盛り上がりを見せた。サミー音楽教室の生徒と思われる人たちが多く見受けられた。

<まとめ・考察>

根津銀座会場内では飲食ブースが設置されており、ワインやビール、日本酒や商店街のダイニング・バーによる軽食がお手頃な価格で販売されていた。演奏を鑑賞しながら食事をする人が多くいた。また、根津銀座商睦会加盟店舗のお得なサービスが受けられるチラシが配られていた。こじんまりとした会場で座席数が少なく、会場に人が入りきっていない様子だったので、もうひとまわり大きなスペースで行われてもいいのではと感じた。

キ.[よみせ通り延命地蔵尊]

<調査結果>



・イベント内容（10月18日）

スタンプラリーと屋台（焼きそば、ポップコーン、磯辺巻き）

・会場の様子

近くには休憩スペースが設けられており、屋台で食べ物を買った後に、利用されている方が見られた。

来場者にくじを開催しており、当たり

くじがでたらポップコーンが無料などユニークな企画も行っていた。



家族連れの方が多く、子供と一緒にスタンプラリーをしている方がよく見られた。また、延命地蔵尊を拝もうと、並んで待つ方も多く見られた。



商店街のお店もお祭りの日は外に出て販売をするなど、商店街全体が賑わっていた。

<まとめ・考察>

家族連れの方が多く、シャトルバスを利用してスタンプラリーに参加している方も見られた。商店街全体でお祭りを盛り上げようという雰囲気があり、外で販売をしているお店もいくつか見られた。

ク. [須藤公園]

<調査結果>



・イベント内容（10月18日）

屋台、写真展、フリーマーケットなど沢山の催し物

・会場の様子

家族連れ、友達同士など、多くの方で賑わっていた。

「写真でわかる千駄木の今昔展」

白黒からモノクロまで、千駄木の今と昔が分かる沢山の写真が飾られていた。写真の右側の方は、カメラを向けるとにっこり笑って写ってくださったスタッフさん。「東洋大学さん」と優しく声をかけてくださいました。



「人と神輿」展

～この写真展から最高の一枚を選びます～

下町祭りの名物でもある神輿！その神輿を担いでいる下町のみなさんのたくさんの写真が飾られていた。みなさん、とても生き生きとした姿で写っていて、とても素敵な写真ばかり。



<まとめ・考察>

多くの催し物が用意されている事もあり、80近くものお客様で公園全体が賑わっていた。写真展から下町の雰囲気を感じられる事ができ、多くの方が下町に親しみを持っている事が伝わってきた。

調査結果・まとめ

昨年の改善点として挙がっていた、タイムスケジュールは時間別になっているパンフレットも用意されており、分かりやすくなっていた。だが改善点を挙げるとすればホームページのタイムスケジュールが大ざっぱなものだったので、ここを改善していく必要がある。

シャトルバスの利用者はスタンプラリーを行なう人が多く過半数を占めていた。これはシャトルバスの時間が1時間に3本だったことが挙げられる。

スタンプラリーの改善点として、スタンプを押す場所が分かりづらいという点と、各会場で台紙が早めになくなってしまいうという点が挙げられる。しかしながら、スタンプラリーを体験している人が多く、各会場を周りながらスタンプラリーを楽しんでいたように感じる。

メイン会場の規模の大きさも誇るべき要素であるが、サブ会場のアットホーム感は負けないくらい魅力的であり、今後も各会場継続していくべきだと思う。

(3) 会計班報告

利益			
	売上高(お餅を抜いた金額)	124230円	
	消費した材料費(お餅を抜いた金額)	67132円	
	利益	57098円	
商品別売上高			
商品名	単価	売上数量	売上
タイ焼き(茶あん)	130円	247個	32110円
タイ焼き(茶カス)	130円	106個	13780円
タイ焼き(白あん)	130円	235個	30550円
タイ焼き(白カス)	130円	203個	26390円
カルメ焼き(プレーン)	100円	142個	14200円
カルメ焼き(ココア)	100円	72個	7200円
お餅(大根)	200円	112個	22400円
お餅(きな粉)	200円	103個	20600円
材料費内訳			
材料材料	数量数量	値段値段	
茶粉	17kg	6086円	
白粉	20kg	7160円	
あんこ	20kg	6140円	
カスタード	16kg0	4912円	
カルメラッピング袋	7セット	2164円	
パック	1セット	1234円	
ポリエチレン手袋	2セット	216円	
卵	2パック	291円	
重層	2個	760円	
グラニュー糖	3個	648円	
ウェットティッシュ、スプレー	4本	1361円	
ミルクココア	1個	284円	
ラップ	2本	954円	
ビニール手袋	2セット	540円	
プロパンガス		7400円	
レンタカー、ガソリン代		14463円	
フードパック		1234円	
養生テープ	4本	3134円	
キッチンクロス	2枚	216円	
洗剤	2本	340円	
シート		5596円	
合計		67132円	

3. 各出店事業共通作業

(1) つなぎ制作 (広報班)

①コンセプト

ゼミ生全員で同じつなぎを着用することにより「東洋大学」「東海林ゼミ」の宣伝効果があり、「東洋大学」という名前を背負って参加しているという責任感を持つことができる。そして全員で同じつなぎを着用することで一体感が生まれ、チームの結束力を高める効果もあると考えられる。

②つなぎ購入

購入元：WWJ-NET

価格：1,980 円

③デザインについて

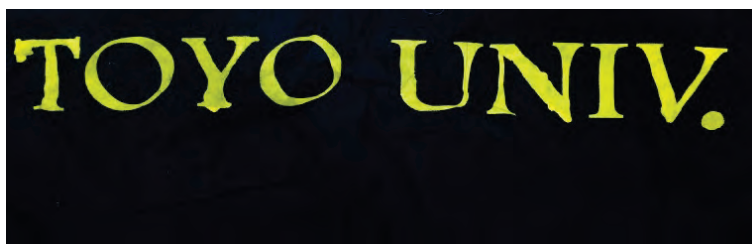
つなぎの色は紺を選択。理由は、箱根駅伝のユニフォームの色を筆頭に、東洋大学を最も象徴する色は紺であると思った。また、地域のお祭りに参加するうえで、あまり派手になりすぎず、下町感を出すためにも紺が最適であると考えた。

つなぎのデザインは東海林ゼミ 8 期生であることを示すために「SHOJI 8th」の文字。そして歴代のつなぎとは一味違う、またそれに加え東海林ゼミらしさを出せるデザインを考えた結果、私たちは出店のメインである「たい焼き」のイラストを背中を中心にデザインした。また、ロゴとたい焼きのイラストだけでは物足りないと思い、たいの活きの良さを表わすために波のイラストを追加することにした。(図 1) つなぎの表面の左足には東洋大学を表わす「TOYO UNIV.」の文字。(図 2)

表面の左胸ポケット部分には、個人の名前をひらがなで表記。



(図 1：背中部分のデザイン)



(図 2：足部分の大学名ロゴ)

④作成過程

①ステンシル台紙、名前アイロンプリント台紙の作成

Cutting Master2 for Craft Robo（ソフト）を使用し、背中ロゴとたい焼き、波のイラストと、足部分に入れる大学名ロゴを作成した。そして Craft Robo を使いシール台紙にカッティングする。

②ステンシル作業（背中ロゴとイラスト・足部分のロゴ）

ステンシル台紙からシール部分をはがし、つなぎの生地に合わせて貼り付ける。この時隙間があるとインクがはみ出してしまうので、よく密着させる。ブラシを用いてセタカラーのインクをつなぎの生地にしみこませる。インクは一度に多くの量をつけすぎないように注意する。

③アイロンプリント作業（表左胸の名前）

アイロンプリント用のシール台紙をはがし、アイロンをあてて固定させる。

⑤反省点・感想

全員分のつなぎを作り終えるのがぎりぎりになってしまった。もっと緻密なスケジュール管理をしていれば、早めに終わらせることができ、お祭りの準備に積極的に参加できたと思う。

アイロンプリントの貼り付け作業は、温度や時間の加減が難しく失敗が多かった。そのためアイロンプリント用のシートが足らなくなってしまう、急きょ男性と女性で名前の色を変えなければならなかった。

全体を通して下町情緒あふれるお祭りとの調和を意識しつつ、東海林ゼミらしさを出せるようなデザインに仕上げる事ができた。特に「たい焼き」のイラストは地域の方々にも好評でとても嬉しかった。



(2) 材料類の発注及び価格（総務班）

以下の発注は、全てインターネットで発注したものである。送料がかかるため、出来るだけまとめて発注するようにした。自然災害や発注先に在庫が無く、遅延や取り寄せになる場合があるため余裕を持って発注するべきである。その他の備品は、発注者が業務用スーパーや 100 均一のお店で出来るだけ量の多く安価なものを購入するよう心がけた。（詳細は次のページに記載）

	買い付け先	品名	規格	数量	単位	単価
たい焼き	司城商店 http://www.shijoh.com/	茶粉		20	kg	¥6,404
		白粉		20	kg	¥9,234
	アイム 楽天SHOP http://www.rakuten.ne.jp/gold/aimu/	つぶあん		1	kg	¥284
	ママの手作りパン屋さん http://www.mamapan.jp/	カスタード(ネオカスター200オリエンタル)		1	kg	¥670
		抹茶(西尾の抹茶クリーム ソントン)		1	kg	¥897
その他	セミプロDIY店ファースト http://www.rakuten.co.jp/first23/	白シート	3.6×5.4(m)	1	枚	¥897

☆ 参考

茶粉 1kg で 25 個、白粉 1kg で 20 個出来る

- ・あんこ 1 個(1kg)で 20 個
- ・カスタードクリーム 1 個(1kg)で 25 個(各 40g ずつ使用)
- ・抹茶クリーム 1 個(1kg)で 40 個(各 25g ずつ使用)

各賞味期限

- ・あんこ 約 1 年
- ・カスタードクリーム 約 3 週間
- ・抹茶クリーム 約 2 週間

購入表(ネット以外)

※祭りの練習会～根津・千駄木下町まつり当日までの累計

購入品	個数
アルコールスプレー	2本
アルミホイル	2個
ウェットティッシュ	12個
ガスボンベ	3本セット×2
グラニュー糖	4kg
ザラメ	2kg
サランラップ	2本
重曹	6個(120g)
スポンジ	3個入り×1
洗剤	3本
卵	4個入り×4
ビニール手袋	4セット
ふきん	4枚入り×2
養生テープ	7本
ラッピング袋(カルメ用)	15セット

店名	商品名	規格	数量	単位	単価
トマト 本店 (JR日暮里駅) http://www.nippori-tomato.com/	茶色布(祭り当日の机の前掛け用)	60×400	1	m	¥100
パッケージプラザ 青梅店 http://www.packageplaza.net/	たい焼き紙袋	マスターパック白2号	100	枚	¥272
	たい焼き容器	フードパックH1-A	100	個	¥345

ウェットティッシュとふきんは、無くなるのが早いため練習会前にどのくらい残っているか確認すべきである。

カルメ焼きで使用する卵は、在庫作りをする際には出来るだけ消費期限の長いものを購入したほうが良い。夏休み中は毎週在庫作りをしたため、消費期限が 2 週間もつ物を購入していた。

昨年度は、布とたい焼き紙袋・容器をネット注文していたが、今年度の総務班に布の安いトマトとパッケージプラザが定期内にある学生がいたため、この品に関しては送料をかけずに購入することが出来た。

(3) たい焼きのレシピ

分量比、目安について～

- たい焼き粉と水の分量比

茶たい焼き粉：水＝１：１．４　白たい焼き粉：水＝１：１

- 粉１ｋｇで作れるたい焼きの個数

茶粉１ｋｇで２５個分　白粉１ｋｇで２０個分

- あんことカスタードと抹茶１袋で作れるたい焼きの個数

あんこ１袋で２０個分　カスタード・抹茶１袋で４０個分（１個につき２５ｇ程度）

※前年はカスタードを４０ｇで作っているが、好みによって変えてもよい。

～材料～

- 茶たい焼き粉　２ｋｇ
- 白たい焼き粉　２ｋｇ
- 水　茶たい焼き　２．８ℓ
　　　白たい焼き　２ℓ
- あんこ
- カスタード

※これは茶たい焼き５０個　白たい焼き４０個の場合の例。

～準備～

- タネ
 - ① バケツに水を入れる。（茶たい焼き→２．８ℓ　白たい焼き→２ℓ）
 - ② バケツに粉を少しずつ振るいながら入れる。（茶たい焼き→２ｋｇ　白たい焼き→２ｋｇ）※事前に粉を２ｋｇや１ｋｇ単位でまとめておくと便利
 - ③ 電動泡だて器でよく混ぜ合わせる。※ムラやダマが無くなるまで混ぜる。（約１０分以上）
 - ④ タネ落としに入れる。
- あんこ
 - ① 袋を半分に折る。※５００ｇ分を入れるため。おおよそで可。
 - ② あんさしに入れる。
 - ③ ヘラで均等に伸ばす。
 - ④ 区切り器で１０等分に印をつける。

● クリーム（カスタード・抹茶）

- ① 袋の口を斜めに切る
- ② カスタードさしに入れる。（25g×5）

～焼き方の手順～

- ① 焼き台の周りに危険なものがないか確認し、ガス栓を開き点火する。
※この際必ず1連ずつ開き点火する。全部の栓を開いてから点火するとガスが出ているので注意。
- ② 鉄板にラードをしっかりと塗る。※しっかりと塗らないと上手くたい焼きが剥がれない
- ③ 鉄板の温度が100℃になったら、右側にタネを入れる。※ここで入れすぎないように薄皮を意識する。入れすぎによって生焼けが発生する恐れがある。
- ④ 板を軽く持ち上げて、記事を尾びれの辺りまで流し、スパチュラで伸ばす。
※ここでも薄皮を意識。枠からはみ出るくらいで可。



- ⑤ ある程度ネタが固まったら、あんこ or クリームを入れる。（あんさしに対してヘラを直角に入れ、奥から入れる）
- ⑥ 左側にタネを入れる。
- ⑦ 傾けて素早く合わせて左側に倒す。
※両方の取っ手を握り、左側に刺したほうの板を持ち上げ、記事が流れて尻尾にたどり着かない状態の時に反対の板と中央部分で合わせ、左側に倒しておく。
- ⑧ 押し焼き、開く。※むやみに開かない。
- ⑨ 軍手でたい焼き用トレイに移し、羽根切りで余分な生地を切って形を整え、たい焼き用のスタンドに置く。

～製作上のコツと注意事項～

① 火入れ

- ・温度は最初は低めで 100℃くらいがちょうどいい
- ・左側は遅く点火するか、火力を低くしておかないと焦げ付きの原因になる
- ・風によって火が消えてしまうこともあるので、随時点火の確認をする

② あんこ・クリーム

- ・多く、満遍なく入れるよう心掛ける
- ・クリームもなるべく均等に
- ・クリームさしに入れる際に、袋の切り口が人差し指の先から第二関節くらいの長さに切るようにすると良い（小さいと時間がかかる）
- ・重さ、量の感覚を掴み、量りに頼らないようにする（時間短縮のため）

③ 生地の流れ込み

- ・左側は、右側に比べて、具の流れ込みの量は少なめが良い
- ・左側を重ねた時に、左側の生地が右側の鉄板にくっつく場合がある。これを避けるためには、右側の具をスパチュラで型の外側に少しはみ出て耳ができるくらいに伸ばしてやると良い

④ 鉄板

- ・火はずっとつけたままなので、鉄板の温度が熱くなる
- たい焼きを焼かないときは左右の鉄板を中央で合わせて、火から遠ざけておく

(4) カルメ焼きレシピ

例年に引き続き、今年度もカルメ焼きを販売した。作成にあたり、ざらめから作るプレーン味とグラニュー糖・クリープ・抹茶の粉を混ぜて作る、抹茶味の 2 種類を作ることにした。

ア. 材料

カルメ焼き一個分

- ・ざらめ 30 g
- ・グラニュー糖 30 g
- ・クリープ 1.4 g
- ・水 11cc
- ・卵白 15 g
- ・重層 45 g
- ・グラニュー糖 7.5 g

A

イ. 機材

- ・ガスコンロ
- ・専用おたま
- ・かきまぜ棒
- ・はかり
- ・温度計
- ・水差し
- ・マドラー
- ・鍋（おたまとかきまぜ棒洗浄用）
- ・布巾（濡れているもの、乾いているもの一枚ずつ）
- ・温度計入れ

ウ. 作り方

①蓋付きの容器に上記 A を入れ、粉っぽさが無くなるまで混ぜる（出来たものは、以下重曹卵と呼ぶ）。

※出来たものは、必ず蓋をする。重曹卵が乾いてしまうと上手く膨らまないため。

②材料をおたまに入れる

プレーン：ざらめ 30 g、水 11cc

抹茶：グラニュー糖 30 g、クリープ 1.4 g、抹茶 0.2 g（マドラー山盛り 1 杯）、水 11cc

ココア：グラニュー糖 30 g、クリープ 1.4 g、ココア 0.2 g（マドラー山盛り 1 杯）、水 11cc

③弱火にかけ、128 度まで熱する

（火が強いと、焦げてしまうため必ず弱火にし、温度計でかき混ぜる）

※100 度に達するまでにざらめとグラニュー糖を溶かしきらないと、舌ざわりが悪くなる

④128 度になったら、火からおろして乾いた布巾にのせ沸騰して出来た泡が小さくなるまで待ち、かき混ぜ棒に重曹卵をつけてかき混ぜる

⑤混ぜていてざらつき始めたら、適度なタイミングでかき混ぜるのを止める

⑥膨むのが落ち着いたら、濡れた布巾の上に置き変える

⑦熱が冷めたら、再度弱火にかけおたまから外す

（写真 1 参照）

※おたまから外す時に、おたまについていた面を上にする

→おたまについていた面は熱いため、アルミホイルにくっついてしまい商品にならなくなるから（写真 2 参照）



写真 1



写真 2



写真 3

エ．レシピの検討

抹茶とココアを作るにあたり、それぞれ何 g 入れるかをカルメ焼き班で検討をした。味と色を濃くしたかったため、マドラー 1 杯ではなく 2 杯以上（0.5g）で膨らむか試してみたが、128 度になった段階で、沸騰して出来る泡が 1 杯の時に比べ、小さく全く膨らまずにボロボロになってしまった。出来たものは、味は濃く美味しかったが見た目が悪くなってしまったため、マドラー 1 杯（0.2g）にした（写真 3 参照）。

また、白山まつりに向けて抹茶の在庫を作っている際に、作りたてと作ってから 1 週間後ものどで色が変わってしまうことがわかった。味の変化は無かったが、販売する際に見た目の色が悪くなってしまったため売り上げに関わるのではないかと不安になった。そのため、下町まつりでは抹茶味は止めて、ココア味に変更することにした。

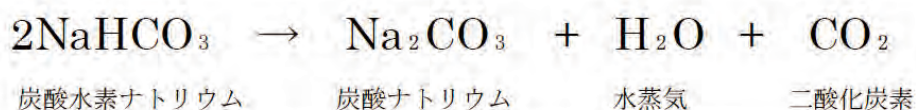


作りたて

1 週間後

オ. カルメ焼きの原理

カルメ焼きを作る際に入れる重層は炭酸水素ナトリウム(NaHCO_3)と言い熱を加えることにより以下の式のように反応する。



これによって発生する二酸化炭素の気泡によってカルメ焼きは膨む。味は砂糖とそれが焦げたカラメル味。また重層は苦みがあるので重層を入れ過ぎると苦くなる。

カ. カルメ焼きの由来

カルメ焼きの歴史は意外に古く、室町時代に伝来した「単蛮菓子（なんばんかし）のカルメラ」が元祖である。ポルトガル語の「カルメラ（甘い糖菓子という意味）」が訛って、後に「カルメ」に変化したと言われている。

(5) おもちのレシピ

ア. もち米を研いで、8～16時間水に浸けておく

イ. 味付けの準備

- ・からみもちは、醤油20gに対して、大根おろし100gを混ぜる
- ・きな粉もちは、きな粉10gに対して、黒糖15gを混ぜる

※材料を少し多めに用意したので余りが出る可能性あり

ウ. おもちを蒸す

- ①羽釜に水を2／3入れ、ガスを点けてお湯を沸かす（ガスの栓はしっかり開ける。）
- ②せいろに竹簀子と蒸し布を入れ、その上にもち米を入れて水切りをする
- ③もち米を蒸す（15分）
 - ・蒸し布をもち米の上に折りたたみ、羽釜に蒸し器をセットして蓋をする
 - ・もち米は蒸し上がっても赤飯のような硬さで、芯がなく、潰れれば蒸し終わり

ポイント

- ・沸騰してから蒸し始める
- ・強火で蒸す
- ・蓋は手前に向けて開けない
- ・空焚きには注意する
- ・連続して蒸す場合は、お湯が少なくなってきたらやかんで熱湯を足す
- ・もち米の真ん中に穴をあけると早く蒸し上がる

エ. 蒸し上がったもち米を蒸し布ごと引き上げ、もちつき機に移す（10分）

ポイント

- ・蒸し布を下のプロペラに引っ掛けないようにする
- ・初めはおもちの周りに水をまぶす
- ・おもちはぐるぐる回ってしまうと、上手くつけないので、しゃもじを刺しておもちを押さえる
- ・蒸し立てが肝心
- ・おもちはおもちつき機の電源を切らずにバットへ移す

オ. つきあがったおもちをバットへ移す

- ・この時にもちつき機の下のプロペラが混ざらないようにする
- ・プロペラに付いたおもちは早めにとっておく
- ・バットに水をまぶしておく

カ. おもちの小分け、パック詰めをする

- ・小分けは手袋をはめて手に水を付けながら行う
- ・パック詰めは tong を使いながら行う
- ・きな粉もちはおもちの白い部分が見えないようにたっぷりとかける

調查班報告

第Ⅴ章. 調査報告

1. 下町まつりの概要

根津・千駄木地域で毎年 10 月に開催されるお祭りである。このお祭りは、昭和 3 年に文京区と台東区が共同で始めたお祭りが起源である。現在は文京区独自で行われており、今年で 15 回目である。メイン会場は根津神社、サブ会場はこの地にゆかりのある文豪、森鷗外の記念館を含む、計 9 会場である。

2. アンケート内容

今回、我々は以下の内容で被験者にアンケートを行った。

性別	被験者の属性を把握する
年齢	被験者の属性を把握する
お住まい	被験者の属性を把握する
認知媒体	有効な情報手段を知り改善点を探る
同伴者の有無	まつりに誰と来ているかを把握する
来訪回数	リピート率を把握する
サブ会場の認知	サブ会場の認知度を把握する
サブ会場の中で来訪した場所	サブ会場の利用状況を把握する
シャトルバスの認知	シャトルバスの認知度を把握する
シャトルバスの利用	シャトルバスの利用状況を把握する
シャトルバスが無料である点の認知	シャトルバスが無料である点の認知度を把握する
下町まつりの良かった点	継続していくべき点を把握する
下町まつりの悪かった点	改善すべき点を把握する
下町まつりの要望	まつりへの満足度・意見を把握する
メイン会場内で訪れた場所	メイン会場の利用状況を把握する

・調査目的

下町まつりを利用している人の属性を知り、メイン会場とサブ会場の利用実態を調査するためである。

・日時

平成 26 年度 10 月 18 日、19 日の計 2 日間である。

・場所及び被験者

下町まつりにおいて、来場者を対象に実施した。

第 16 回根津・千駄木下町まつり 東海林ゼミアンケート

本調査は下町まつりの利用実態調査を目的として行っています。回答は、統計的に処理され、本目的以外には使用致しません。大変お手数をおかけしますが、本調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

調査主体：東洋大学東海林ゼミ

- [illegible]

／物産店＞

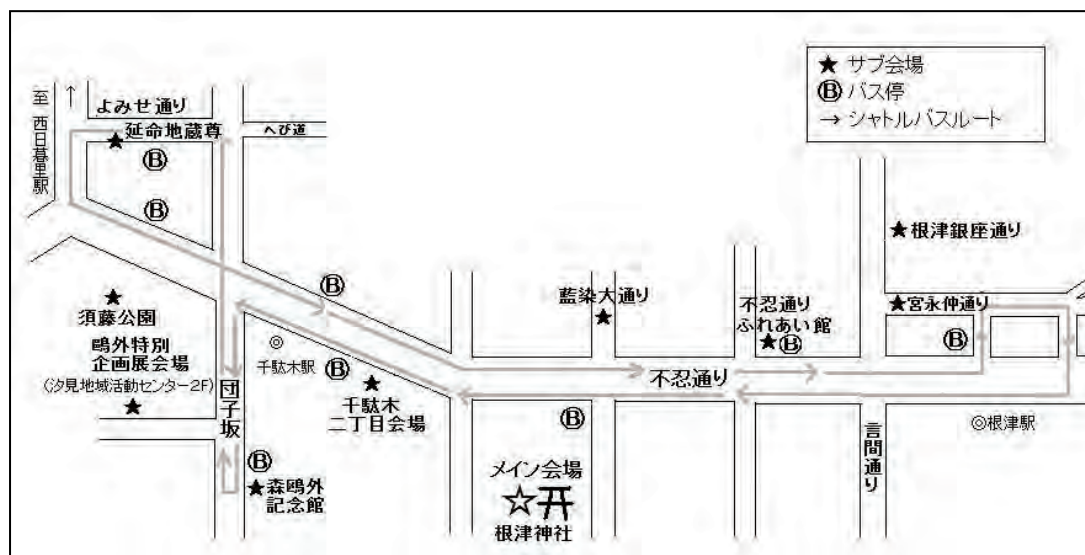


図 下町まつり会場マップ

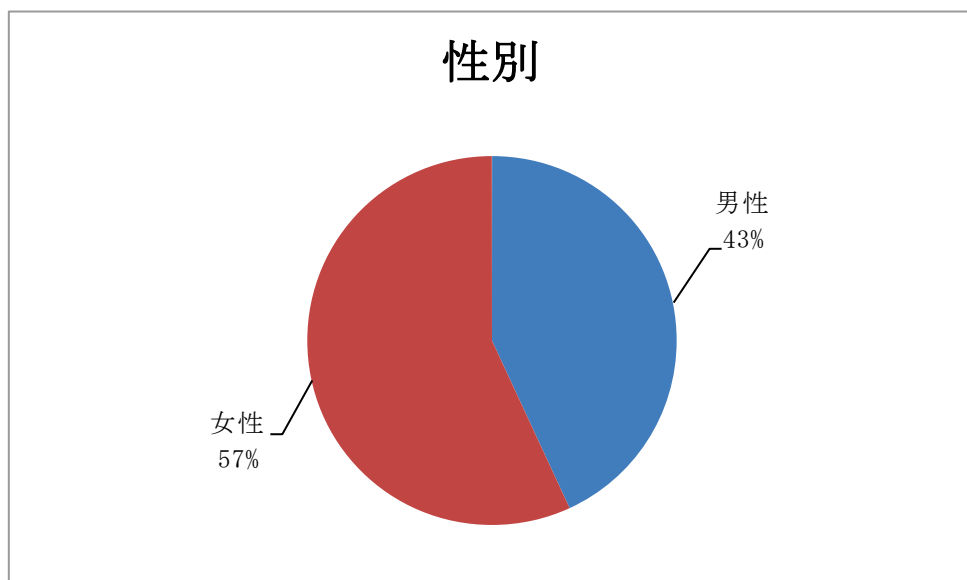


3. アンケート結果

今回の下町まっりのアンケート被験者数は 58 人であった。

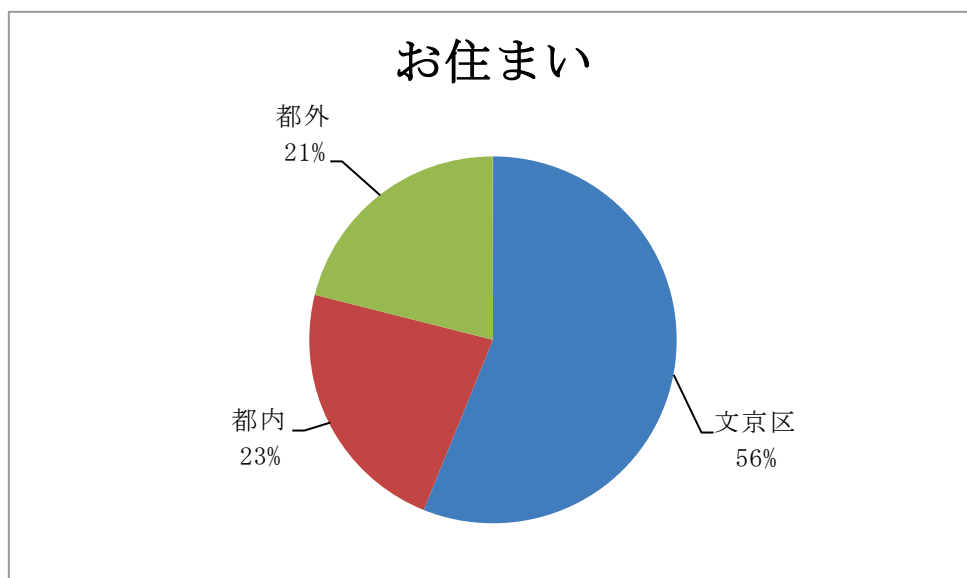
早速アンケートの結果について、以下に記していきたい。

(1) 性別



今回のアンケートは 58 人の方に回答していただき、そのうち男性は 25 人で全体の 43%で女性は 33 人で全体の 57%であった。やや女性客の方が多く見られた。

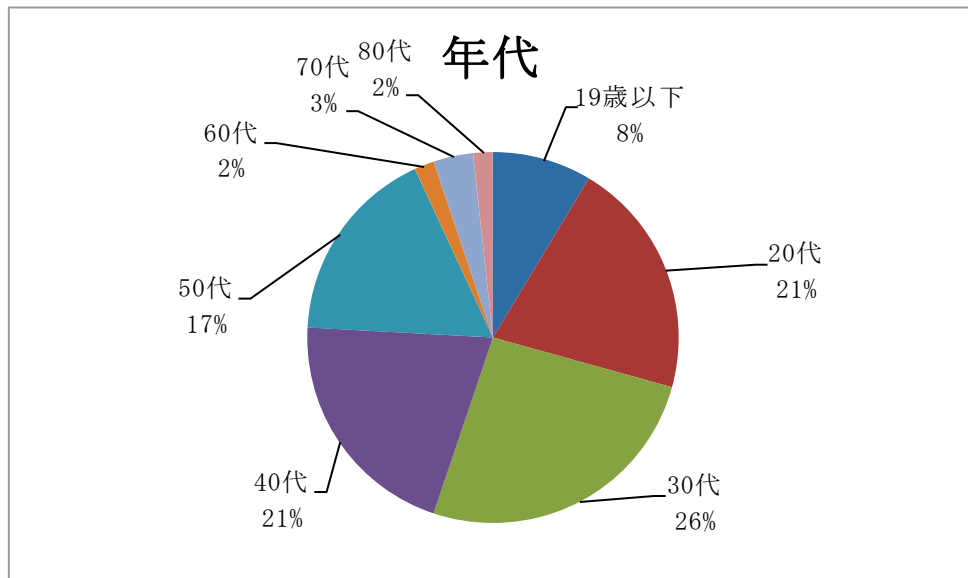
(2) お住まい



来訪者と居住地の関係についてのグラフを見ると、根津神社の近隣地域である文京区に住んでいる人は 32 人で全体の 56%と最も多くなっている。次に文京区以外の都内に住んでいる人は 13 人で全体の 23%、

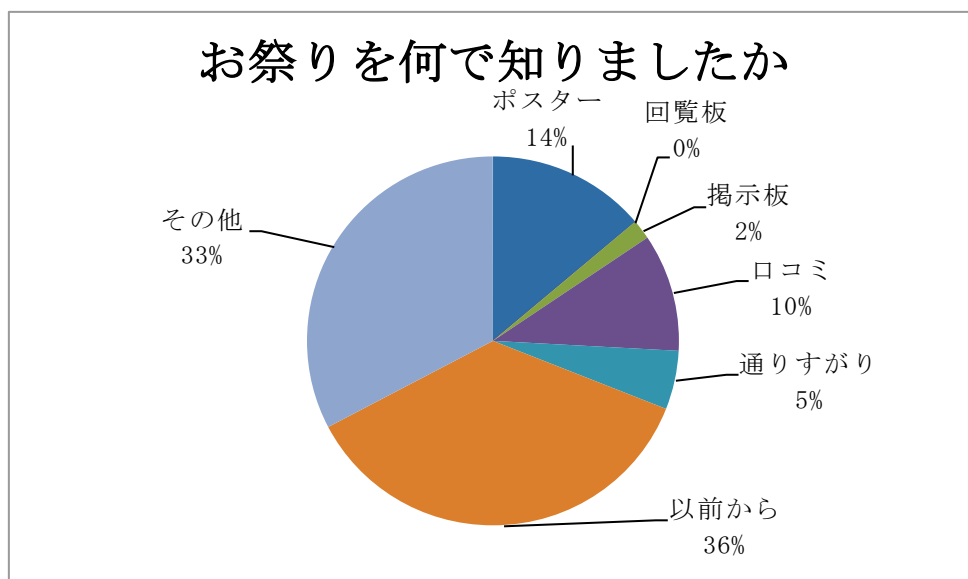
最も少なかったのは都外に住んでいる人で12人、全体の21%となっている。ここから、下町まつりが近隣地域の住民に親しまれているお祭りである事が分かる。

(3) 年代



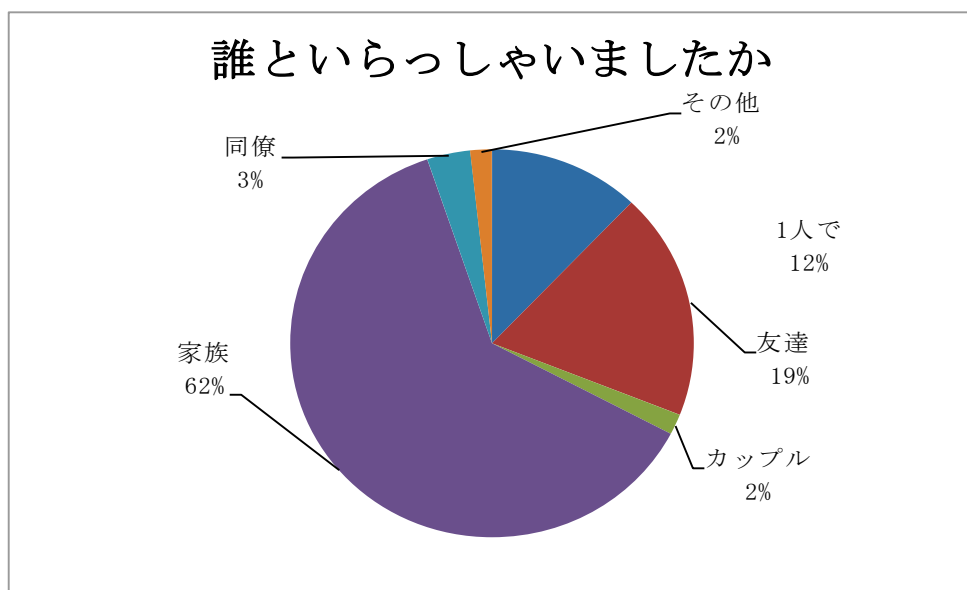
年代別の利用者数を上位から見ていくと、1位は30代の15人で全体の26%と最も多くなっている。次に同率2位で20代・40代の12人で全体の21%、4位は50代の10人で全体の17%、5位は19歳以下の5人で全体の8%、6位は70代の2人の全体で3%、7位は同率で60代・80代の1人で全体の2%となっている。ここから、20代・30代・40代・50代でほとんど構成されていることが分かり、働き盛りの世代が多く訪れていることが伺える。逆に19歳以下や60代以上の方が少ないので、この世代の人にも来てもらえるようになればいいと思う。

(4) 下町まつりは何で知りましたか



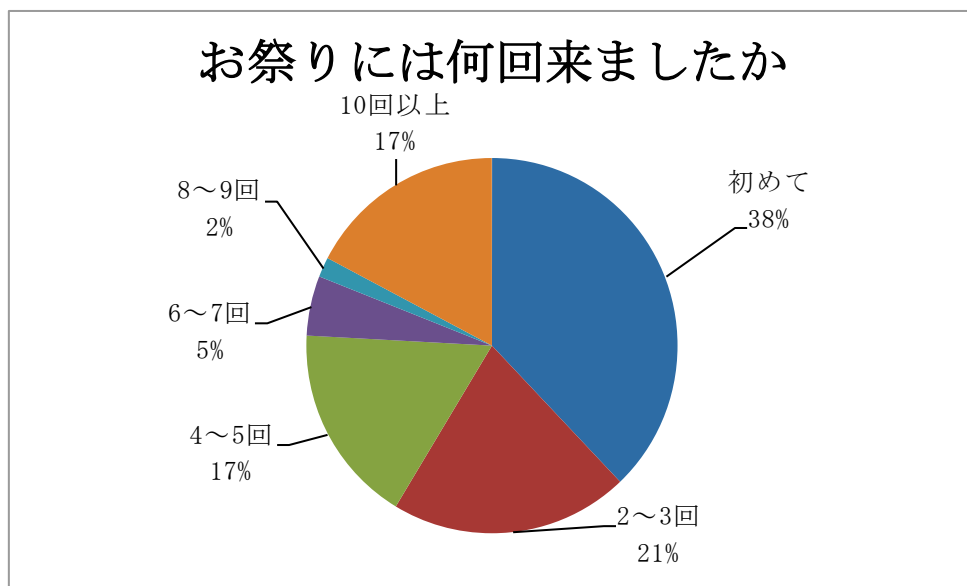
下町まつりをどこで知ったかについて上位から見ていくと、1位は以前から知っている人の21人が全体の36%、2位はその他の19人が全体の33%、3位はポスターで知った人で8人が全体の14%、4位は口コミで知った人が6人で全体の10%、5位は通りすがりで下町まつりに寄ってみた人が3人で全体の5%、6位は掲示板で下町まつりを知った人の1人で全体の2%となっている。その他の回答では、人からの紹介で訪れたり、下町まつりののぼりをみて訪れたり、知り合いがフリーマーケットで出店しているから訪れたりと様々であった。

(5) 誰といらっしゃいましたか



下町まつりに誰と訪れたかという質問に対しては、1人が7人で12%、友達が11人で19%、家族で訪れたという方が36人で62%、同僚が2人で3%、カップルと同僚が1人ずつでそれぞれ2%という結果になった。この結果から家族と一緒に訪れている人が6割と多いことが分かり、お祭りはファミリー層にとって休日を楽しめるイベントとなっていると考える。

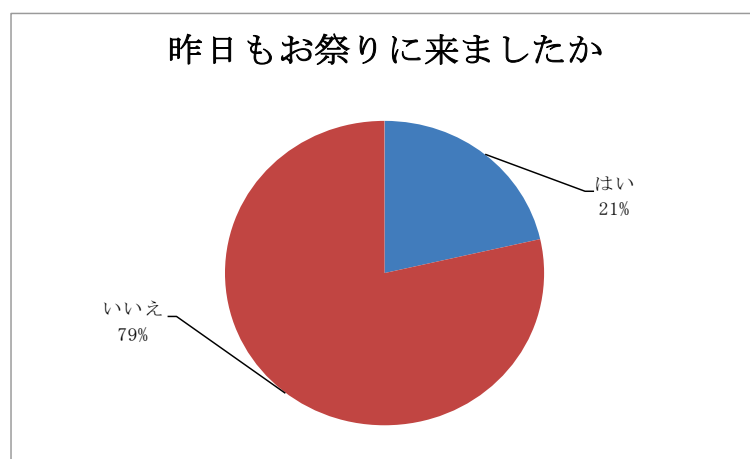
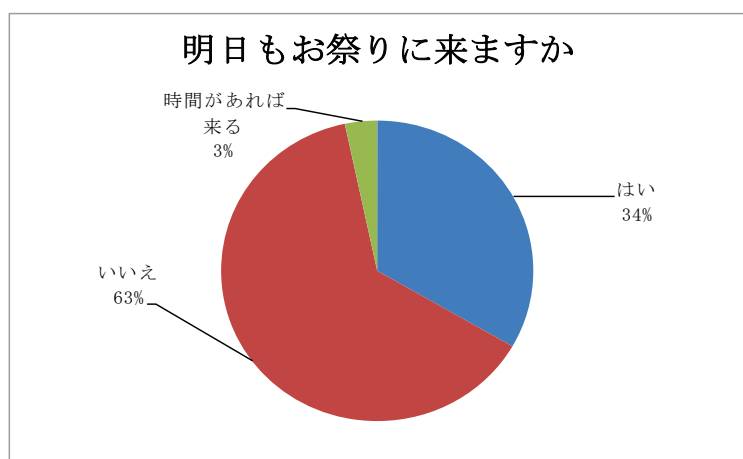
(6) 下町まつりは何回目ですか



来訪回数は初めての人が 22 人で 38%、2~3 回の人 12 人で 33%、4~5 回の人 10 人で 17%、6~7 回が 3 人で 5%、8~9 回の人 1 人で 2%、10 回以上が 10 人で 17%という結果になった。初めて来た人の割合が全体の 4 割近くを占めており、下町まっりの宣伝効果があったと考える。

(7)明日も来ますか、昨日も来ましたか

この設問では下町まつり 1 日目に明日も来るかという質問を行い、2 日目に昨日も来たかという質問を行った。1 日目の被験者数は 30 人、2 日目の被験者数は 28 人であった。

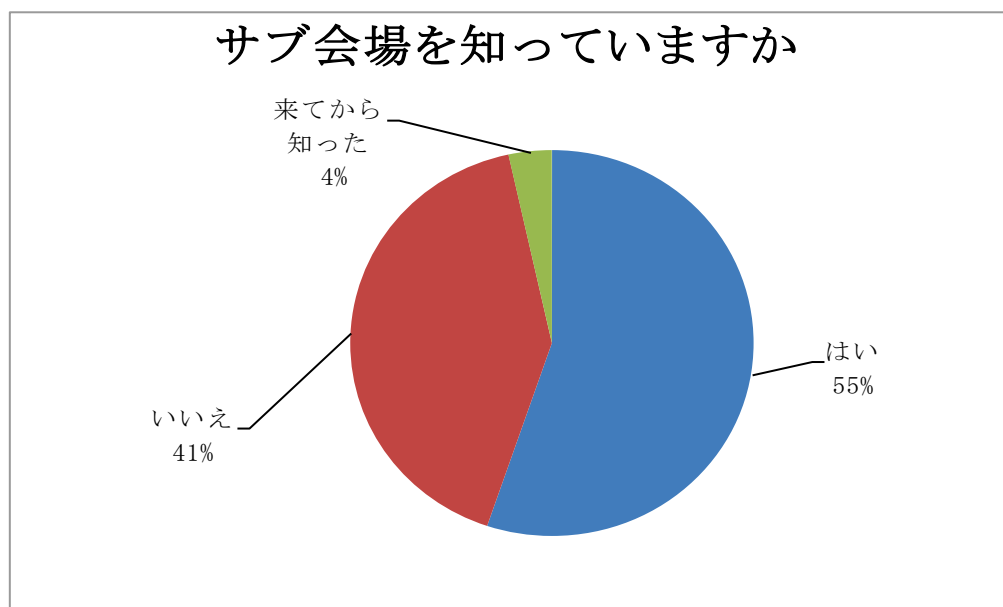


左のグラフは下町まつり 1 日目に行ったアンケートの結果である。全体では、次いで明日も来という人が 10 人で 34%、明日も来ないと言う人が 19 人で 63%と最も多いという結果になった。また時間があれば来ると回答してくれた方が 1 人いた。

右のグラフは下町まつり 2 日目に行ったアンケートの結果である。全体の割合では昨日来なかった人が 22 人で 79%おり、昨日来た人が 6 人で 21%という結果になった。

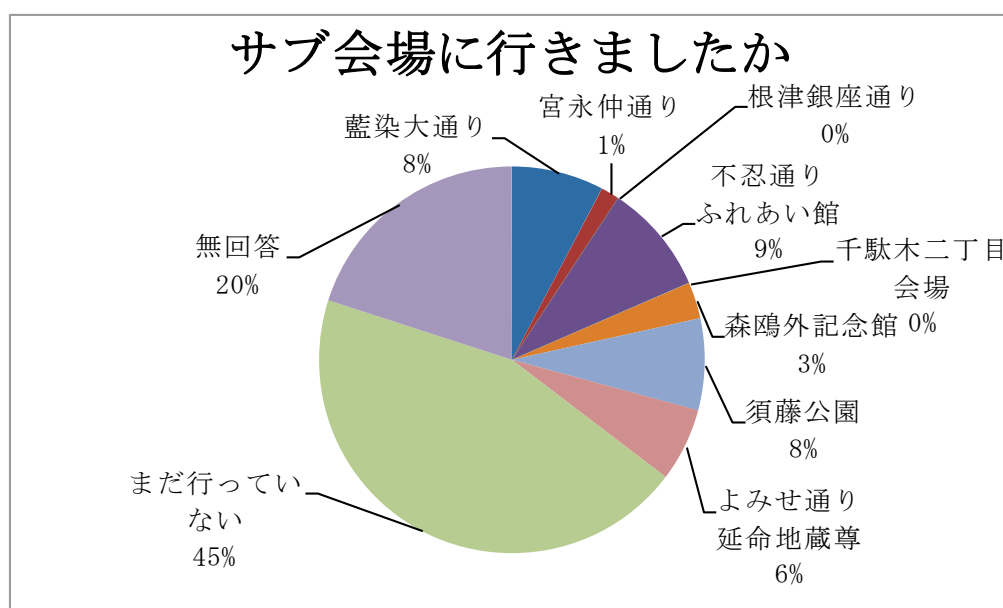
7 の質問に対する 2 つのグラフを分析してみても、お祭りが開催している 2 日間のうちどちらか 1 日のみを訪れている人が多く、2 日間とも来てもらうことは難しいことが分かった。

(8)サブ会場を知っていますか



サブ会場を知っている人が 32 人で 55%、知らない人が 24 人で 41%という結果になった。また来てから知ったという人も 2 人おり 4%となった。

(8) ア：サブ会場に行きましたか



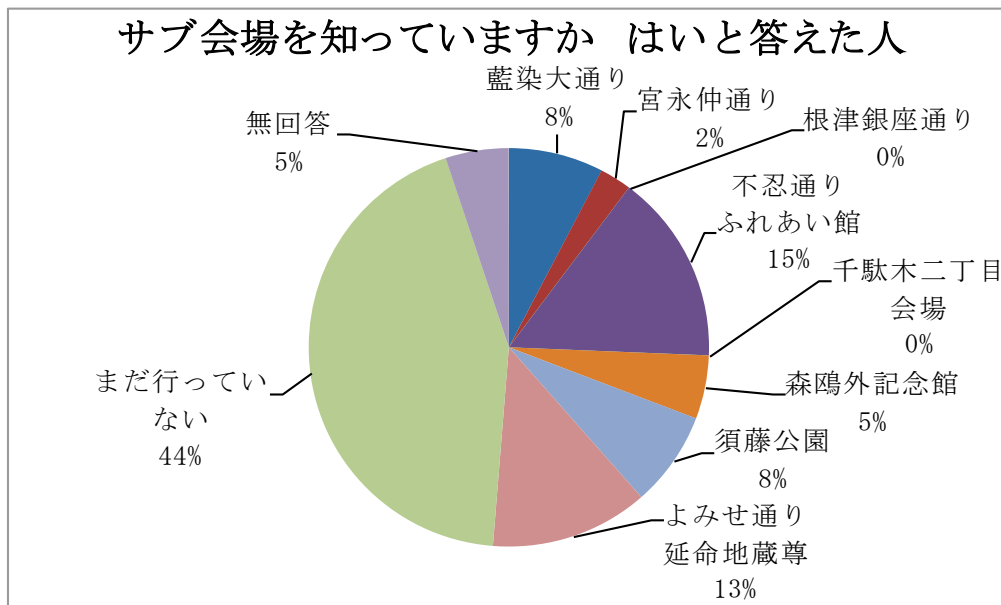
サブ会場のどこに行ったかというアンケートでは上位から、まだ行っていないが 29 人で 45%、無回答が 13 人で 20%、不忍通りふれあい館が 6 人で 9%、藍染大通りと須藤公園が同率の 5 人で 8%、よみせ通り延命地藏尊が 4 人で 6%、森鷗外記念館が 2 人で 3%、宮永仲通りが 1 人で 1%という結果となった。なお根津銀座通りと千駄木 2 丁目会場はそれぞれ 0 人で 0%であった。

まだ行っていない人が最も多いことから、サブ会場を広告媒体などで今までよりもっと多くの人に知

ってもらえるようにすべきだと考える。

またこのアンケートは複数回答を可能にしたため、58 サンプル以上の回答がある。

(8) ア：サブ会場を知っていますか はいと答えた人のサブ会場に行った割合



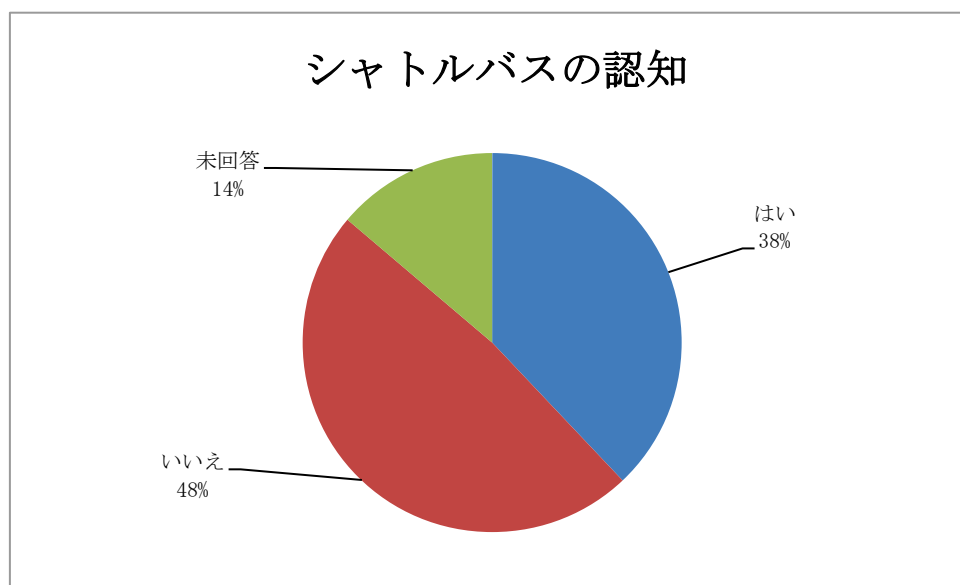
このグラフは設問8の中でサブ会場を知っていると答えた32人がサブ会場のどこを訪れたかを表したものである。

上位からまだ行っていないが7人で44%、不忍通りふれあい館は6人で15%、よみせ通り延命地藏尊が5人で13%、藍染大通りと須藤公園がそれぞれ3人で8%、森鷗外記念館と無回答がそれぞれ2人で5%、宮永仲通りが1人で2%であった。なお根津銀座通りと千駄木2丁目会場はそれぞれ0人で0%であった。

この結果からサブ会場を知っていても実際に訪れている人は知っている人の半分ほどであると分かり、認知度が来訪する動機に必ずしもつながるとは限らないといえる。

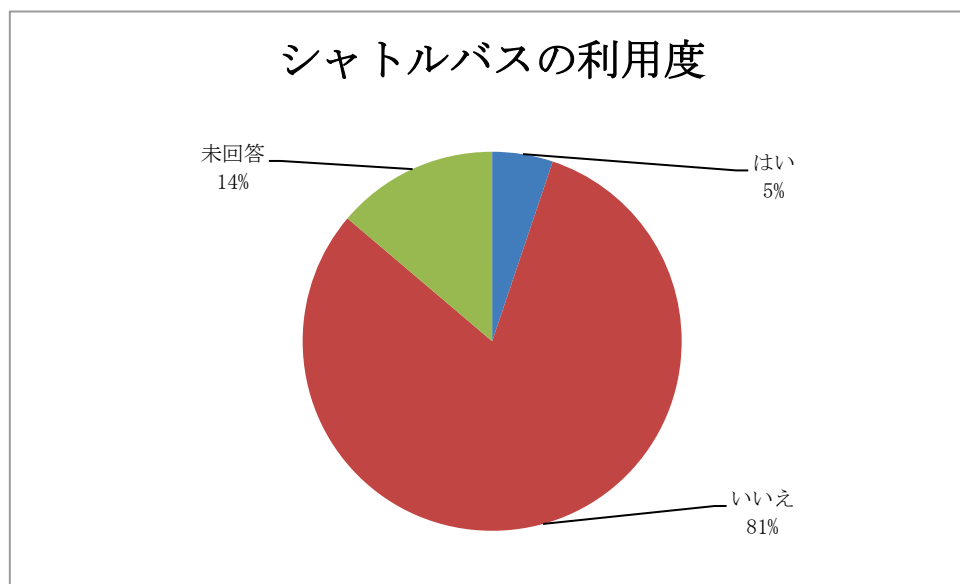
またこの設問も複数回答を可能としたため、32 サンプル以上の回答がある。

(8) イ：シャトルバスの認知度



シャトルバスの認知度のグラフを見ると、知らないと答えた人が最も多く 48%であった。これに対し知っていると答えた人は 38%で、未回答は 14%であった。
認知度が低いと利用率も上がらないため、まずは更に認知度を高めることを目指すべきだと考える。

(8)ウ：シャトルバスの利用度

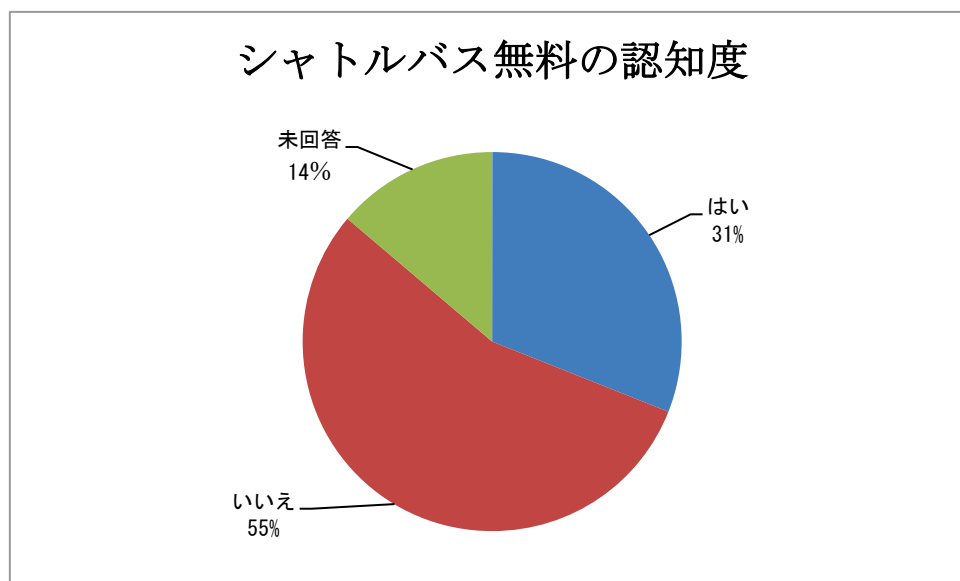


シャトルバスの利用度のグラフを見ると、利用していないと答えた人が最も多く 81%であった。これに対し利用していると答えた人は 5%で、未回答は 14%であった。

利用者が非常に少ないため、前述したとおりまずは認知度を高め、利用者を増やすことを目指すべきだと考える。

また、シャトルバスを約 3 割の方が知っていても実際はたった 5%しか利用されていない結果を見ると、認知度を高めることに加え、知っている方にどうすれば利用してもらえるかの考察も重要だと考える。

(8)エ：シャトルバス無料の認知度



シャトルバスが無料であることに対する認知度のグラフを見ると、知らないと答えた人が最も多く55%であった。これに対し知っていると答えた人は31%で、未回答は14%であった。

シャトルバスの認知度同様、知っている人の割合を知らない人の割合が上回っているためシャトルバスの認知度と合わせて高める必要があると考える。

(9) 良い点

〈多かった意見〉

- ・リーズナブル
- ・地域性が感じられた
- ・活気がある
- ・子供が喜ぶものが多い
- ・たくさんの出店
- ・良い雰囲気
- ・食べ物が美味しい
- ・楽しい
- ・まずくはない

〈その他の意見〉

- ・サブ会場のスタンプラリーがある
- ・東北の屋台
- ・フリーマーケットで子供服が安く買える
- ・出店の接客が笑顔
- ・学生が参加している
- ・ビールがある
- ・根津に来るきっかけになった
- ・子供が上品

この回答を分析すると、下町まつりの良い点は地域性があり、お祭りに活気があって良い雰囲気を作り出していることが分かる。

(10) 悪い点

- ・银杏臭い
- ・人口が密集しすぎていて狭い
- ・ベビーカーだと足場が悪い
- ・店が少ない
- ・商品が高い
- ・お店の列に並ぶ
- ・売り切れが早い

- ・ゲームがない
- ・毎年ほぼ同じなので、新しいイベントなどを望む

この回答から分析すると下町まっりの悪い点は、狭い場所もあったり、家族連れで訪れる人が多いのでベビーカーに対する配慮が少し必要だと考えた。

(11)要望

〈多かった意見〉

- ・座る場所がもっと欲しい
- ・お店を増やして欲しい
- ・食べ物の種類を増やして欲しい
- ・ゲームを増やして欲しい
- ・トイレをもっと整備して欲しい

〈施設〉

- ・サブ会場が遠い
- ・マップが所々にあると良い
- ・子供用トイレを増やして欲しい
- ・ベビーカーが動かし辛い

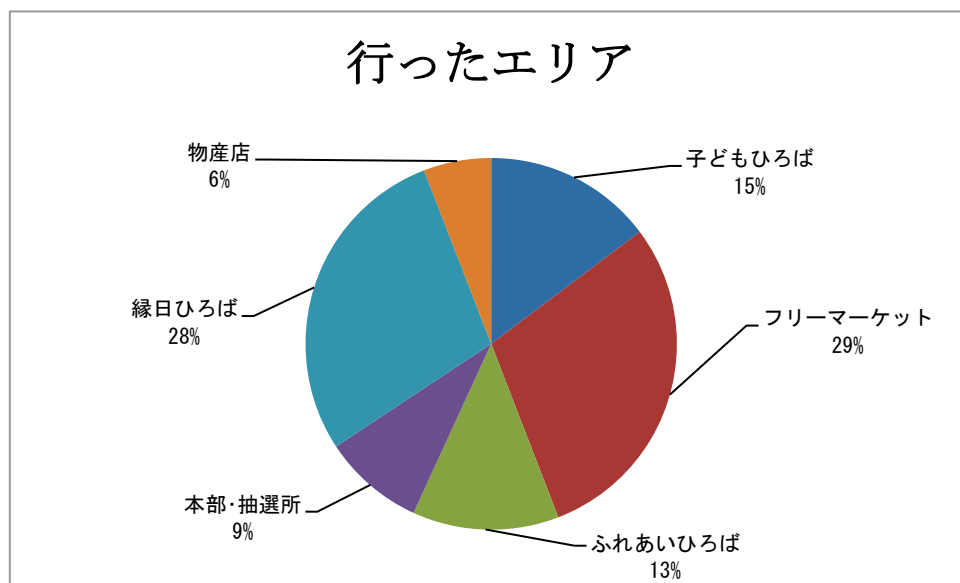
〈ゴミ〉

- ・ゴミの捨て場が少ない
- ・ゴミの捨て場がわからない

〈内容〉

- ・スタンプラリーが多すぎる
- ・列をもっと整理して欲しい
- ・開催時間を延ばして欲しい
- ・もっと安くして欲しい
- ・売り切れが早い

(12)行ったエリア



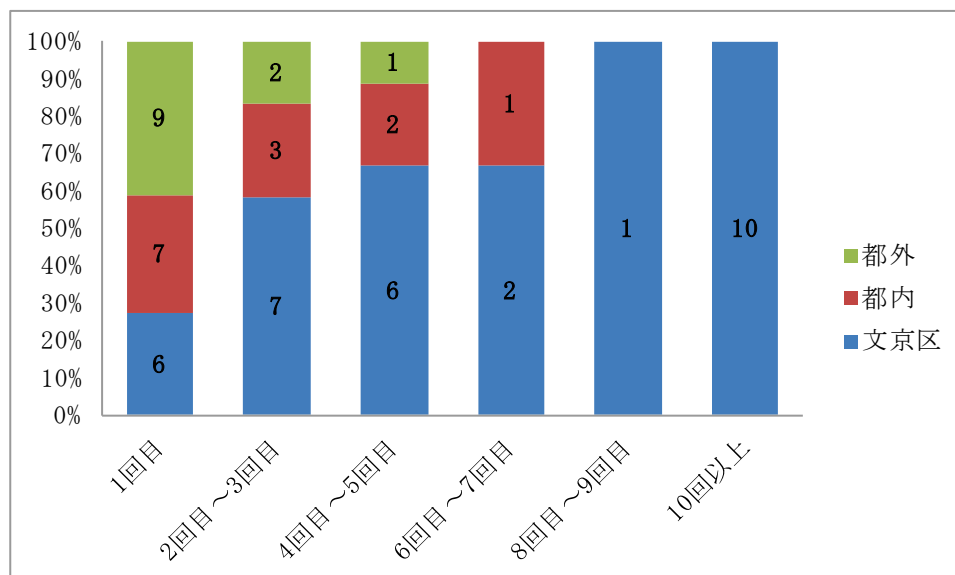
行ったエリアの利用者数を上位から見ていくと、1位はフリーマーケットで29%であり、2位は緑日ひろばで28%と大差なかった。3位は子どもひろばで15%、4位はふれあいひろばで13%であり、この2つも同様に大差がない。続いて5位は本部・抽選所で9%、6位は物産店で6%であった。

一箇所に極端に人が集中していないのは良い点だが、本部・抽選所や物産展にも更に人を増やすことを目指すべきであると考える。

(13) クロス集計

下町祭りのアンケートデータの中から、いくつかのデータを使用してクロス集計を行った。クロス集計とはある2つの項目に注視し、データの分析や考察を行う事である。今回は2つのクロス集計を行った。

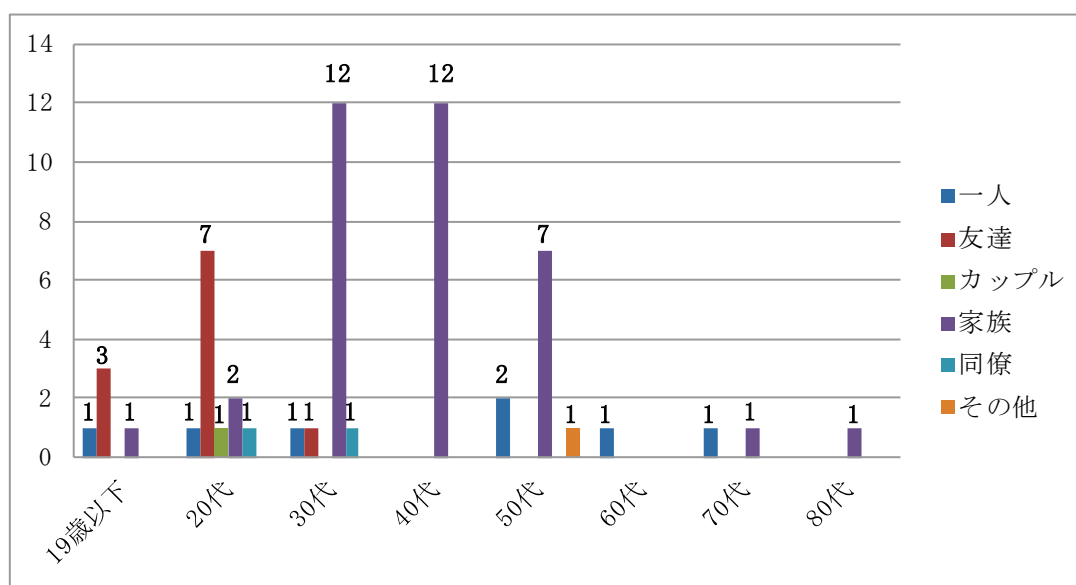
① 住まいと来訪回数の関係



住まいと下町まつりに何回来たかについてのクロス集計の結果は上のようになった。なおグラフ上の数字は人数を表している。

この下町まつりは、地元の人は何回も来ている人が多い事が分かり、地元の人から愛されているお祭りである事が分かる。都外の人でも下町まつりに来るのは4～5回目という人もいますので、一回来てみてリピーターになる人もいると思われる。

② 年代と同行者の関係



これは年代と同行者がどのように関わっているかを表したグラフである。なお棒グラフ上の数字はそれぞれの人数を表している。

同行者の中でも19歳以下と20代では友達と一緒に訪れる人が多く、30代以上の年代では家族と一緒に来ている人が大半を占めていることがわかる。

家族連れが幅広い年代層で見られるため、今後も家族連れが楽しめるようなお祭りにしていくべきであると考えます。例えば子供を対象にしたゲームコーナーの拡充などの工夫が挙げられる。

4. 来訪者追跡調査

・調査目的

根津千駄木下町まつりの来訪者はどのように会場をまわるかを調査し、利用率を把握するためである。

・日時

平成 26 年 10 月 18 日、19 日の計 2 日間

・場所及び被験者

下町まつりメイン会場である根津神社において、来訪者を対象に実施した。

・方法

メイン会場への来訪者のうち、東海林ゼミの屋台から一番近い鳥居をスタート地点として、追跡し利用実態を記録した。また、来訪者が根津神社内から出た時点で追跡を終了した。

・記録項目

今回、我々は被験者に対して、以下の内容を記録した。利用動線には会場の地図を用いて行った。

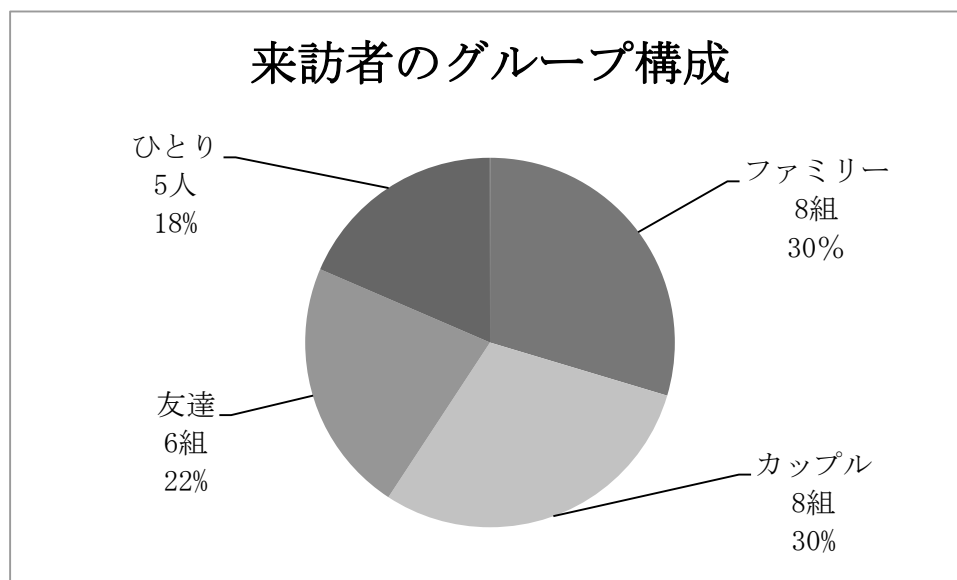
開始・終了時間	滞在時間を計るため
滞在時間	滞在時間を知るため
性別	被験者の属性を記録するため
同行者	被験者の属性を記録するため
利用した店・どこで食べるか	被験者の行動を記録するため
ふれあいひろばの催し物を見ているか	被験者の行動を記録するため
特徴	被験者の行動を記録するため
利用動線	被験者の行動を記録するため

・調査結果

今回下町まつりの来訪者追跡調査実施数は 27 組（58 人）であった。下町まつりは 2 日間の開催であったが、1 組の対象者が根津神社を出るまでを追跡したため実施数が少ない結果となった。

以下、調査項目を考察していく。

(1) 来訪者のグループ構成

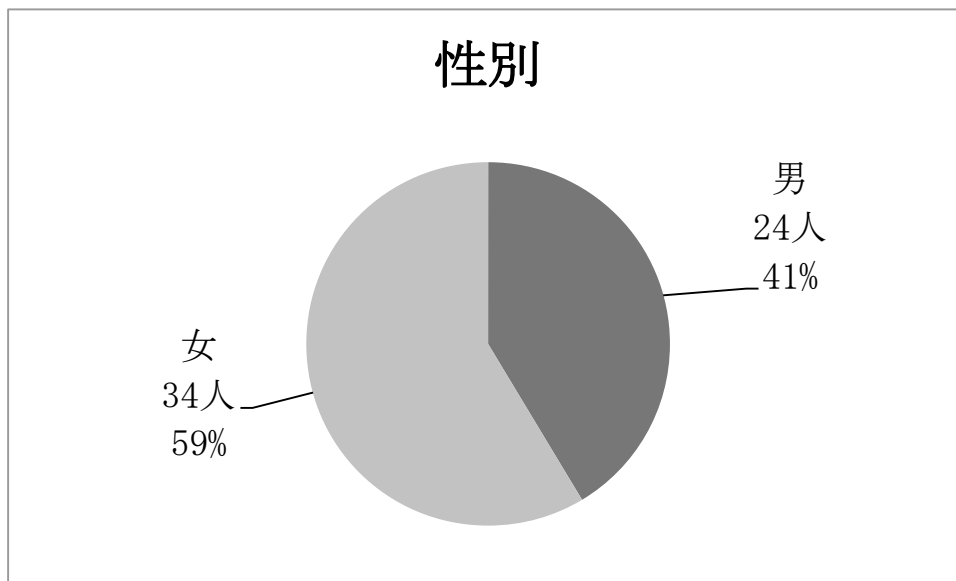


来訪者追跡調査実施数は 27 組であったが、その 27 組には様々なグループ構成が見られた。

来訪者追跡調査では我々が直接、調査対象者にグループ構成の内訳を訊くことができない。そのため我々は「ファミリー」、「カップル（1組の男女）」、「友達」、「ひとり」という4つのグループ構成をまんべんなく調査するよう心がけた。だが、「友達」や「ひとり」という構成は、見付けるのも見分けるのも少し困難であったことがその構成の調査が少ない要因となった。

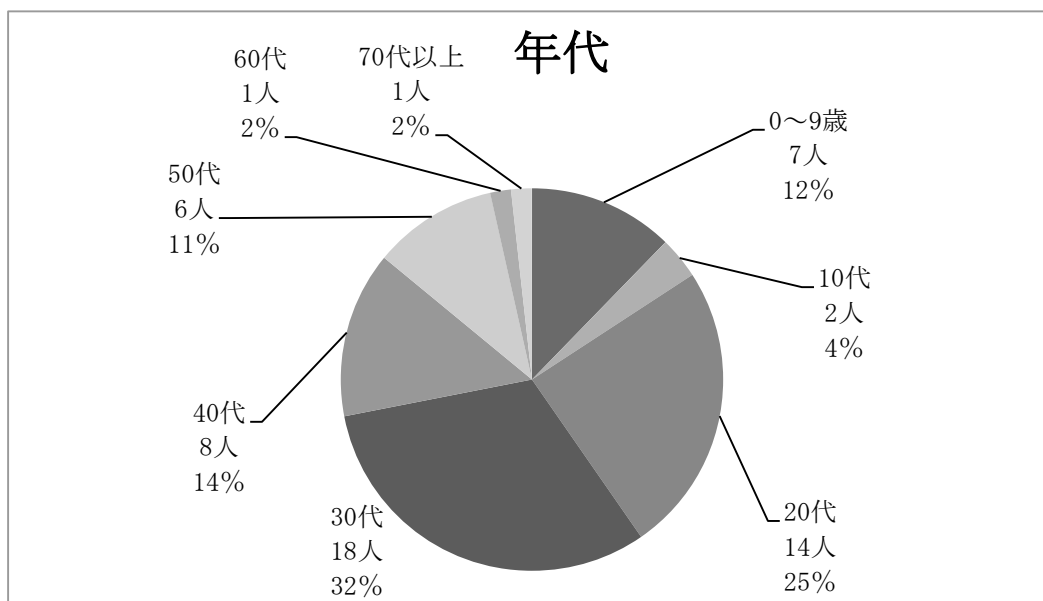
夫婦を含む1組の男女という構成は全て「カップル」とした。

(2) 性別



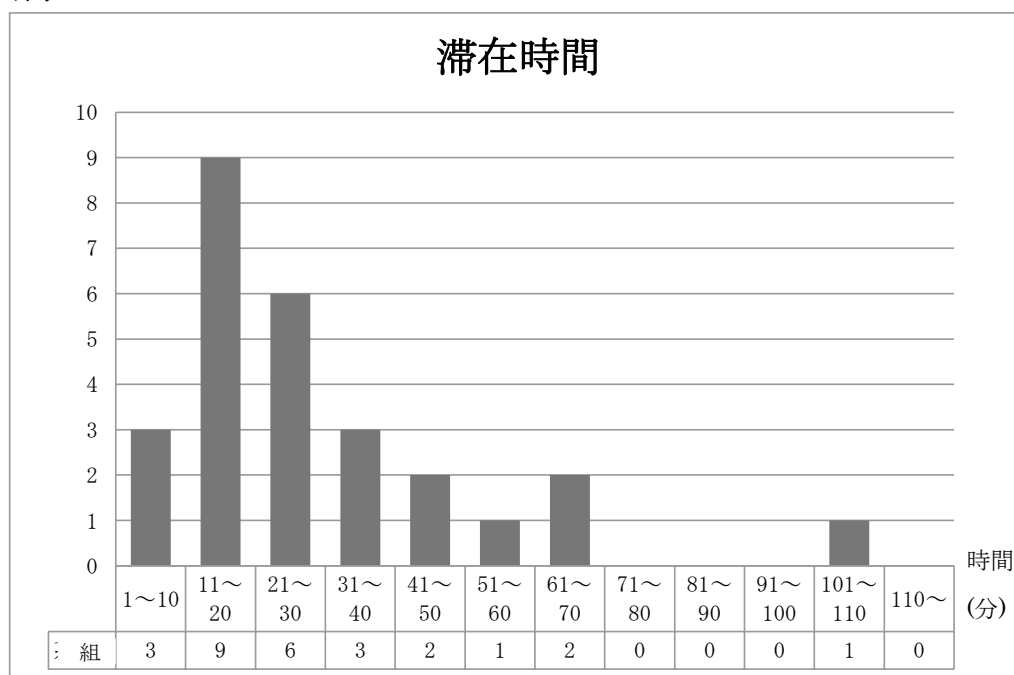
来訪者追跡調査を行った 58 人の性別の内訳はこの通りである。女性が約 6 割という結果となった。

(3) 年代



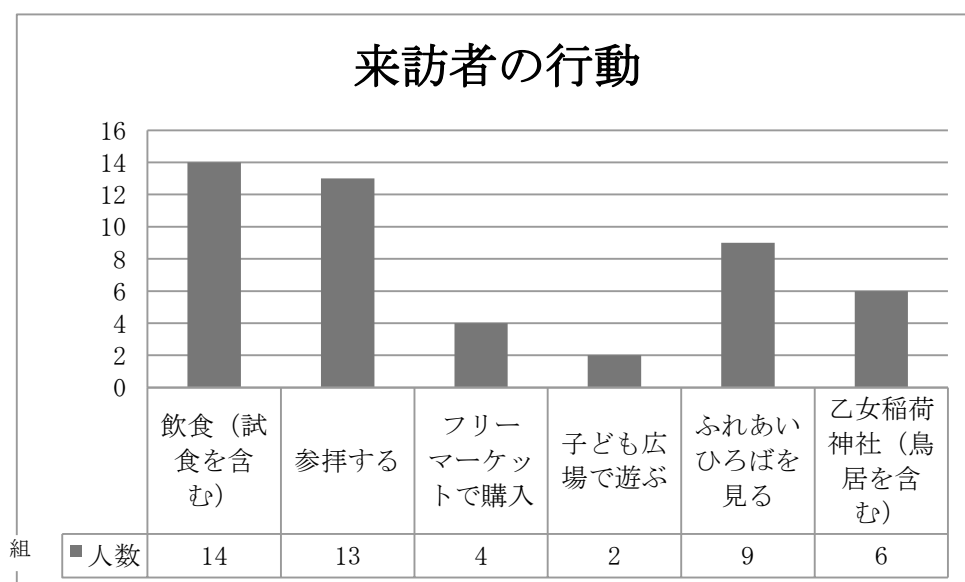
今回の調査で追跡した方々の年代は 0～9 歳以下が 7 人で 12%、10 代が 2 人で 4%、20 代が 14 人で 25%、30 代が 18 人で 32%、40 代が 8 人で 14%、50 代が 6 人で 11%、60 代が 1 人で 2%、70 代以上が 1 人で 2%という結果である。お祭りに来訪する年代にバラつきがあることがわかる。

(4) 滞在時間



最も多い滞在時間が 11～20 分であり、2 番目に多い滞在時間は 21～30 分である。この結果から 20 分前後の滞在時間が多いという傾向が見られる。

(5) 来訪者の行動



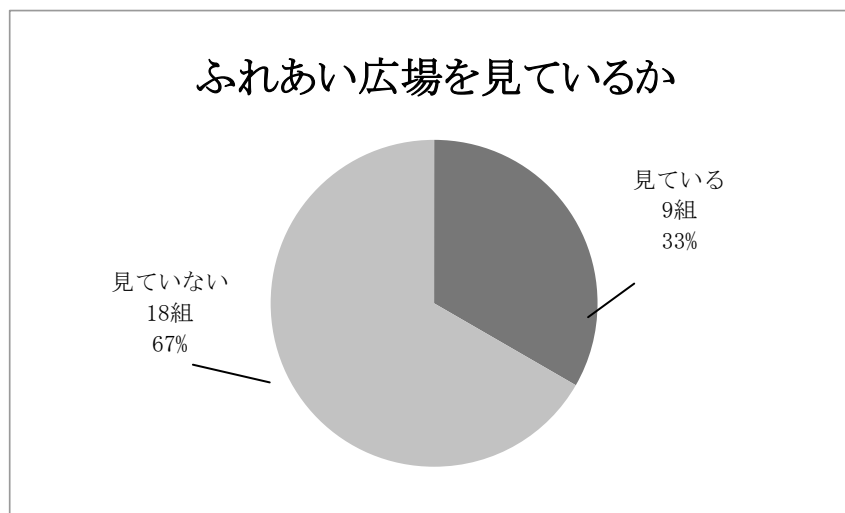
下町まつりの来訪者が実際に行った行動は上記のようであった。1 日目の飲食では、さつまいもスティックの試食が 2 組、おにぎり、コロケ、リンゴジュース、遊びソースせんべい、わたあめを購入していた。2 日目はスタンプラリー参加賞の芋煮、さつまいもスティック、飴細工、たい焼き、わたあめ、権現汁、ビールを購入していた。2 日間で共通しているのがさつまいもスティックである。購入した人と試食だけの人に分かれているが、これは今回のスタート地点から近いところに出店していたことが関係し

ているのではないかと考える。

フリーマーケットでは衣服やぬいぐるみを購入していた。フリーマーケットを見ながら歩く人が多かったが実際に購入する人は少ない結果となった。

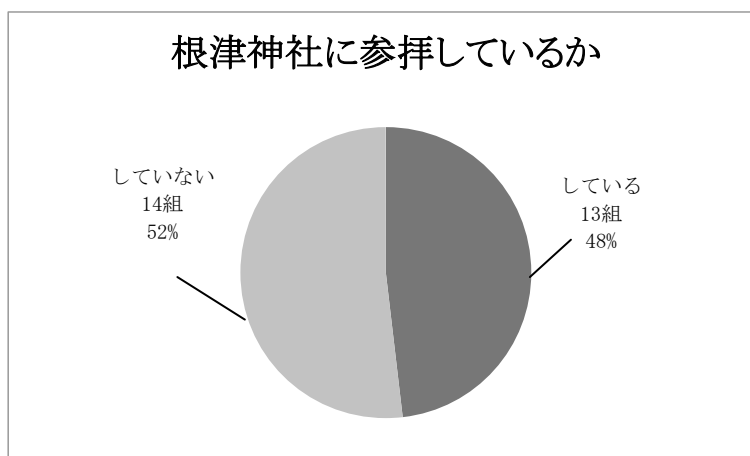
子ども広場では吹き矢もゲーム、フリスビーのゲームに参加していた。1日目は13:00からふれあいひろばのゲームが開始だったため参加者が少なかったと考えられる。

(6) ふれあいひろばを見ているか



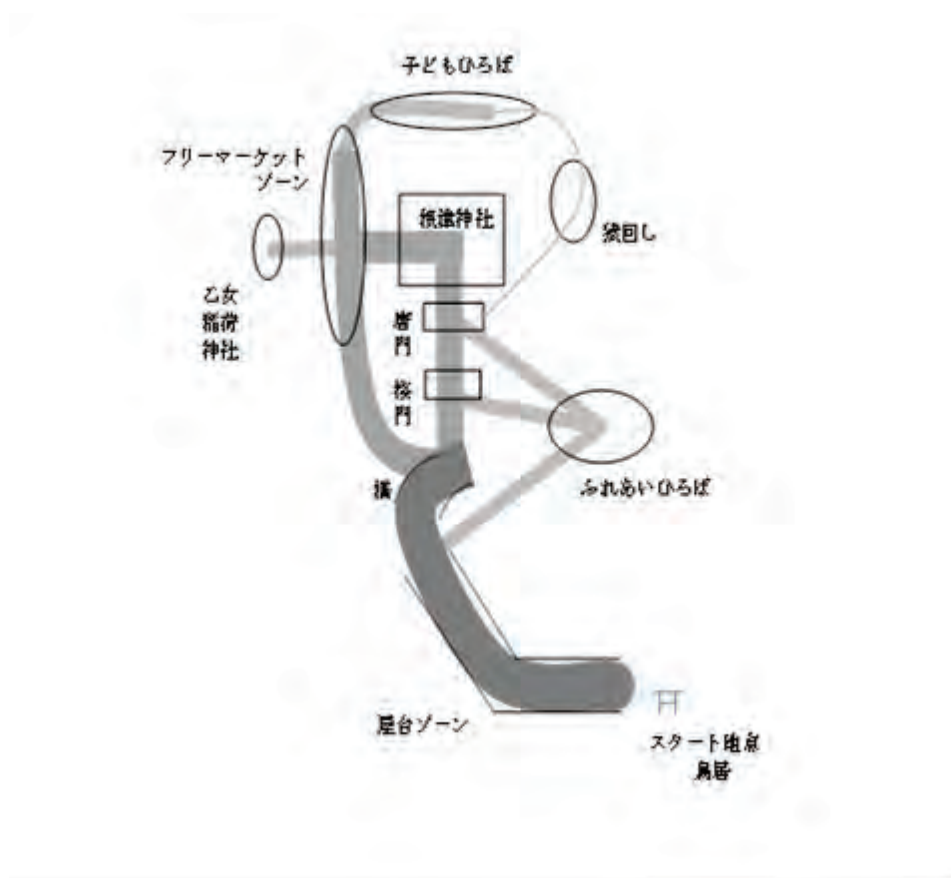
ふれあいひろばを見ているグループが9組で33%となり半数以上の人々がふれあいひろばでの催し物を見ていないことがわかる。また、ふれあいひろばを見ている人は、1日目は鼓笛隊、和太鼓、ゆるキャラ、小学生の吹奏楽を見ていた。2日目は根津やよいおんど会、バナナたたき売り、日本大道芸、ブラスバンドを見ていた。ふれあいひろばは参加する人の関係者（親族や知人）が応援に見ていると予想していたが、たまたまやっていて見ている人も見受けられた。

(7) 根津神社を参拝しているか



根津神社を参拝しているグループは13組で48%と約半数の人々が根津神社に参拝していることがわかる。来訪者の中には参拝だけを目的とする人もいた。このことから根津神社が生活の一部として地元住民に根付いていると言えるのではないかと考える。

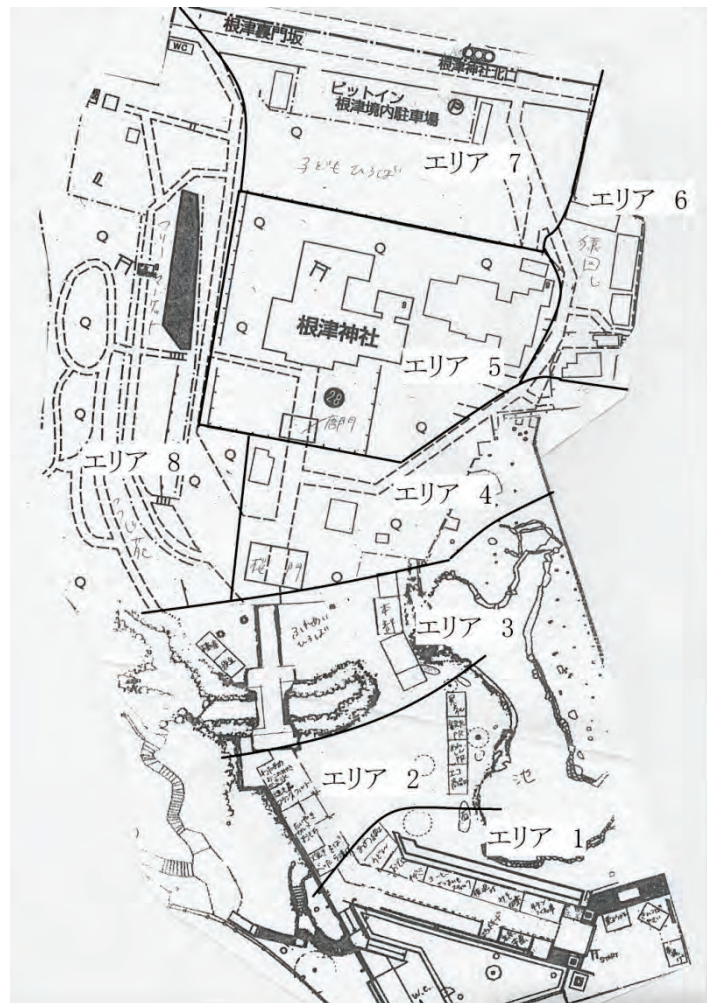
(8) 利用動線と訪れたエリア



上図は下町まつりメイン会場の根津神社での行動を利用率の高かった順に太線で示した図である。スタート地点である鳥居から入ってすぐの屋台ゾーンが最も利用率が高かったことがわかる。これはスタート地点から奥に進む道が 1 つしかないため利用率が高かったと考えられる。我々の来訪者追跡調査の方法として、前述の通り、メイン会場への来訪者のうち、東海林ゼミの屋台から一番近い鳥居をスタート地点として、追跡し利用実態を記録し、また、来訪者が根津神社内から出た時点で追跡を終了した。そのため、「東海林ゼミの屋台から一番近い鳥居」から来訪者追跡調査をスタートした関係で、利用率が最も高い結果となったことが考えられる。そして、その他に屋台ゾーンの利用率が多い要因として考えられるのは、出店が集中していること、そして「東海林ゼミの屋台から一番近い鳥居」を出口とする来訪者の割合が多いためである。

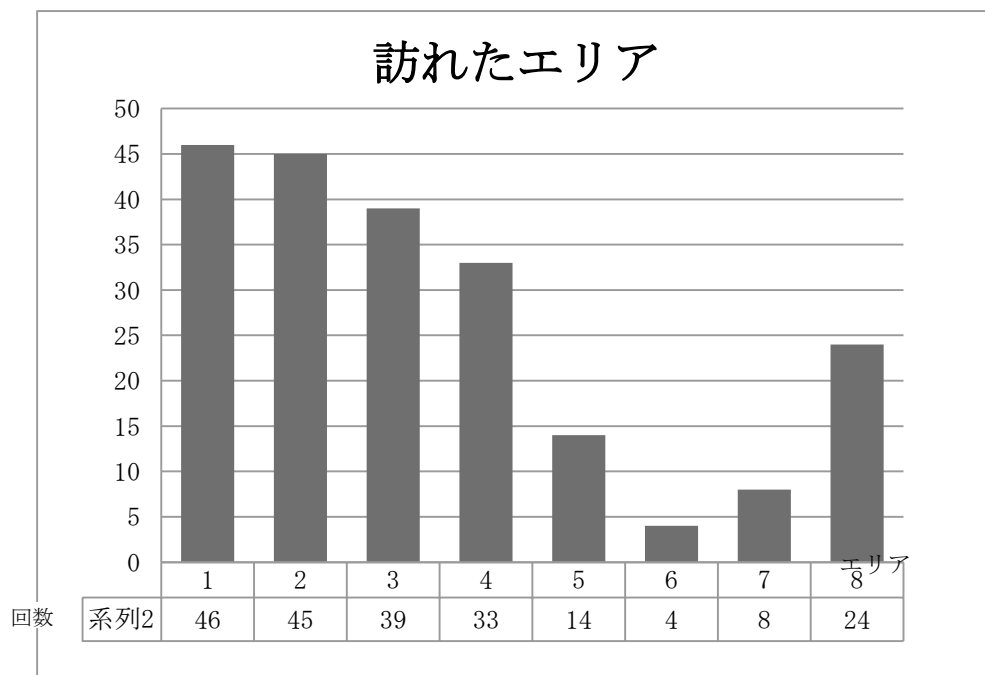
屋台ゾーンよりも奥へ行くためには、橋を渡るか直接ふれあいひろばに行く選択肢があるが、橋を渡り進む対象者が圧倒的に多かった。これは屋台ゾーンが終わるとすぐ目の前に橋があるため、そのまま道なりに進んだと考えられる。

次に利用率の高かったのはフリーマーケットと根津神社本殿へ向かう道である。それに次いで、乙女稲荷神社、子どもひろばに向かう道である。猿回しのエリアは最も利用率が低かった。これは唐門から見ても、子どもひろばから見てもその奥がどのように繋がっているかわかりづらいことが原因ではないかと考える。



上図は来訪者追跡調査で実際に使用した「下町まつりメイン会場である根津神社」の地図である。この地図を8つのエリアに区分した。エリア1はスタート地点から屋台ゾーンの途中である少し曲がり角となっているところまでである。エリア2は屋台ゾーンの続きから橋の手前までである。エリア3は橋からふれあいひろばを含み桜門の手前までである。エリア4は桜門から唐門までである。エリア5は唐門から根津神社本殿である。エリア6は猿回しのエリアである。エリア7は子どもひろばである。エリア8は乙女稲荷神社を含むフリーマーケットのエリアである。

そしてこのエリア区分を元に、来訪者が訪れたエリアの回数をグラフにまとめた。



先ほどの結果からもわかるように、スタート地点である東海林ゼミの屋台から一番近い鳥居を有するエリア 1 から来訪者追跡調査をスタートした関係で、エリア 1 を訪れた回数が最も多い結果となったことが考えられる。そして、その他にエリア 1、2 の来訪回数が多い要因として考えられるのは、出店が集中していること、そして「東海林ゼミの屋台から一番近い鳥居」を出口とする来訪者が多いためである。また、エリア 6 の来訪者が最も少ないということが分かった。

このグラフから、今回の来訪者追跡調査の対象者 27 組に対して、エリア 1～4 は来訪中に何度も訪れる来訪者が多いのに対して、エリア 5～8 は来訪中に 1 度しか訪れない、または 1 度も訪れない来訪者が多いという結果となった。

また、このグラフの回数は述べ数である。

5. シャトルバスの利用とまとめ

今回はシャトルバスの利用についてのアンケート項目について分析していきたい。

まずはシャトルバスの認知についてだが、シャトルバスを知っている人が 38%、知らない人が 48%、未回答が 14%となっている。そして、シャトルバスは無料で利用できるという事を知っているかを尋ねたところ、知っている人が 31%、知らない人が 55%、未回答が 14%となった。ここから言える事は、まずはシャトルバスの認知度は約 4 割で、無料だと知っている人も約 3 割はいるという事が分かる。

次にシャトルバスの利用度についてだが、シャトルバスを利用している人が 5%、利用していない人が 81%、未回答が 14%となっている。ここから分かるのは、シャトルバスを無料だと約 3 割の方が知っていても、実際はたった 5%しか利用されていない事が分かる。確かにまだまだシャトルバスの認知度は低い、次のステップとして、知っている人にどうやってシャトルバスを利用してもらえるかを考える時が来ているかもしれない。

今回はなぜシャトルバスを知っていても利用しないのか等の質問を用意していなかった為、実態が分からなかったが、今後シャトルバスの認知・利用を推進していく為に調べる事が必要になってくると思われる。

ここで今後のシャトルバスの認知・利用を促進していく上での改善案を挙げていきたい。改善案としてはシャトルバスの認知度を今よりも上げる必要があるため、広報宣伝の強化をすることを提案する。例えば、シャトルバスのポスターを作りお祭りが始まる前から掲示をすることやバス停をよりわかりやすくすることなどが挙げられる。

一つずつみていくと、ポスターは下町まつりを何で知ったかという質問の際、14%という結果であった。全体の 1 割強の値ではあるが、少しでも多くの広報宣伝をすべきであり、シャトルバス専用のポスターを下町まつりのポスターを隣に掲示することで効果があると考ええる。また若者はパソコンやスマートフォンの普及によりインターネットを使う人が多いという点からインターネット上でポスター配信を従来と同じようにホームページにて宣伝を行う。

もう一つはバス停についてである。これは停留所の載った大きな地図を案内所やスタンプラリーの受付テントの辺りに配置したら良いと考えた。そのようにすることでよりバス停の場所をわかりやすくしスタンプラリーの交通手段としても気軽に利用してもらえる。地図には時刻表とバスの走行経路を記載して、下町まつりに訪れた人が時間に合わせて行動できるようにする。他にも走行経路がサブ会場の近くにあることからそれらの場所も記載すれば、訪れた人にシャトルバスとサブ会場の両方を知ってもらえる。またシャトルバスを知っている人もこの地図を見て、今までよりも利用してくれるといえる。このように、広報宣伝をすることで、シャトルバスの認知・利用が増加し、さらにサブ会場により多くの人が訪れてくれると考える。

最後に下町まつりは地元の方々から愛されているお祭りである。実際に調査を行って今後も地域に根付いたお祭りとして継続していくためにも、訪れてくれる人の利用実態をより把握できるような調査を実施していきたいと感じた。

9 期生対象 ゼミ説明会報告

第Ⅵ章. 9 期生対象 全体ゼミ説明会

日時：2014 年 10 月 21 日(火)

お昼休み

場所：1604 教室

前半は先生による東海林ゼミの活動の概要説明を行い、後半は 8 期生全員が前に出て、一言ずつ東海林ゼミの特徴や求める人材について新 3 年生に紹介した。また、この場で次週の個別ゼミ説明会の告知も行った。

●改善点

- ・事前に 8 期生内で発言内容について打ち合わせを行い、内容が被らないように簡潔に紹介するべきだった。
- ・ゼミ生の顔ぶれを知ることによってゼミ全体の雰囲気を知ることができるというメリットがあったが、時間的な制約も考え、全員ではなく各班の代表者がそれぞれの活動内容の特徴と東海林ゼミの雰囲気など、項目を決めて紹介すると良かった。

9 期生対象 個別ゼミ説明会

日時：平成 25 年 10 月 28 日(火)

14:40～17:50(4 限・5 限)

場所：5303・5304・5305・(※5306)教室

※控え室として使用

●実施方法

【事前準備】

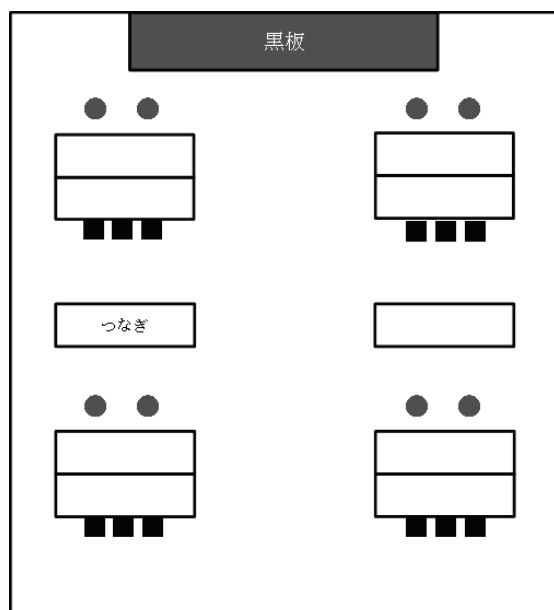
- ・活動写真×8 枚（各ブース分）
- ・評価シート× 人分
- ・報告書×8 冊（各ブース分）
- ・つなぎ×2 着（各部屋分）
- ・ポスター
- ・教室の確保



研究室と説明会場の教室の
ドアに、上のようなポスター
を貼り、告知と案内を行った。

【配置】

5303・5304・5305 教室



●=新4年生、■=新3年生

1 教室につき4つのブース(計8ブース)を作った。新4年生2人または3人に対し、新3年生3人で1グループをつくり、1グループ分でローテーションを回した。各ブースには、報告書、活動写真を用意した。

活動写真

代々木ゼミ合宿、おまつりの練習、白山まつり、北海道ゼミ合宿の写真をA4一枚にまとめたものを各ブースに用意した。

- ・広報班の内2人は説明会のブースには参加せず、全体への指揮、待機している新3年生のブースへの誘導を行った
 - ・新3年生が質問しやすいよう、去年と同様少人数のグループを作った
 - ・ゼミ活動の説明や質問への応答がしやすいよう、報告書、活動写真を各ブースに用意した
 - ・4限の時点で大勢来てしまったので、5限が空いている人には後ほど来てもらうよう対応した
- 各教室内に待機用の椅子を配置したものの、不足していたため、たまたま空いていた5306教室を待機室として使用した。その間、待機教室で簡単な質疑応答やつなぎの紹介をした

●改善点

- ・待機室を準備し、新3年生を待たせないようにする
- その際、ゼミ紹介ムービーなどを流したりして待機してもらうなどの工夫が必要
- ・評価シートを書く時間を十分にとることができなかったため、ローテーションを重視しすぎないようにする
 - ・予想より多くの人に来て対応できるよう、余裕をもった対策を行うべき

谷根千調査隊 プロジェクト報告

第Ⅶ章. 谷根千調査隊プロジェクト報告

今年度より始めた、日暮里駅のエキキュートと協力して行っているプロジェクト。
まず、初めに谷中千の対象地域を 6 ブロックに分けて、各ブロックを担当する 6 チームを編成した。
(4 年生 3 人、3 年生 3 人)

4 年生

- 1 徳田、三浦、金井、
- 2 吉野、會田、新井、
- 3 山村、一條、奥川、
- 4 山口、堀江、山田、
- 5 河上、上野、岡本、
- 6 坂元、今井、手塚、菅原

3 年生

- 野城、沖浦、平山
- 市島、久保、松本
- 井野口、高野、占部
- 大原、関根、壺岐
- 塚田、松井、丹澤
- 友部、小島、佐藤

谷中千の街歩きを行い、四半期ごとにテーマを決め、大学生の視点からテーマに該当する施設等を紹介していく。

【作業手順】

① テーマの設定

基本的には、ゼミ生内でテーマの案を出しエキキュート側と協議の上決定する。なお、エキキュートからテーマの提案を受ける場合もある。

- * 第一弾 歴史・文化施設
- * 第二段 坂

② 施設選び

各班、テーマに該当する施設をガイドブックやインターネット検索により、リストアップする。

③ 現地調査・説明資料作成

リストアップした施設に行き、写真撮影・現地調査を行う。そして各施設の説明コメントを考える。

※写真を撮るときの注意点

- ・ 全景を撮ること（施設の一部を撮影しても意味がない）



逆光や暗い写真



斜めに傾いている

④ 投票

現地調査により撮影した写真及びコメントを用い、東洋大生にプレゼンテーションを行い、投票をしてもらう。（東海林先生のある授業を履修している学生に対して）

⑤ 原稿提出

投票結果をもとに、1～10 位までの該当施設の写真・コメントを東海林先生に提出。

【坂のテーマの例】

1 位 おばけ階段（おばけかいだん）

○東京都文京区弥生 2 丁目

○登りと下りの段数が違う！という不思議な階段。

昔は、今よりも薄暗くて狭かったので「幽霊坂」と呼ばれることもあったようです。



⑥ 掲載候補施設に対する連絡調整

掲載施設に対して、エキュート側が、使用する写真&コメントを提示して、文書にて了解を得る。

⑦ 原稿の完成・掲示

★最終的にとりまとめる資料

- ・写真1点（どうしても絞り切れない場合は2点～3点） サイズは1MB以上。
- ・施設情報（施設名、読み、住所、利用可能時間、利用料）
- ・コメント（40字前後。短か過ぎても、長過ぎても不可）
- ・解説文（長目のもの。コメントの妥当性や修正等を考える時の検討資料となる）
- ・位置図（1位～10位の施設の1枚の地図にマーキング）



11月から掲示された歴史・文化施設のテーマ



感想

第 1 弾の歴史・文化施設の調査は初めてということもあり、写真の撮り方やコメントの書き方に戸惑い、何度も撮り直しと書き直しをした。自分達が作成したものが形となって、日暮里駅を利用している方々が私達の作成した MAP の前で立ち止まっている姿を見ると「作って良かった」「谷根千の良さを知って欲しい」という思いが強くなった。

今後も 8 期生と 9 期生の活動になって来るが、さらに魅力的な MAP と TOP10 を作成していきたい。

今後のテーマ

- ・老舗（雑貨・小物屋）
- ・新しいお店（雑貨・小物屋）



谷根千調査隊の地域紹介

東洋大学 (北町南校舎) 国際観光学部 (東洋村ビル)

女子大生がおすすめする谷根千の歴史・文化施設のランキング ベスト10

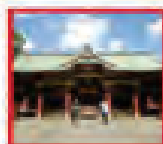


TOP10

谷根千調査隊の活動拠点

1位

根津神社

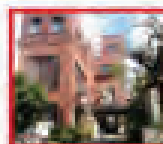


権現造りの社殿(国重要文化財)が見事。広々として緑が多く、森は約3,000 株ものつつじが咲く名所。

● C-3
☎ 03-3822-0753

2位

竹久夢二美術館



夢二が暮らしたことのある夢二の妻入道。大正ロマンが漂うセンセメンタルな世界を巡ったりと興味が尽きず。

● C-2 ☎ 03-5829-0462
○ 10:00 - 17:00 (入館は 16:30 まで)
● 月曜休 (祝日の場合は翌火曜休)・年末年始など
● 一般 500 円 / 大学生 300 円 / 中学生・小学生 400 円

3位

全生庵



明治時代に山崎屋敷が建立したお寺。明治時代に造られた客室の大名跡・三連半内納の箇所があり、夏の湯殿園コレクションも有名。

● B-2
☎ 03-3822-4715

4位

SCAI THE BATHHOUSE

スカイ・ザ・バスの



先鋭アーティストを紹介するギャラリー。約200年の歴史を持つ「銭湯」を改装した空間とのギャップがユニーク。

● B-1
☎ 03-3822-1944 ○ 12:00 - 18:00
● 日曜休・月曜休・祝日 観覧無料 ● 500 円

5位

森鷗外記念館



森鷗外の旧居跡に建てられた記念館。明治の大文豪の生涯が語ります。

● B-3 ☎ 03-3824-5511
○ 10:00-16:30 (入館 15:30 まで)
● 観覧 500 円・中学生 300 円・小学生 200 円
● 一般 300 円 (特別展は観覧により異なる)

6位

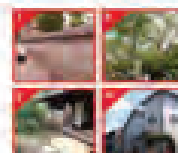
すぱーす小倉屋



大正時代の銭湯の土蔵(3階建)を利用したレトロ感たっぷりのギャラリー。

● B-1 ☎ 03-3824-5562
○ 10:30-16:30
● 月～金、年末年始 7～11月の月1回、7～9月の月2回開催
● 無料

- 7位 根津寺町地蔵堂 瓦を置けて遊んだ楽しい場(全長 30m)。江戸時代にタイムスリップしたような雰囲気。● B-2
- 8位 森中庭園 池・園路などの有名なお寺の古蹟がある開放的な空間。庭あふれるお庭のようなエリア。● B-1
- 9位 森中庭園地蔵堂 江戸時代にカッソーとむすび近代和風建築のお宝庫。● B-1
- 10位 根津神社 大正時代建築の、木色のレトロな外観。● C-2



「谷根千調査隊」とは？

東洋大学(文京区白根)で観光文化学を学ぶ女子大生による調査隊。

谷根千まちあるきが大好きでたまらないメンバー約40人が、見どころを把握！テーマごとに谷根千ならではの魅力をお伝えしていきます。

※調査方法：チームに分かれ、テーマにあう施設・場所をリストアップし、現地調査、写真やレポート、各チームがセレクトした結果を学内で報告。人気順順の上位10か所をご紹介します。

阿寒湖畔温泉 エコツアーに 関する調査報告

第Ⅷ章．阿寒湖畔温泉エコツアーに関する調査報告

1．調査目的及び調査方法

（１）調査目的及びテーマの限定

今回の調査は年々観光客数が減少している阿寒の観光振興の方策を、学生ならではの視点から考えるために行った。

調査を行うにあたっては、阿寒において観光客が年々減少していること。それに対して、新たに現在存在する観光資源を十分に活用することができるのかという点に疑問を持った。そこで阿寒に複数存在するエコツアーがどれだけ活用されているのかをテーマに調査を行うことにした。テーマ選択の理由は、現在注目されつつある観光形態であるエコツアーについての理解を深めたいと考えたことや、エコツアーを新たな観光資源として開拓していくためには何が必要なのかを実際に調査して提案してみたいと考えたからである。また、エコツアーの活用法に関する調査によって得られた知見は、他の観光地のエコツアーのあり方についても応用出来る可能性が高いためでもある。

調査を行う前に、私たちは阿寒のエコツアーにおける問題点を議論した。第一に、世間一般のエコツアーへの関心はどれほどなものなのかを調べたいと考えた。第二に、阿寒にはエコツアーを体験できる機会が多くあるが、認知度が低いのではないのかという問題点が挙げられた。

上記のことを踏まえて、阿寒におけるエコツアーの利用実態や認知度を調査することに決めた。複数の有名観光地が存在する北海道において、阿寒を訪れたいと考える観光客は何を目的に訪れているのか。その上で今後阿寒の観光目的としてエコツアーを確立させ、入込み客数を伸ばすことはできないかを検証すべく調査を行った。

（２）調査方法

調査は、次のとおり二つの項目に分けて行った。一つ目は、「エコツーリズムと北海道についてのアンケート」、二つ目は「観光客を対象とした阿寒のエコツアー利用実態調査」である。

①エコツアーと北海道の意識調査

阿寒のエコツアーについて調査をする前に、エコツアーは若者にとってどれほどの認知度があるのか。今まででエコツアーを体験したことがある人は、どのような機会にどのような種類のエコツアーを利用したことがあるのか。全体として、今後体験してみたいエコツアーの種類はどのようなものなのか。また、首都圏の若者は阿寒に魅力を感じているのかを調べた。ここで、対象を首都圏の若者にした理由は、これから多く旅行をする機会があるであろうという点と、これからの社会を担っていく若者にエコツアーの魅力を感じてもらい、体験することのきっかけになってもらいたいと考えたからである。

②観光客を対象とした阿寒のエコツアー利用実態調査

①ではエコツアー全般についての調査であったが、②では阿寒のエコツアーに絞り調査を行った。阿寒を訪れた観光客は何を目的に阿寒を訪れたのか。旅程にエコツアー体験は含まれていたのか。また体験した人には、体験してみて感じたこと。体験していない人にはなぜ体験しなかったのか等を調査した。上記から阿寒の観光地としての位置づけ、また、阿寒のエコツアーに対する認知度、満足度を測るために調査した。

③調査の概要

	エコツアーと北海道の意識調査	観光客を対象とした阿寒のエコツアー利用実態調査
目的	若者のエコツアーに対する関心度や、阿寒の認知度を調査	阿寒のエコツアーの利用実態や認知度はどれくらいなのかを調査
調査場所	Web アンケートにて 計 1 1 9 サンプル	阿寒湖畔にて 計 4 5 サンプル
調査項目	・被験者の属性 ・旅行の計画の仕方 ・エコツアーを利用したことがあるか ・どの場面で、どのエコツアーを体験したか	・被験者の属性 ・阿寒への訪問回数及び目的 ・エコツアーの利用有無 ・また、その理由
調査方法	アンケート調査	アンケート調査
実施体制	個人	個人

（２）阿寒湖畔温泉とは

①概要

阿寒湖畔温泉は北海道釧路市阿寒町にある阿寒湖畔の南側に湧き出た温泉であり、遊覧船乗り場を中心に、温泉街が形成されている。この温泉街は、ホテル・旅館をはじめ、阿寒の名物料理を提供する飲食店やアイヌ伝統の木彫り技術で製作された彫刻品やアクセサリーを販売するお土産屋が数多く立ち並んでおり、雰囲気のある温泉街である。西のはずれには、観光用のアイヌ部落「アイヌコタン」があり、アイヌの伝統文化も間近で楽しむことができる。また、温泉街の中には各ホテル、ビジターセンター、アイヌコタンなどを結ぶ無料の巡回バスである「まりむ号」が運行されている。

阿寒湖畔周辺には『日本百名山』である雌阿寒岳、雄阿寒岳があり登山も楽しめる。また、阿寒湖畔東側に位置する阿寒湖畔エコミュージアムセンターでは阿寒の自然・生息する動物や生い立ちについて学べ、水槽には特別天然記念物であるマリモが展示されており、遊覧船でチェウルイ島に上陸する以外の方法で、マリモを鑑賞することができる。



②歴史

阿寒では、8000～5000年前の縄文早期の土器が出土しており、そのころから先住民族であるアイヌ民族が住んでいたことがわかっている。この温泉も発見当初はアイヌの人々が利用していた。旅館ができたのは明治時代になってからであり、この温泉街が、観光拠点として発展し始めたのは1934年の阿寒国立公園が指定されてからである。現在では外国人観光客の姿も見られる観光地となっている。

③観光資源

ア. アイヌ文化

阿寒湖畔温泉街にある「アイヌコタン」では、昔からのアイヌの人々の生活や伝統文化を学ぶことが可能である。アイヌシアターイコロではアイヌの生活が学べるアイヌ生活記念館とともに、古式舞踊・人形劇・イオマンテの火まつりの上演が行われ、アイヌの歴史と伝統を学ぶことができる。アイヌコタン内の飲食店ではアイヌ料理が楽しめ、お土産屋には1つ1つ手で彫られた、アイヌの伝承に登場する小人であるコロボックルの木彫り人形をはじめとした、彫刻品やアクセサリーが豊富に売られている。



▲アイヌシアターイコロ



▲コロボックルの木彫り人形

イ. 温泉

阿寒湖温泉街には旅館やホテルが約30軒ある。ほとんどの宿泊施設が阿寒湖に面しているため、部屋や温泉からは自然に溢れた景色を楽しむことができる。また、この温泉街では露天風呂の他にも各所で手湯や足湯を楽しむことができる。温泉の泉質は単純泉、硫黄化水素泉 38～85度で、神経痛、冷え性、疲労回復、リウマチ、慢性消化器病、痔疾などによいとされている。

ウ. 食

温泉街の飲食店では、保存食である「ポツチェイモ」や肉や魚のたたきである「チ・タタ・プ」などの様々なアイヌ料理が食べることができる。また、近年では北海道に生息する阿寒産のエゾシカを使用した「阿寒やきとり丼」も阿寒湖温泉のご当地グルメとして登場した。阿寒湖温泉にある「パン・デ・パン」などで売られている「雄阿寒シュー」と「雌阿寒シュー」は阿寒湖の近くにある2つの山である「雄阿寒岳(おあかんだけ)」「雌阿寒岳(めあかんだけ)」をイメージし作られ、斬新な双子シュークリームが誕生した。



▲アイヌシアターイコロ



▲コロボックルの木彫り人形

エ. 自然

阿寒湖は全域が阿寒国立公園に含まれ、北海道で 5 番目に大きい淡水湖である。周囲はエゾマツ・トドマツなどの深い森に覆われており、周辺には標高 1370mの雄阿寒岳、標高 1499mで活火山である雌阿寒がそびえ立っている。また、雌阿寒岳の噴火によりできた堰止湖で、アイヌ語で「年老いた沼」あるいは「大きな沼」の意味をもつオンネトーもあり、阿寒では湖・火山・森など多くの自然を堪能することができる。空気も澄んでおり、絶景を見ながらの散歩も非常に心地がいい。



▲雄阿寒岳



▲オンネトー

オ. レジャー

阿寒湖畔では充実した自然を利用した様々なレジャーを楽しめる。人気のアメマスやワカサギ釣りの他に、湖ではマリモを観賞するためにチュウルイ島へ向かう遊覧船やモーターボート、カナディアンカヌーなどを体験することができる。雄阿寒岳・雌阿寒岳では、登山コースも整備されているため、初心者でも安心して大自然を眺めながら、登山を楽しむことができる。その他にも、夏季はキャンプやバーベキュー、冬季はスキーやスノーボードなど四季ごとに様々なレジャーを楽しむことが可能である。



▲カヌー



▲遊覧船

(3) 調査結果

①若者に対するエコツアーの経験、関心度の調査

ア. 被験者の属性

主に大学生の若者を中心とした男女 117 名。

イ. アンケートの概要

以下のアンケート項目に沿って、Web 上でアンケート調査を行った。

エコツーリズムについてのアンケート

問 1. あなたの性別をお答えください。

・男性 ・女性

問 2. 年齢をお答えください。

・ 10 代 ・ 20~25 歳 ・ 26~30 歳 ・ 31~35 歳 ・ 36~40 歳 ・ それ以上

問 3. 旅行はどのように企画されますか

・旅行会社のツアーを利用 ・個人でプランを立てる・その他()

問 4. あなたはエコツアーを体験したことはありますか？

※エコツアーについては問 5 の選択肢を参照してください。

・ 個人旅行で経験がある ・ 旅行会社のツアーで経験がある

・ 修学旅行での経験がある ・ ない ・ その他()

問 5. 問 4 の質問で「個人旅行での経験がある」と答えた方にお聞きします。どのような種類のエコツアーを体験しましたか？

*以下の項目から複数お答えください。

ハイキング サイクリング 登山 森林浴 野生生物観察
キャンプ スターウォッチング 川遊び 釣り
ラフティング カヌー ボート スキューバダイビング
農業・林業体験 ゴルフ その他()

問 6. 問 4 の質問で「旅行会社のツアーでの経験がある」と答えた方にお聞きます。

どのような種類のエコツアーを体験しましたか？

*以下の項目から複数お答えください。

ハイキング サイクリング 登山 森林浴
野生生物観察 キャンプ スターウォッチング 川遊び
釣り ラフティング カヌー ボート
スキューバダイビング 農業・林業体験
ゴルフ その他()

問 7. 問 4 の質問で「修学旅行での経験がある」と答えた方にお聞きます。

どのような種類のエコツアーを体験しましたか？

*以下の項目から複数お答えください。

ハイキング サイクリング 登山 森林浴
野生生物観察 キャンプ スターウォッチング 川遊び
釣り ラフティング カヌー ボート
スキューバダイビング 農業・林業体験
ゴルフ その他()

問 8. 今後やってみたいエコツアーの種類を教えてください。

*以下の項目から複数お答えください。

ハイキング サイクリング 登山 森林浴
野生生物観察 キャンプ スターウォッチング 川遊び
釣り ラフティング カヌー ボート
スキューバダイビング 農業・林業体験
ゴルフ その他()

問 9 北海道に行ったら訪れてみたい地域を教えてください。

*3 項目までお答えください。

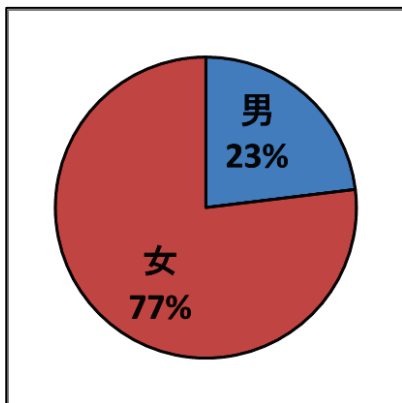
・札幌 ・函館 ・旭川 ・釧路 ・阿寒
・十勝 ・日高 ・夕張 ・小樽
・知床 ・網走 ・その他()

図：アンケート項目

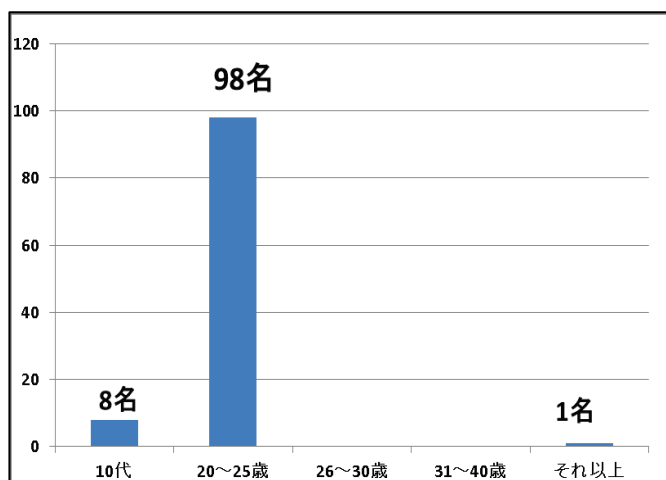
ウ. アンケート結果

i) 被験者の性別割合

男	女
27人	90人



ii) 被験者年代

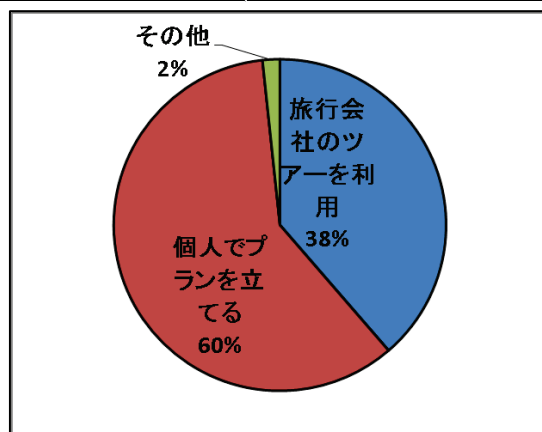


※多くの若者の被験者を集めることができたが、男女比が偏ってしまったことが反省点である。

iii) 旅行の企画方法

<目的>現代の若者たちはどういった方法で旅行計画を立てているのかを明らかにする

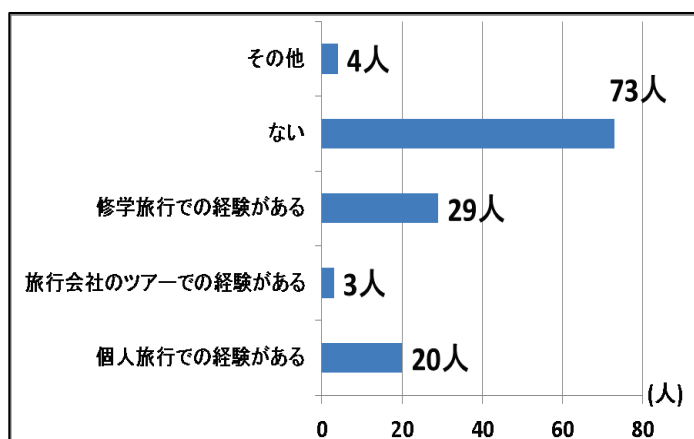
旅行会社のツアーを利用	個人でプランを立てる	その他
46人	71人	2人



<考察>個人でプランを立てる若者が6割を超える結果となったことから、現代の若者たちは自由な旅行を比較的に好んでいるということが分かった。

iv) エコツアーの体験の有無

<目的>若者のエコツアー経験を調査するため

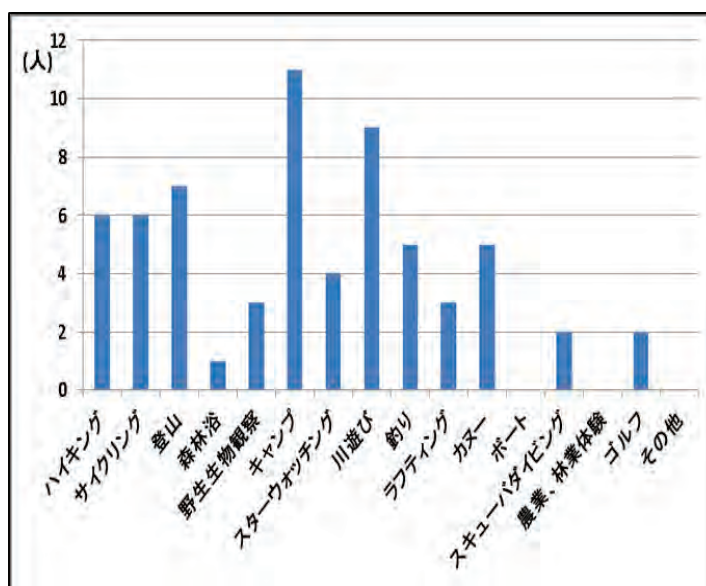


<考察>117 人中 73 人がエコツアーの経験がないと答えたことから、現代の若者は「エコツアーの経験が薄い」「エコツアーの魅力を知らない」という人が多いということが分かった。

v) 個人旅行でエコツアーを経験した人の体験したエコツアーの種類

<目的>個人旅行において選択される人気なエコツアーは何かを明らかにする

ハイキング	6 人
サイクリング	6 人
登山	7 人
森林浴	1 人
野生生物観察	3 人
キャンプ	11 人
スターウォッチング	4 人
川遊び	9 人
釣り	5 人
ラフティング	3 人
カヌー	5 人
ボート	0 人
スキューバダイビング	2 人
農業、林業体験	0 人
ゴルフ	2 人
その他	0 人

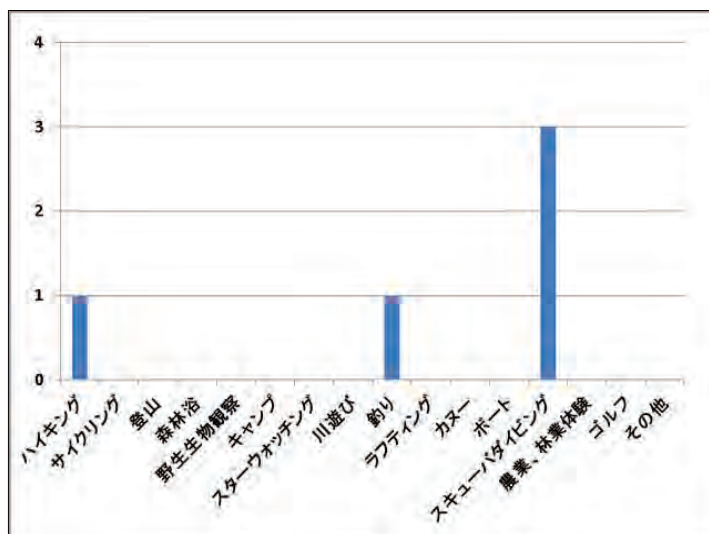


<考察>個人旅行で一番選ばれているのはキャンプ、続いて川遊び・登山・サイクリングとなることから、個人の自由度の高いもの、比較的プランの立てやすいもの選ばれていることが分かった。

vi) 旅行会社のツアーでエコツアーを経験した人の体験したエコツアーの種類

<目的>旅行会社のツアーにおいて選択される人気なエコツアーは何かを明らかにする

ハイキング	1 人
サイクリング	0 人
登山	0 人
森林浴	0 人
野生生物観察	0 人
キャンプ	0 人
スターウォッチング	0 人
川遊び	0 人
釣り	1 人
ラフティング	0 人
カヌー	0 人
ボート	0 人
スキューバダイビング	3 人
農業、林業体験	0 人
ゴルフ	0 人
その他	0 人

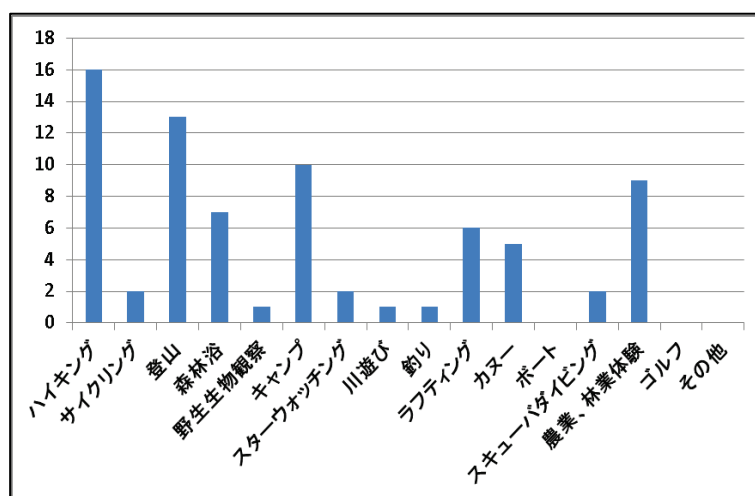


<考察>回答数が少ないためはっきりと言い難いが、旅行会社で企画されるエコツアーの種類は限られているのではないかとということが分かった。

vii) 修学旅行でのエコツアーを経験した人の体験したエコツアーの種類

<目的>修学旅行エコツアーの企画を行う時に選ばれるエコツアーの種類は何か明らかにする

ハイキング	16 人
サイクリング	2 人
登山	13 人
森林浴	7 人
野生生物観察	1 人
キャンプ	10 人
スターウォッチング	2 人
川遊び	1 人
釣り	1 人
ラフティング	6 人
カヌー	5 人
ボート	0 人
スキューバダイビング	2 人
農業、林業体験	9 人
ゴルフ	0 人
その他	0 人

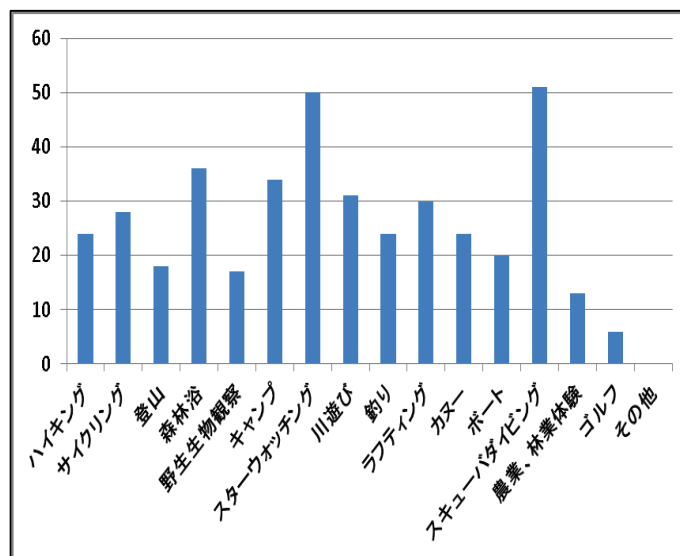


<考察>修学旅行でエコツアーを企画される際に選ばれやすい種類はハイキング・登山・キャンプなど集団で実行が可能なものであるということがこの結果から分かった。

viii) 今後体験してみたいと思うエコツアー

<目的>若者が興味を抱くエコツアーの種類は何かを明らかにするため

ハイキング	24 人
サイクリング	28 人
登山	18 人
森林浴	36 人
野生生物観察	17 人
キャンプ	34 人
スターウォッチング	50 人
川遊び	31 人
釣り	24 人
ラフティング	30 人
カヌー	24 人
ボート	20 人
スキューバダイビング	51 人
農業、林業体験	13 人
ゴルフ	6 人
その他	0 人

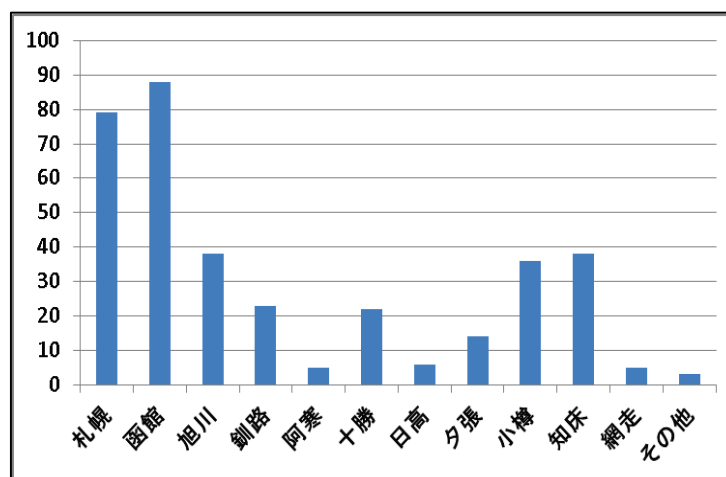


<考察>スキューバダイビング・スターウォッチングが被験者の 5 割近くから選ばれている。特にスターウォッチングはあまり聞きなれないため興味を抱いたのではないかと予測される。

ix) 北海道に行ったら訪れてみたい地域

<目的>若者は阿寒に興味を抱いているのか、訪れたいと思うのかの調査

札幌	79 人
函館	88 人
旭川	38 人
釧路	23 人
阿寒	5 人
十勝	22 人
日高	6 人
夕張	14 人
小樽	36 人
知床	38 人
網走	5 人
その他	3 人



<考察>札幌・函館が人気となっていることから若者は観光資源が豊富な地域を好むことが分かった。また、阿寒に訪れたい人は5人しかなく、若者は阿寒に対する興味が薄いということが分かった。

ア. まとめ

調査の結果、若者のエコツアーの経験率は低い、「問8の今後やってみたいと思うエコツアー」という項目の回答数が117人被験者いる中で、406もの回答を得ていることから(複数回答可)、エコツアーへの関心は比較的高いのではないかと考えられた。

今までのエコツアーの経験についての調査を主に行ったが、エコツアーの選択は、旅行形態によって大きく左右されていることが明らかとなった。そのため、エコツアーを観光振興の売りに出すには、どんな旅行形態にも合わせられるエコツアーの種類を用意することが必要ではないと言える。

最後に、「北海道で行ってみたい地域」という項目を作り、阿寒の認知度関心度を図ってみたが、予想していたよりも低い結果となった。阿寒にも魅力的な観光資源は存在するので、いかにしてそれを若者たちに向けて発信していくかを考えていくことが必要であると感じられた。

(1) アンケートの概要

- 1 あなたの性別をお答えください。
(男性・女性)
- 2 あなたの年代をお答えください。
(10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代・90代)
- 3 今回のご旅行はどなたといらっしゃいましたか？
(一人、家族、夫婦、友人、恋人、同僚、その他)
- 4 阿寒に来られた目的を教えてください(複数回答)
(温泉・まりも鑑賞・文化体験・登山・その他[]))
- 5 阿寒での滞在期間は何日間ですか？
(日帰り、2日間、3日間、4日間以上)
- 6 阿寒への訪問は何回目ですか？
(初めて、2回目、3回目、4回目、5回目以上)
- 7 阿寒でエコツアーを体験しましたか？体験されたものに丸印を付けてください。
(ハイキング・サイクリング・登山・森林浴・野生生物観察・キャンプ・スターウォッチング・川遊び・釣り・ラフティング・カヌー・ボート・スキューバダイビング・農業、林業体験・ゴルフ・その他)
- 8 7で体験したことがある方にお聞きします。今回、そのエコツアー(種類)をどのように知りましたか？
(複数回答可)
(旅行会社、インターネット、雑誌、テレビ、広告、人から聞いた、その他[]))
- 9 7で体験したことがある方にお聞きします。今回、そのエコツアー(種類)を選んだ理由は何ですか？

150

10 7で体験したことがある方にお聞きます。楽しかったですか？

(非常に楽しかった、やや楽しかった、どちらでもない、ややつまらなかった、非常につまらなかった)

11 7で体験したことがある方にお聞きます。良かった点や、改善すべき点などについてのご意見やご要望がありましたらお聞かせください。

感想：_____

12 7で体験したことがある方にお聞きます。次に阿寒に来た時もエコツアーを利用したいと思いますか？

(利用したい、わからない、利用したくない)

13 7で体験したことがある方にお聞きます。今後、阿寒で体験してみたいエコツアーは何ですか？

(ハイキング・サイクリング・登山・森林浴・野生生物観察・キャンプ・スターウォッチング・川遊び・釣り・ラフティング・カヌー・ボート・スキューバダイビング・農業、林業体験・ゴルフ・その他
[])

14 7で体験したことがある方にお聞きます。エコツアーに関して費用負担(料金)はいくらまで許容できますか？

(1000 円未満、1000～2000 円、2000～3000 円、3000 円～4000 円、4000 円～5000 円、5000 円～6000 円、6000～7000 円、7000 円～8000 円、8000 円～9000 円、9000～10000 円、10000 円以上)

15 7で体験していないと回答された方にお聞きます。エコツアーを利用しなかった理由を教えてください？

(時間がなかったから・知らなかったから・大変そうだから・費用がたかいから

その他の理由：_____)

16 7で体験していないと回答された方にお聞きます。機会があればエコツアーを体験してみたいですか？

(ぜひとも利用してみたい、どちらかといえば利用してみたい、どちらでもない、あまり利用したくない、利用したくない)

理由_____

17 7で体験していないと回答された方にお聞きます。次に阿寒に来た時は、エコツアーを利用したいと思いますか？

(利用したい、わからない、利用したくない)

18 7で体験していないと回答された方にお聞きます。今後、阿寒で体験してみたいエコツアーは何ですか？

(ハイキング・サイクリング・登山・森林浴・野生生物観察・キャンプ・スターウォッチング・川遊び・釣り・ラフティング・カヌー・ボート・スキューバダイビング・農業、林業体験・ゴルフ・その他
[])

19 7で体験していないと回答された方にお聞きします。エコツアーに関して費用負担(料金)はいくらまで許容できますか？

(1000 円未満、1000～2000 円、2000～3000 円、3000 円～4000 円、4000 円～5000 円、5000 円～6000 円、6000～7000 円、7000 円～8000 円、8000 円～9000 円、9000～10000 円、10000 円以上)

20 阿寒湖温泉の観光客数を増やすためには、何が必要だと思われますか？

何か良いアイデアが有りましたら、ご自由にお答えください。

--

21 阿寒を訪れる前の印象と訪れた後の印象を教えてください

〈訪れる前〉

〈訪れた後〉

ご協力ありがとうございました！以上でアンケートは終わりです。
この後も、阿寒の旅をお楽しみください。

図：アンケート用紙

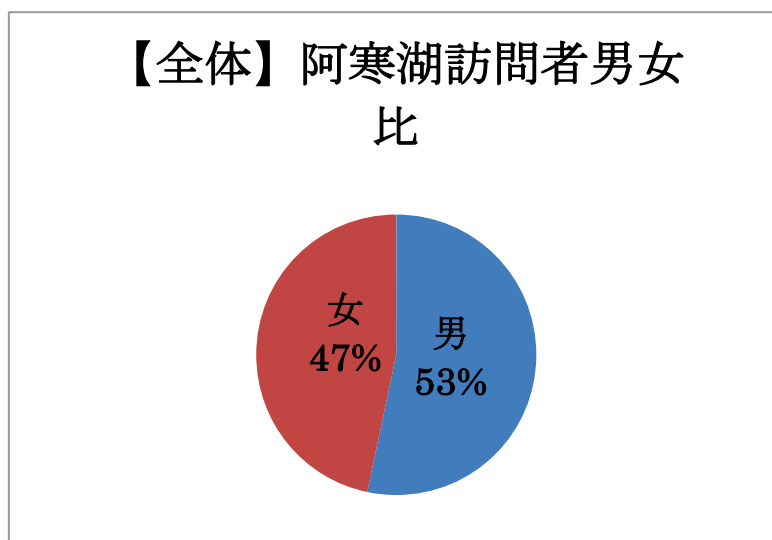
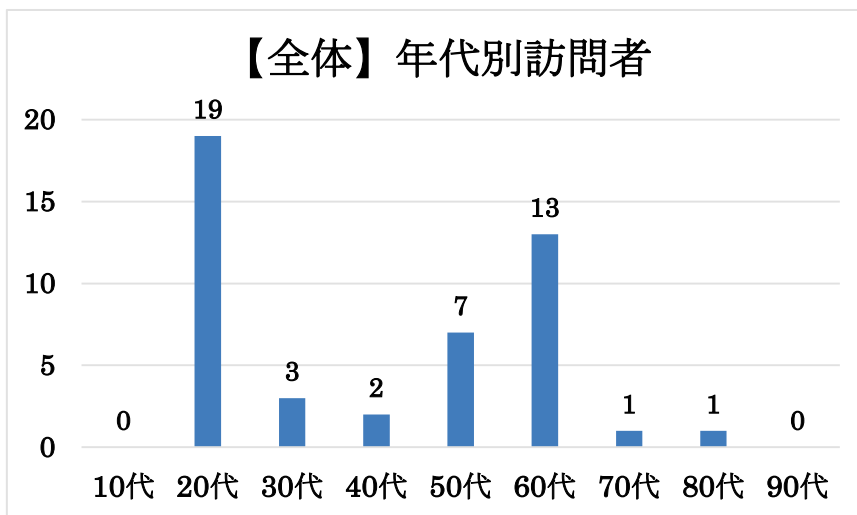
(2) アンケート結果

結果を述べるにあたり、以下のテーマに添って報告、考察していく。

- ①被験者属性について
- ②阿寒でエコツアーを体験した人と、未体験の人の違いについて
- ③阿寒でエコツアーを体験した人について
- ④阿寒でエコツアーを体験しなかった人について
- ⑤これからの展望

①被験者の属性

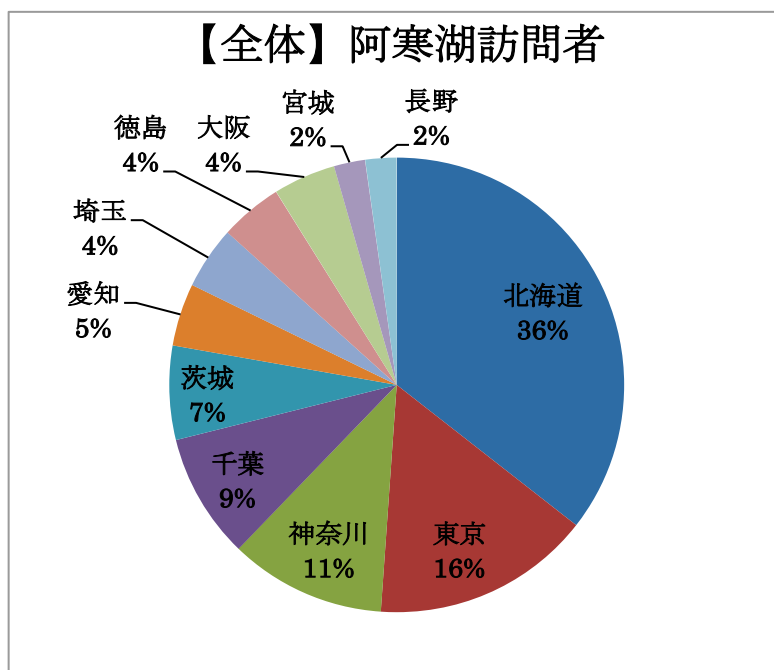
阿寒にて45人の観光客にアンケートを行った。以下は世代別の被験者数と男女比である。



阿寒に訪れていた観光客は、20代と60代の方が多いことがわかった。調査を実施した9月は大学が長期休暇中であることから20代の学生が旅行しやすい季節だったことや、定年退社された方の層が多かったのではないかな。

次図は被験者の出身地域についてのグラフである。

出身	人数
北海道	16 人
東京	7 人
神奈川	5 人
千葉	4 人
茨城	3 人
愛知	2 人
埼玉	2 人
徳島	2 人
大阪	2 人
宮城	1 人
長野	1 人



阿寒に訪れている観光客の約 2/3 が北海道出身であることがわかった。次に多いのが首都圏である。首都圏よりも北海道との距離が短い東北出身の観光客が少なかったことが興味深い。

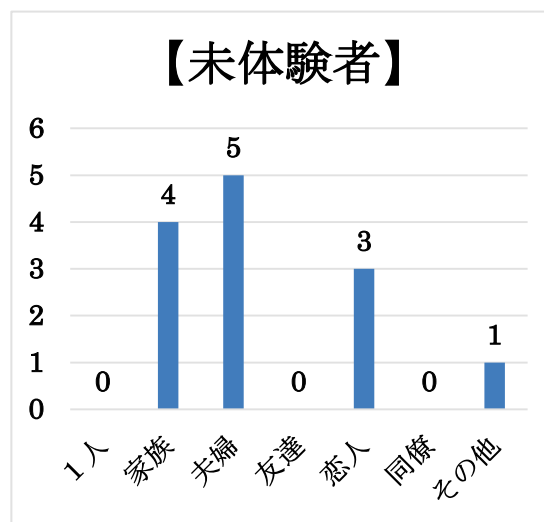
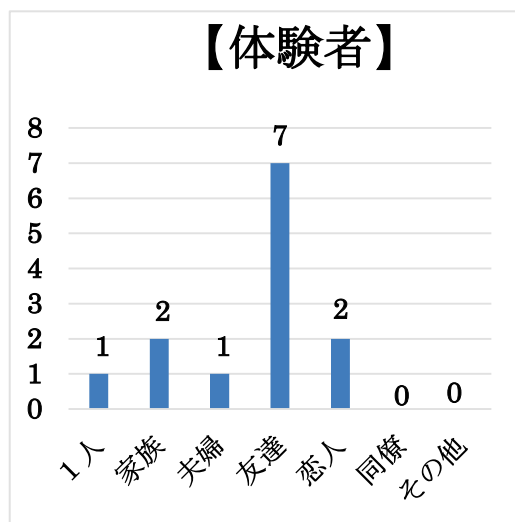
「エコツーリズムについてのアンケート」では、被験者の 98% が 20～25 歳であった。その中の「北海道に行ったら訪れてみたい地域を教えてください。」という項目では、阿寒は 12 の地域に対して、網走と並び最下位であったが、実際に阿寒に訪れていた 20 代の方の出身を見ると、北海道：4 人に対して、首都圏（東京、埼玉、神奈川、千葉、茨城）：12 人と、首都圏から訪れている人数が多いことがわかった。

②阿寒でエコツアーを体験した人と、未体験の人の違いについて

<エコツアーを体験した人>

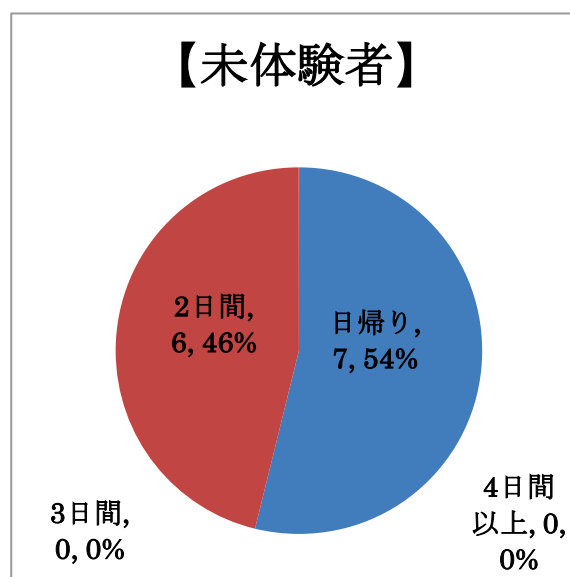
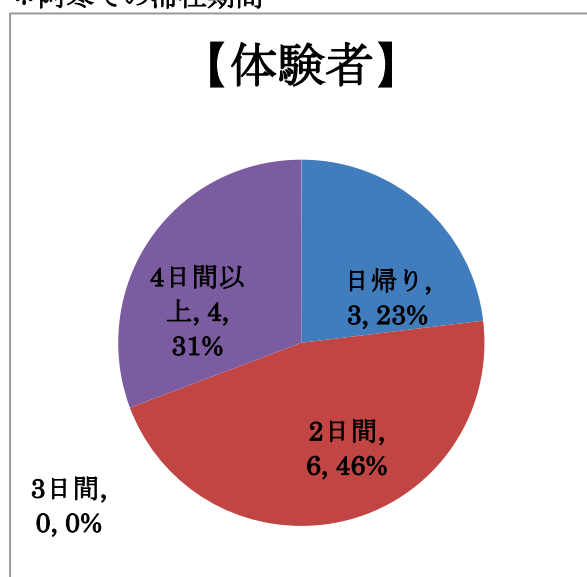
<エコツアーを体験していない人>

*同伴者について



エコツアーを体験した人は、友達と阿寒に訪れた人が7人であり最も多い同伴者のケースであることがわかった。一方体験していない人で友達と阿寒に訪れた方はいなかった。

*阿寒での滞在期間

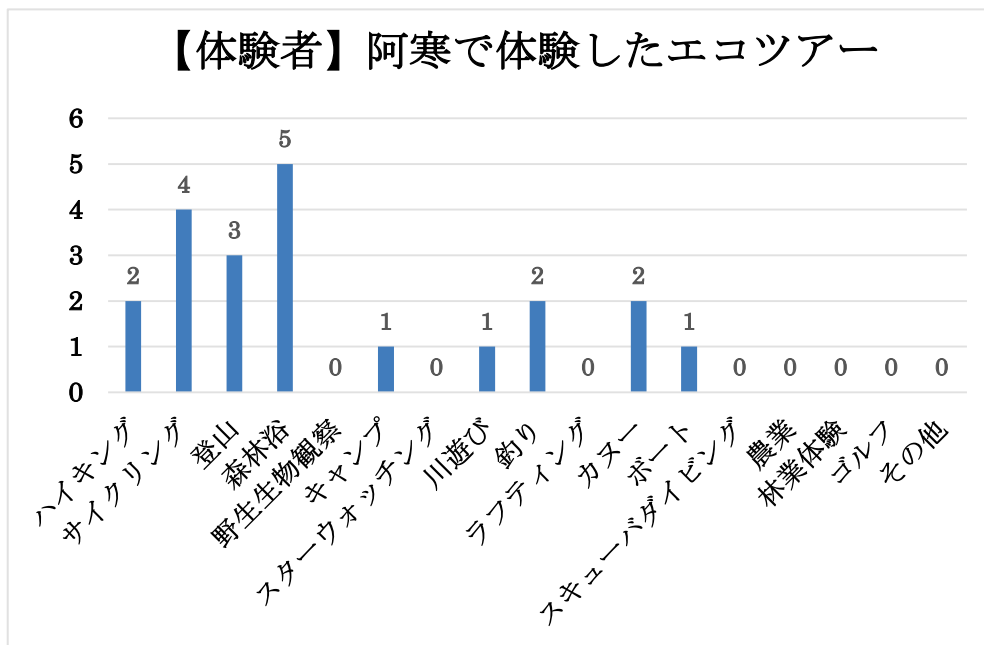


体験した人は阿寒での滞在期間が4日以上割合が31%なのに対して、体験していない人は滞在期間が2日未満で長期滞在していないことがわかる。

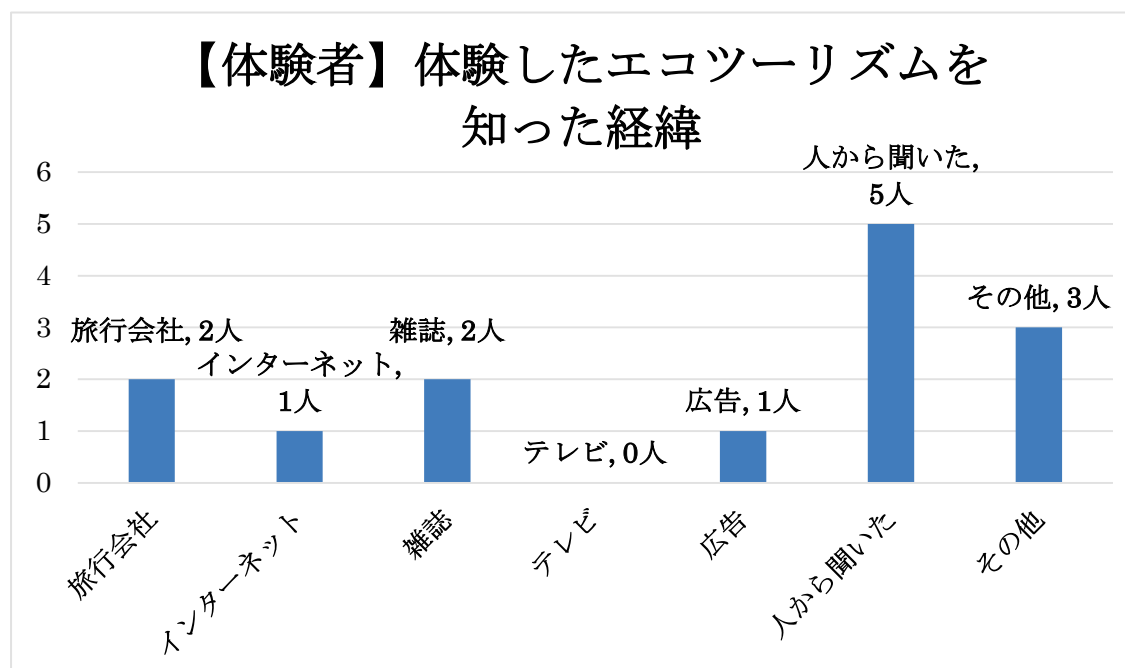
③阿寒でエコツアーを体験した人について

今回の調査で、阿寒でエコツアーを体験した人は45人中12人であった。

*阿寒で体験したエコツアーの種類

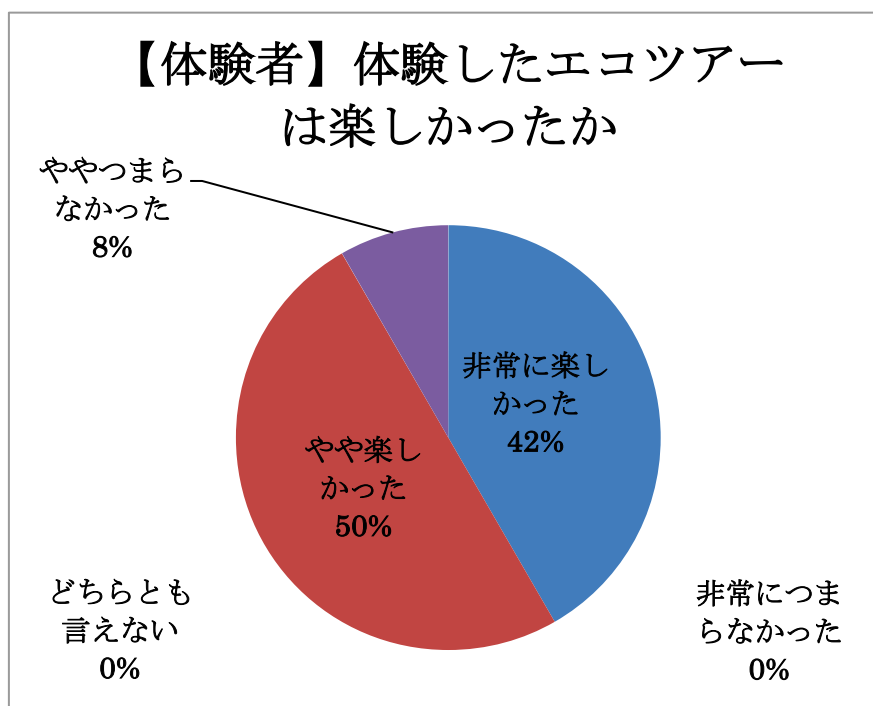


*体験したエコツーリズムを知った経緯



体験したエコツアーの種類は最も人数が多かったのが森林浴で5人、その後サイクリング4人、登山3人と続いた。また、体験したエコツアーを知った経緯で最も多かったのが「人から聞いた」という項目であった。

***体験したエコツアーは楽しかったか**



***体験したエコツアーで良かった点と改善点、ご意見**

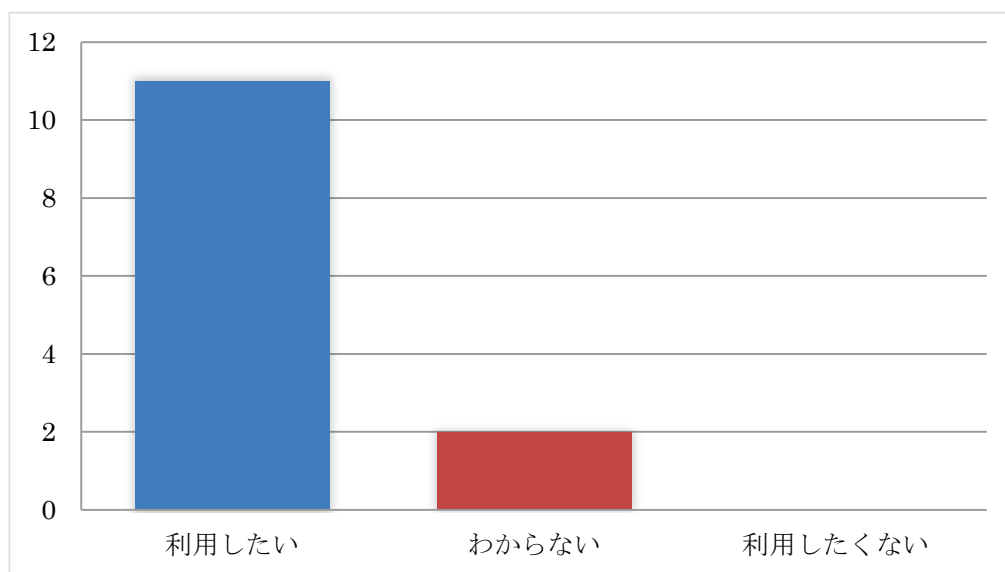
良かった点

- ・ ゆったり出来た
- ・ 自然を満喫出来た
- ・ キャンプ場の値段も安く、施設も立派だった
- ・ 雌阿寒岳登山基地として最高！

改善点、ご意見

- ・ トイレを綺麗にして欲しい

***次回も阿寒でエコツアーを体験したいか**



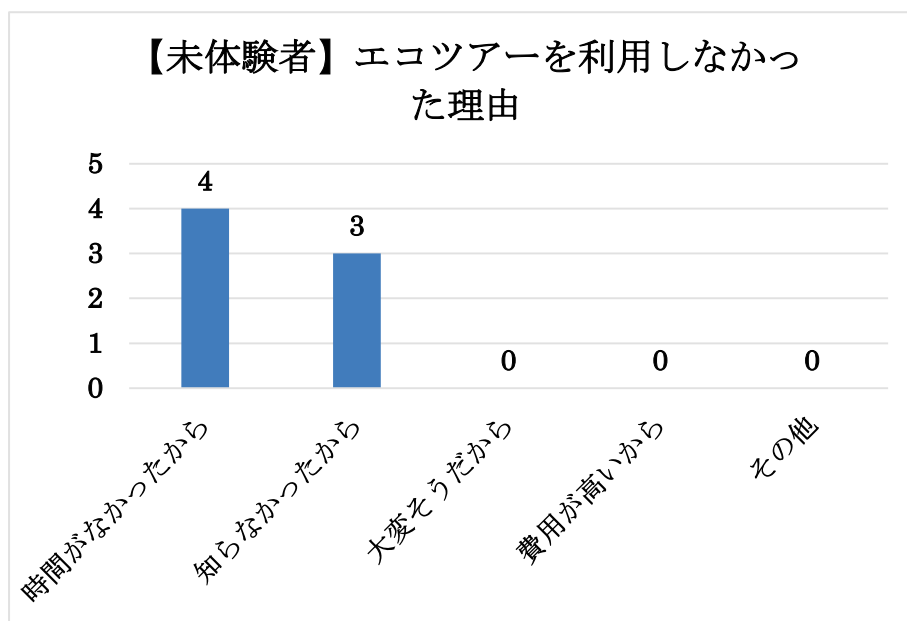
エコツアーを体験しての満足度は「非常に良かった」が42%、「やや楽しかった」が50%という結果が出ており、高い満足度と言える。

次回もまた、阿寒でエコツアーを利用したいかという質問では、85%の方が「利用したい」と回答した。

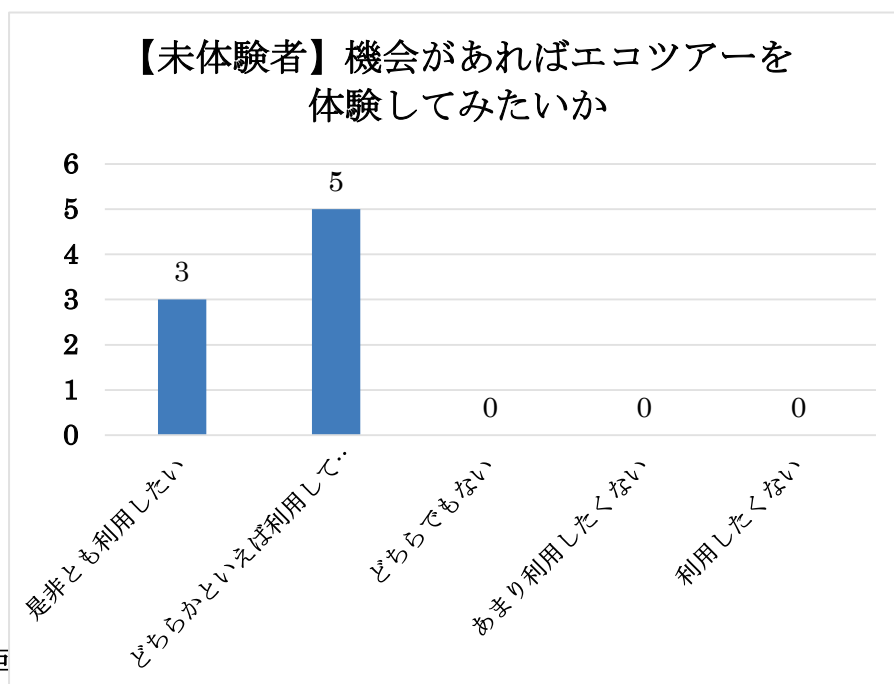
④阿寒でエコツアーを体験しなかった人について

今回の調査で、阿寒でエコツアーを体験した人は45人中33人であった。

*エコツアーを利用しなかった理由

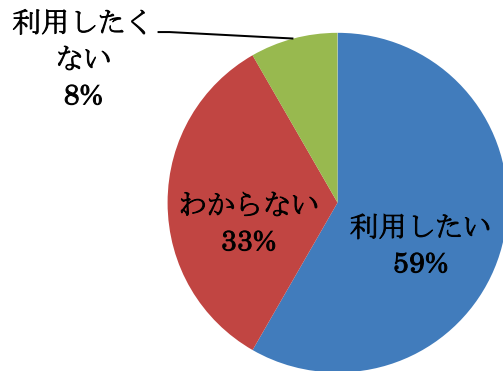


*機会があればエコツアーを体験してみたいか



*次頁

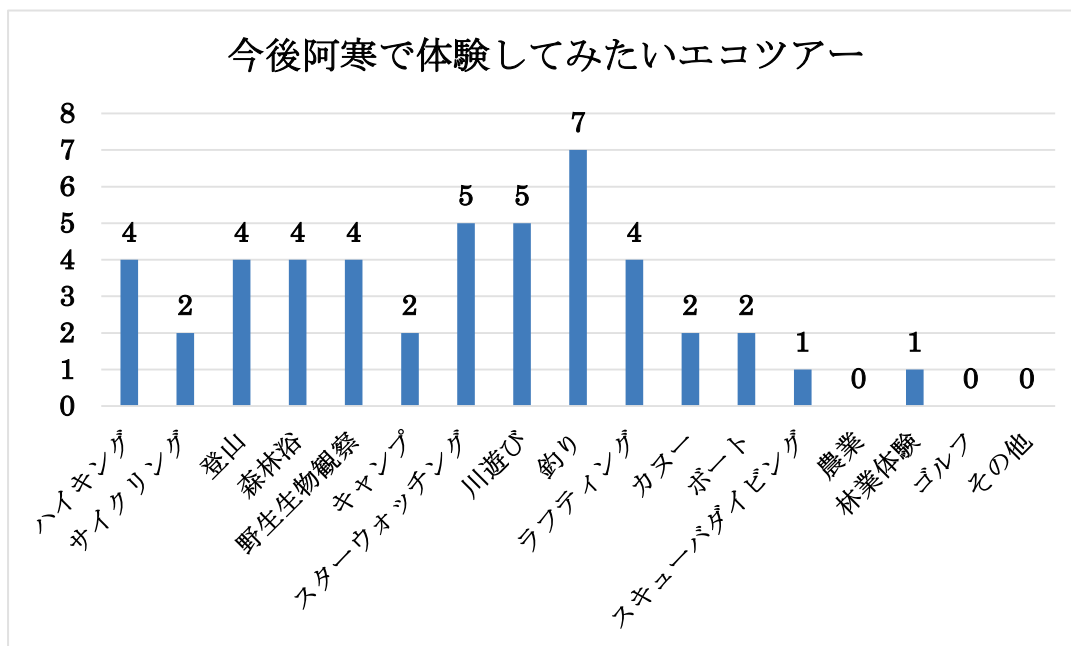
【未体験者】次回は阿寒でエコツアーを体験してみたいか



体験しなかった人が、エコツアーを利用しなかった理由は、「時間がなかったから」が4人。「知らなかったから」が3人であった。それに対して、機会があれば体験してみたいと考えている人の割合が多いことがわかった。「次回は阿寒でエコツアーを体験してみたいか」という質問には、約6割の方が「利用したい」と回答してくれた。

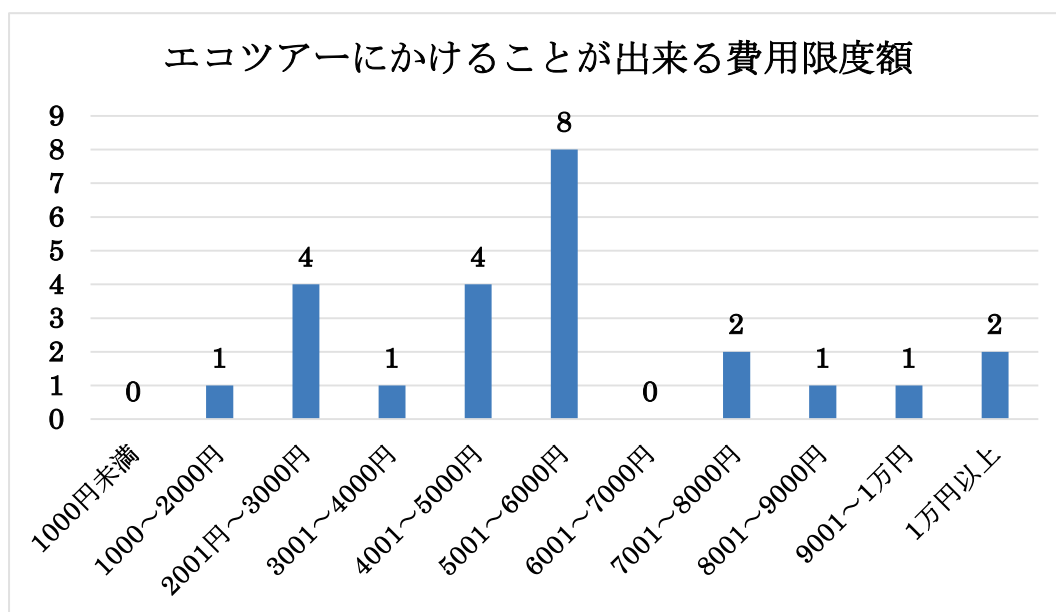
⑤これからの展望

*今後阿寒で体験してみたいエコツアー



今後阿寒で体験してみたいエコツアーは「釣り」が一番人気で、7票であった。全体的に票が入っており、エコツアーに関心がある人が多かった。その中でもあまりお金がかからないエコツアーが人気であった。

***エコツアーにかけることが出来る費用限度額**



票にはバラつきが見られるが、最も多かったのは「5001円～6000円」であった。この値代を基準に、それ以下しかお金を出すことができない人と、より高額な値段をかけてもいいと考えている人がいることがわかる。

3. 全体のまとめ

今回私たちは、阿寒にはエコツアーを体験できる資源が豊富だが、観光促進として活用されているのか。その疑問に伴い、阿寒でのエコツアーの認知度、利用実態を調査した。

まず、事前調査で首都圏在住の若者に調査をした結果、全体の57%の方が今までエコツアーを利用したことがないという結果であった。また、被験者全体の60%が旅行を計画する際は個人でプランを立てることが判明した。次に、エコツアーを体験したことがある人がどのような機会に体験したのかをのみで見えていくと、56%が修学旅行、38%が個人旅行、6%が旅行ツアーでの経験であることがわかった。

次に阿寒で行ったアンケートでは、エコツアーを利用した割合は、全体の27%であった。体験した人のエコツアーに対する満足度は非常に高い結果も出た。一方体験していない人の体験しなかった主な理由は、「時間がなかったから」と「知らなかったから」というものであった。しかし、今回は阿寒でエコツアーを利用してみたいかという質問では、「利用したい」が59%。「わからない」が33%であった。上記のことから、阿寒でのエコツアーはニーズがあるため市場開拓することが出来ると思う。市場開拓するためにはやはり認知度を上げることが大切であることがわかった。

そこでこのような結果になった原因、そして今後の対応策に分けて述べていこうと思う。

①原因

上記でも述べたが、阿寒でエコツアーを体験しなかった理由の一つに「知らなかったから」という意見が挙げられた。これは阿寒のエコツアーに関する情報発信の問題が上げられる。旅行をする際には、現地のことを調べ、どのような観光施設があるのかを知った上で訪れるケースが多いと思う。調べる際にエコツアーに目が止まらないということはやはり情報発信が弱いと言えるだろう。

事前調査の結果で半数以上が旅行のプランを考える際、個人でプランを考えるという結果が出ている。このことから、個人で調べる際に使うツールでの情報発信の充実を図るべきではないだろうか。

②今後の対応策

今後の情報発信の仕方に関しては、個人旅行の際に参考にするような旅行情報誌にエコツアーができる地として掲載することや、ホームページの充実などがあげられる。

また、事前調査から、エコツアーを体験する機会とし修学旅行を通しての体験が多かった。そのことから、修学旅行客を増やし、その際にエコツアーを体験して頂くということも出来ると思った。阿寒は、自然や文化体験ができる施設が豊富で、ホテルの数も多いことから修学旅行地として適当である。修学旅行であれば、一回で数百人の観光入り込み客数を獲得することもできる。また、一度修学旅行で訪れ、エコツアーを体験することにより、阿寒の認知度向上やエコツアーへの関心が高まると考える。当時学生であった修学旅行生が、数年後友達や子どもを連れた家族旅行の地として阿寒を検討してくれる可能性も増え、阿寒の観光活性化にも繋がる。このことから、今後修学旅行地として利用してもらうべく、旅行会社と連携深めることや、営業をしていくことを提案する。

第Ⅸ章. 一年間の活動を通して ゼミ生感想

占部 早苗

1年間のゼミ活動を通して貴重な経験をすることができました。お祭りではたい焼きの出店や調査班として利用実態調査を行うと同時に、準備や本番での仕事の大変さを実感しました。ゼミ合宿は天候に恵まれなかったものの阿寒湖の自然体験やアイヌ文化の魅力を知り、北海道で食べた食事はどれもおいしかったです。また谷根千調査隊では学生として企業と共に仕事ができることはこれから社会人になった時にプラスになると思います。これらの活動から地域振興はゼミ生同士や地域の方々のような周りの人々の協力がないと成り立たないと学びました。

友部 翼

今まで私は、学習といえば机の前に座って、教科書や参考書と向き合っていくものだと思っていました。しかし、この1年間の東海林ゼミでの活動を通して、それだけが学習の方法ではないのだと実感しました。お祭りでの出店事業や合宿を通して、地域文化や現地の人々と触れることで学べるものは、座学よりもリアリティに溢れ、面白いことばかりでした。「実際に体験してみることが、どれほど身になる学習で、自分の成長につながるか」を学ぶことができた1年間だったと思います。この1年間で東海林ゼミで過ごせたことは、私を大きく成長をさせてくれたと同時に、とても素敵な思い出になりました。

平山 千沙

おまつりへの参加では地域との関わりを持ちながら責任を持った行動ができた。また調査班として反省すべき個所があるので来年の活動では悔いの残らないようにしたい。北海道合宿では、あいにくの天候であったが、おいしい食べ物や澄んだ空気を味わうことができた。来年ももう一度行きたいと心から思う。さらに秋から始まったエキュートプロジェクト探り探りの状態ではあるが、来年度も引き続き行うので学んだ手法や反省を活かしながらより良いものが出来上がるように努力したい。残りの1年を同じ間違いを繰り返さないように皆と切磋琢磨しながら過ごしたい。

塚田 友麻

二つのお祭りを通して地域の方々のあたたかさを実感しました。練習ではできない在庫の調整や列の整理、売り切れ表示をどのタイミングで出すのかなど実際やってみないとわからないことが多くて戸惑いもありました。私たちには次がないので、9期生に私たちが経験したことを伝えていけたらいいと思います。広報として、つなぎは今までにない斬新なデザインを考え、またそれを形にすることができて良かったです。ガイドは思うように進まず何が作りたいのか迷走してしまい、作り上げることができなかったのが1番の反省点です。もう一度コンセプトを考え直し、来年良いガイドを配布できるよう頑張りたいです。東海林先生とゼミ生のみんなのおかげで心もお腹も大満足な一年間を過ごすことができました！

高野 有佳

約1年間のゼミ活動で多くのことを経験しましたが、やはりおまつりが1番印象に残っています。私は会計を担当していましたが、初めて実際にお客様を相手にする白山まつりでは、たいやきバックとの連携がうまくとれず混乱してしまいました。しかし根津・千駄木まつりではその反省を生かし、注文をとり、お渡しするまでスムーズでき、嬉しかったです。おまつりのために何度もみんなで練習会をし、本番を向かえて、地域の方々と交流でき、良い経験ができました。

沖浦 あずさ

ゼミに入ってから的一年間、主に広報班の仕事やカルメ焼きの在庫作りなど、こなさなければならない事が立て続けにあった。忙しさもあったが、ゼミ生と関わる時間がその分多くなり、とても楽しく充実した一年間を過ごすことができた。ただ楽しいだけではなく学ぶこともたくさんあり、今まで自分が考えていたところの一步踏み込んだところまで考えなければならぬと気づかされた。それに加えて臨機応変に対応ができるゼミ生に刺激を受ける場面が多い。恵まれたゼミ環境の中で、より自分自身を成長させたい。

野城 結有

4月からゼミ活動が始まり、自分に与えられた仕事を一生懸命こなしているうちに本当にあつという間に1年が経ってしまいました。いままで授業を受けていただけの大学生活とは打って変わって様々な仕事・体験をさせてもらいましたが、一番印象に残っているのは広報班で行ったつなぎ作成です。毎週研究室に残ってみんなで作業していたからこそ、完成したときの喜びはひとしおでした。協力して仕事を完成させる達成感や、どんな仕事でも工夫を凝らすことが大事だと東海林先生に教えていただいた1年間でした。

丹澤 彩

ゼミ合宿、お祭りなど数多くの活動を通して、実際にやってみることの大切さを感じました。ゼミ全体での活動、グループ活動など様々な形態の活動があったため、その中での自分の適所や欠けている部分を実感することが多々あり、これは、私自身にとって、社会に出ても役に立つ収穫になりました。思い返すと楽しいことばかりが浮かんでくるのが率直な感想です。このような有益な経験を、ゼミ生のみんなと、楽しみながら学ぶことができたことが、一年を通しての思い出です

壺岐 遥

東海林ゼミに入ってからたくさんの事を経験する事が出来ました。特に出店事業ではたい焼き・カルメ焼きの練習の練習から始まり、当日のお店の運営等を含めて自分が考えていた以上に様々な工程があり、その一つ一つから学べる事がたくさんありました。今後は谷根千調査隊プロジェクトに力を入れて頑張っていきたいと思います。

小島 菜緒

東海林ゼミで過ごしたこの一年間は非常に学びが多く、充実した一年間でした。白山まつり、根津・千駄木まつりでは、出店事業を行うにあたっての知識を実際の活動を通して学べたと同時に、仲間と助け合い何かをやり遂げることへの充実感を得ることができました。東海林ゼミでの活動は、あらゆる経験を積めるため、今の自分にとって貴重なものとなっています。この一年間の学びと経験は今後のゼミ活動、就職活動やその先へと活かしていけるのではないかと感じています。これからもこのゼミで、仲間達と一緒に沢山の経験を積み、成長につなげていきたいです

関根安紀

ゼミでの1年間で、様々な事業や調査にてそれぞれ違った役割を担当し、様々な側面から多くのことを考え、学び、経験しました。調査班では、お祭りのHPを更新するという経験が特に印象に残っています。たい焼きの焼き手としては、練習をたくさんして上達した嬉しさ、そして出店事業を通じて、地域に関わる重要さを感じました。様々な作業を行うにあたり責任を感じながらも、多くの経験により、充実した1年間となりました。阿寒湖畔での合宿では天候に恵まれませんでしたでしたが、みんなで過ごした5日間はとても楽しかったです。ひとつの土地に滞在し、その地を長く楽しむ観光の在り方に魅力を感じました。

市島 理沙子

白山祭り、下町祭りを出店して、最初は分からないことばかりで上手くいかないことがたくさんありましたが、回数を重ねていく度に反省点を生かしてよりスムーズに行うことが出来ました。また、このような出展事業をやることによって普段は考えないようなお店側の立場に立って様々なことを学ぶことが出来ました。そして1大イベントでもある北海道阿寒でのゼミ合宿では同じ場所に4泊5日するという初めての経験をしました。残念ながら天候が悪く予定通りには進まなかったけど、阿寒という地域や様々な人に触れることが出来た有意義な合宿になりました。

松井 拓哉

この1年を通して、私は「つながり」という言葉を大きく感じました。

まず行事についてです。私たちは2つのお祭りに参加しました。白山祭りと根津・千駄木下町祭りです。これらのお祭りで私たちは、地域との「かかわり」を感じることができました。たい焼きを仕分けする仕事を私自身していました関係上お客さんと面と向かって商売をしていたわけではありません。そのため、商売人として「かかわり」を大きく感じたはいません。ですが、自分が仕事を終え、他の屋台で焼きそばや焼き鳥を買ったときに、自分たちがお祭りに参加し、たい焼きを買っていただく。逆に、自分たちが買うという相互関係に気づきました。大きな「つながり」を感じたところです。仕事内容云々関係なく、自分がこのお祭りというコミュニティの中の一員になっていて、お祭りを構成し、相互購買によって活性化させている。とてもうれしく思いました。このお祭りの歴史の一員、ゼミの歴史の一員になれて光栄です。

久保 知可子

ゼミ活動を通して、お祭りでの出店事業をさせて頂きました。それに伴う様々な活動をさせて頂き刺激に溢れた1年間でした。今まで、学校と駅の行き来しかしておらず、地域に全く関心がなかった私でしたが、ゼミ活動を通して地元の方々のお話をお伺いしたり、お祭りでお店したことで多くの方と触れ合いました。そのことから若者と地域が関わり合うことでお祭りに活気をもたらすことができることを体験することができました。また、大学生も、大学内だけの活動では学べない地域活性化に対する地域の方の想いを感じることができました。座学だけでなく、実際に体験することで得られた価値は大きいのです。この経験をこれからの生活に活かしていきたいです。

佐藤 亮祐

ゼミ活動を通して根津・千駄木地域の人たちと関わり、その地域を知ることができたと思います。お祭りへの出店事業では、夏休み前から練習を始め、総務として念入りに準備したつもりでもミスが起こってしまい、本番を通してわかることも多くありました。白山まつりと下町まつり、2つのお祭りを通して、準備・実践・反省のプロセスがどれだけ大切かを知ることができ良い経験になりました。

自分にとって初めての北海道となった阿寒湖合宿では、天気には恵まれなかったものの、マリモやカヌーなど北海道の自然を体験でき、美味しいものを沢山食べられ、アイヌの文化と歴史を学ぶことができ、とても楽しかったです。ゼミのみんなとも仲を深められ良かったです。

大原 智祥

東海林ゼミの活動を通して感じた事は、何事もやってみないと分からないという事や、だからこそやってみようという事、そしてできなかった時にどう改善し、良くしていくかという工夫することの重要性、必要性を学びました。そして毎年、白山祭りや根津の下町祭りに参加できているのは歴代の東海林ゼミの先輩やそれを支えてくれる東海林先生、地域住民の方のおかげだと感じました。そのなかで地域のお祭りに参加しているのは東洋大学を背負っているという責任も同時に生まれていたことに気づかされました。自分の中でたくさんの経験ができ、とても楽しくゼミ活動が送れて嬉しく思います。ありがとうございました。

松本 友依子

私はこのゼミを通して、社会と関わる貴重な経験をさせていただくうえでの責任の重さを学ぶことができました。白山まつりや根津・千駄木下町まつり、またエキュートさんとの谷根千プロジェクトなど、もし失敗や不誠実な行為をしてしまった際多くの方に迷惑が掛ってしまうだけでなく、東洋大学の信用にも傷がついてしまう状況の中で、妥協なく、徹底した仕事をする大切さを実感しました。最後に私を成長させて下さった東海林先生、関わって下さった地域・企業の方々、ゼミの仲間や先輩方、本当にありがとうございました。

井野口 智子

白山・下町まつりは、一言で言えばとてもバタバタでした。私自身、準備の段階からとにかく目の前のことをこなすことで精一杯だったため、もっと様々な工夫が出来たなと悔しい思いでいっぱいです。

また、北海道合宿では旅行がいかに関天に左右されやすいを痛感しました。北海道に行き太陽の日差しを見たのは、帰りの釧路空港で飛行機を乗る直前のみでした。あの瞬間に見た日差しは忘れられません。

東海林ゼミに入ってから、今まで以上に物事をよく考えるようになりました。そして大学外の社会の方々と接する機会も増えました。これからも様々なことを吸収していきたいです。

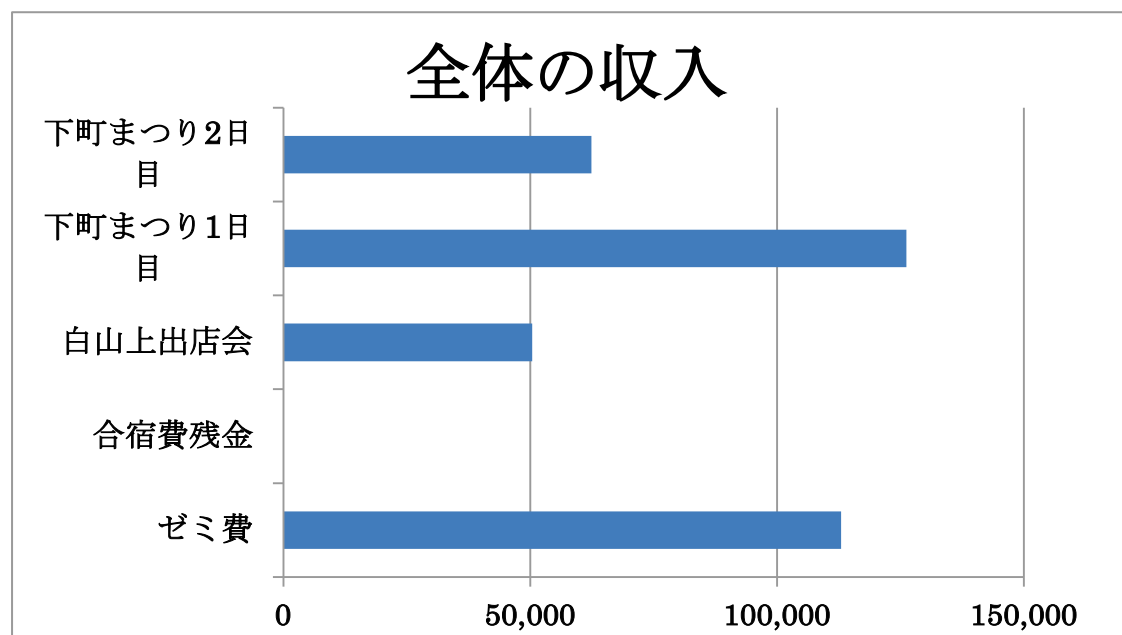
ゼミ活動会計報告

第X章. ゼミ活動会計報告

(1) 収入

平成 26 年 5 月～9 月、11 月（ゼミ生のみ）まで、毎月 1000 円をゼミ生 18 人と教授からゼミ費として合計、113,000 円を徴収した。また、出店事業の収入とゼミ合宿の残金は、以下の通りである。ゼミ合宿の残高は、天候が悪く様々な予定の変更が発生したために 0 円となった。

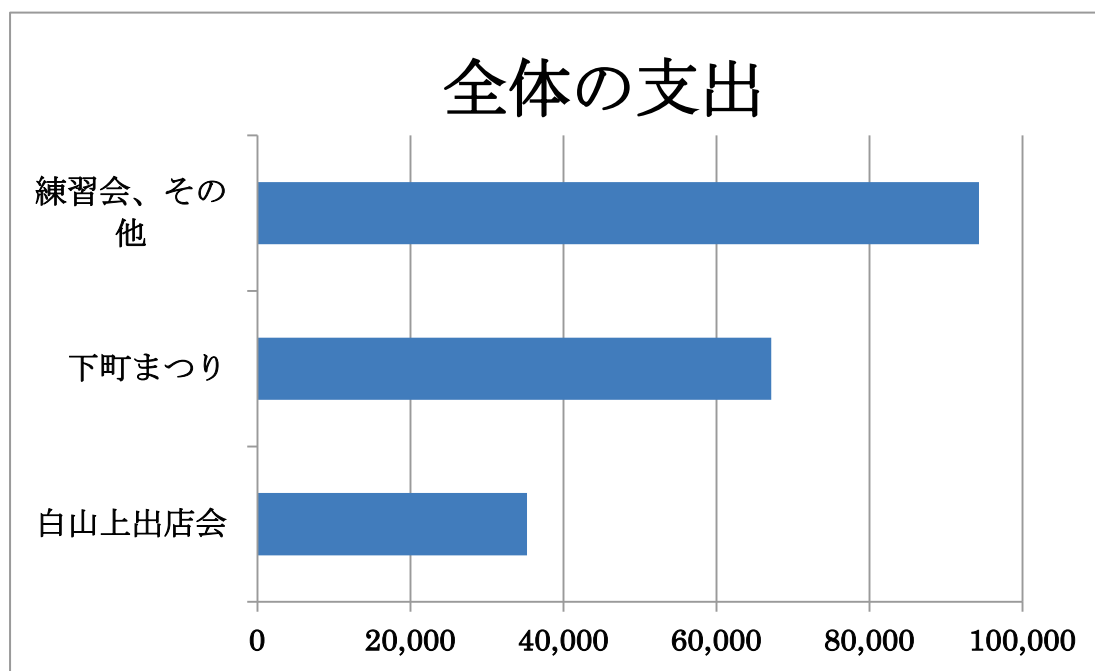
ゼミ費	113,000
合宿費残金	0
白山上出店会	50,380
下町まつり 1 日目	126,225
下町まつり 2 日目	62,380
合計	351,985



（２）支出

平成 26 年 5 月から 11 月までに練習会を計 11 回実施し、その他出費と合わせて 94,323 円の支出となった。各出店事業の支出は以下の通りである。全体の支出は 196,665 円となった。

白山上出店会	35,210
下町まつり	67,132
練習会、その他	94,323
合計	196,665



（３）収支

収支は、155,320 円と黒字となった。ゼミ生が負担した分（ゼミ費、合宿残高の合計 113,000 円）を差し引いても、42,320 円の黒字となった。

第X I 章. 編集後記

編集後記を書くにあたり、8期生になってから今日まで長かったようなあつという間だったような、不思議な感覚になっています。今まで以上に3・4年生合同の活動が多かったため、例年に比べ4年生にはゼミ活動内で非常にお世話になりました。そしてお祭りの事業出店を通して、歴代の先輩方がいかに地域の方とのつながりを築きあげてくれていたかを知り、私たちもそのことを後輩に伝える義務があると感じました。

今年度から、谷根千調査隊プロジェクトが開始し、下町まつりでお世話になった谷根千地域についてさらに愛着が湧きました。

この一年間東海林先生と7期生の先輩方には、文章では表しきれない程、様々な場面でお世話になりました。本当にありがとうございました。

8期生一同、大学1・2年生の頃に比べ、物事の考え方や大学に対する愛着を深めることが出来たのではないかと思います。今後も東海林先生の教えのもと、8期生らしく、そして新たな伸びしろを見出すために、活動していきましょう。

